

自動車運送事業用自動車事故統計年報
(平成19年、平成20年)



平成21年9月

国土交通省自動車交通局

目次

はじめに	1
1 自動車交通の輸送の安全にかかわる国の取組み	2
2 事業用自動車の重大事故	
1. 概要	4
(1) 重大事故発生状況の推移	5
(2) 事業用自動車台数及び走行キロ当たりの重大事故	
(ア) 事業用自動車1,000台当たり重大事故件数等の推移	6
(イ) 事業用自動車1億走行キロ当たり重大事故件数等の推移	7
2. 業態別の重大事故発生状況	
(1) 平成19年中の業態別の重大事故発生状況	8
(2) 平成20年中の業態別の重大事故発生状況	9
(3) 業態別重大事故件数の推移	10
(4) 業態別事業用自動車1億走行キロ当たり重大事故件数の推移	11
(5) 平成19年中の業態別死傷者内訳	12
(6) 平成20年中の業態別死傷者内訳	13
3. 事故種類別の重大事故発生状況	
(1) 平成19年中の重大事故発生状況	14
(2) 平成20年中の重大事故発生状況	16
4. 事故原因	
(1) 平成19年中の事故原因の大別	18
(2) 平成20年中の事故原因の大別	19
(3) 運転者の健康状態	21
(4) 車両故障に起因する重大事故	24
(5) 事故種類別重大事故発生状況	
(ア) 平成19年中の転覆、転落事故	28
(イ) 平成20年中の転覆、転落事故	30
(ウ) 火災事故	32
(エ) 踏切事故	33
(オ) 衝突事故	34
(カ) 死傷事故	37
(キ) 車内事故	40
5. 事故発生運転者	
(1) 事故発生運転者の年齢	41
(2) 事故発生運転者の経験年数	43
(3) 事故発生運転者の勤務状況	
(ア) 事故発生以前1ヶ月間の休日日数	45
(イ) 事故発生までの乗務距離	47
(ウ) 休日から事故までの勤務日数	49
(エ) 休日から事故日までの乗務距離の合計	51
6. 危険物等積載車両の重大事故	
(1) 危険物等積載車両の重大事故発生状況の推移	53
(2) 積載物品別重大事故	54
(3) 事故種類別重大事故	55
7. 高速道路等における重大事故発生状況	56
(1) 業態別重大事故件数	58
(2) 事故種類別重大事故発生状況	59
(3) 業態別死傷状況	62
(4) 乗務員に起因する重大事故発生状況	
(ア) 業態別発生状況	66
(イ) 事業の種類別発生状況	68
(ウ) 事故種類別発生状況	74

はじめに

平成20年に発生した全国の交通事故による死者数は、警察庁発表で5,155人となり、8年連続で減少しました。また、同発表による全交通事故の発生件数についても減少しており、11年ぶりに80万件を下回り766,147件となりました。この結果は、これまでの取組によって得られた成果であり、今後も継続していくことが求められています。

一方、事業用自動車の事故については、事故件数、死者数ともに、自家用自動車と比べると減少の歩みが遅いのが現状であります。輸送の安全の確保を使命とする自動車運送事業においては、事故件数並びに死傷者数を減少させるため、より踏み込んだ対策が必要であります。

本報告書は、平成19年、平成20年に発生した事業用自動車による重大事故であって、自動車事故報告規則に基づく報告があったものについてとりまとめたものです。重大事故の防止には、発生した事故の状況を正しく把握するとともに、その事故の背景にある要因を的確に分析する必要があります。自動車運送事業者は、輸送の安全の確保が最も重要であることを認識し、発生した事故の分析結果を踏まえた適切な措置を講じるとともに、同種の事故を防止するため、積極的に取組まなければなりません。

本報告書もその意味において、今後の事故防止対策に活用され、自動車運送事業における輸送の安全の確保が図られるよう切望するものです。

平成21年9月

国土交通省自動車交通局

1 自動車輸送の安全にかかわる国の取組み

(1) 事業用自動車総合安全プラン2009※1

交通安全対策については、現在、「第8次交通安全基本計画」に基づき政府全体で取組を進めているところでありますが、事業用自動車の事故状況をかんがみ、平成21年3月にソフト・ハード両面における安全対策を取りまとめ、「事業用自動車総合安全プラン2009」を策定しました。このプランでは、数値目標を掲げ、PDCAサイクルに沿って安全に関する取組を進めることとしており、必要な場合には新たな施策の検討を行います。

(2) 数値目標

「事業用自動車総合安全プラン2009」における事業用自動車の安全に関する数値目標は、次のとおりです。

○死者数半減（平成20年513人を10年後に250人、中間年である5年後には380人）

○人身事故件数（平成20年56,295件を10年後に3万件、中間年である5年後には4万3千件）

○飲酒運転ゼロ

(3) 目標達成のため当面講ずべき措置

「事業用自動車総合安全プラン2009」に基づき、自動車交通局では、事業用自動車の安全に関し、次の5つの観点から取組を進めます。

①安全体質の確立

②コンプライアンスの徹底

③飲酒運転の根絶

④IT・新技術の活用

⑤道路交通環境の改善

(4) 本プランのフォローアップ

本プランに掲げた目標を確実に達成するためには、PDCAサイクルに沿って定期的に・継続的にチェックを行う必要があります。このため、毎年、関係者間で施策の進捗状況、目標の達成状況等を確認するとともに、交通事故の要因分析も踏まえつつ、必要な場合には新たな施策の検討を行います。

事業用自動車総合安全プラン2009の概要

Plan

事業用自動車の事故削減目標の設定

- ・10年間で死者数半減（平成20年513人を10年後に250人）
- ・10年間で人身事故件数半減（平成20年5万6千件を10年後に3万件）
- ・飲酒運転ゼロ

Do

目標達成のため当面講ずべき措置

- | |
|--|
| 安全体質の確立 <ul style="list-style-type: none">・安全マネジメント評価を中小規模事業者にも拡大・メールマガジンの発信等による事故情報の共有・運転者の労働環境の改善 等 |
| コンプライアンスの徹底 <ul style="list-style-type: none">・監査要員のさらなる増員・行政処分の強化・処分逃れの防止 等 |
| 飲酒運転の根絶 <ul style="list-style-type: none">・アルコールチェッカーの義務付け・アルコール・インターロックの普及 等 |
| IT・新技術の活用 <ul style="list-style-type: none">・ASV技術の開発・普及・衝突被害軽減ブレーキの義務化の検討・ドラレコ、デジタコの一層の普及促進 等 |
| 道路交通環境の改善 <ul style="list-style-type: none">・交差点改良や歩道、中央帯の整備、信号器改良・防護柵等の整備・生活道路への通過交通を抑制する対策 等 |

PDCA
サイクル

Check

Act

フォローアップ会議を設置

毎年、関係者間で施策の進捗状況、
目標の達成状況等を確認

新たな施策を検討

※1 参考：事業用自動車に係る総合的安全対策検討委員会「事業用自動車総合安全プラン2009」（平成21年3月）
詳しくは、<http://www.mlit.go.jp/jidosha/anken/news/ankenplan2009.html>をご覧ください。

2 事業用自動車の重大事故

1. 概 要

平成 20 年中に自動車事故報告規則（昭和 26 年運輸省令第 104 号）に基づき報告があった事業用自動車の重大事故の件数及び死傷状況等は、表 1-1 に示すとおりであり、事故件数は、5,280 件で、これらによる人身被害は死者数 959 人、負傷者数 3,317 人で、前年と比較して死者数が 127 人減少、重傷者については 228 人減少している。

また、事故件数 5,280 件のうち、乗務員に起因する事故と推測されるものは 1,925 件であり、前年と比較して 213 件減少している。

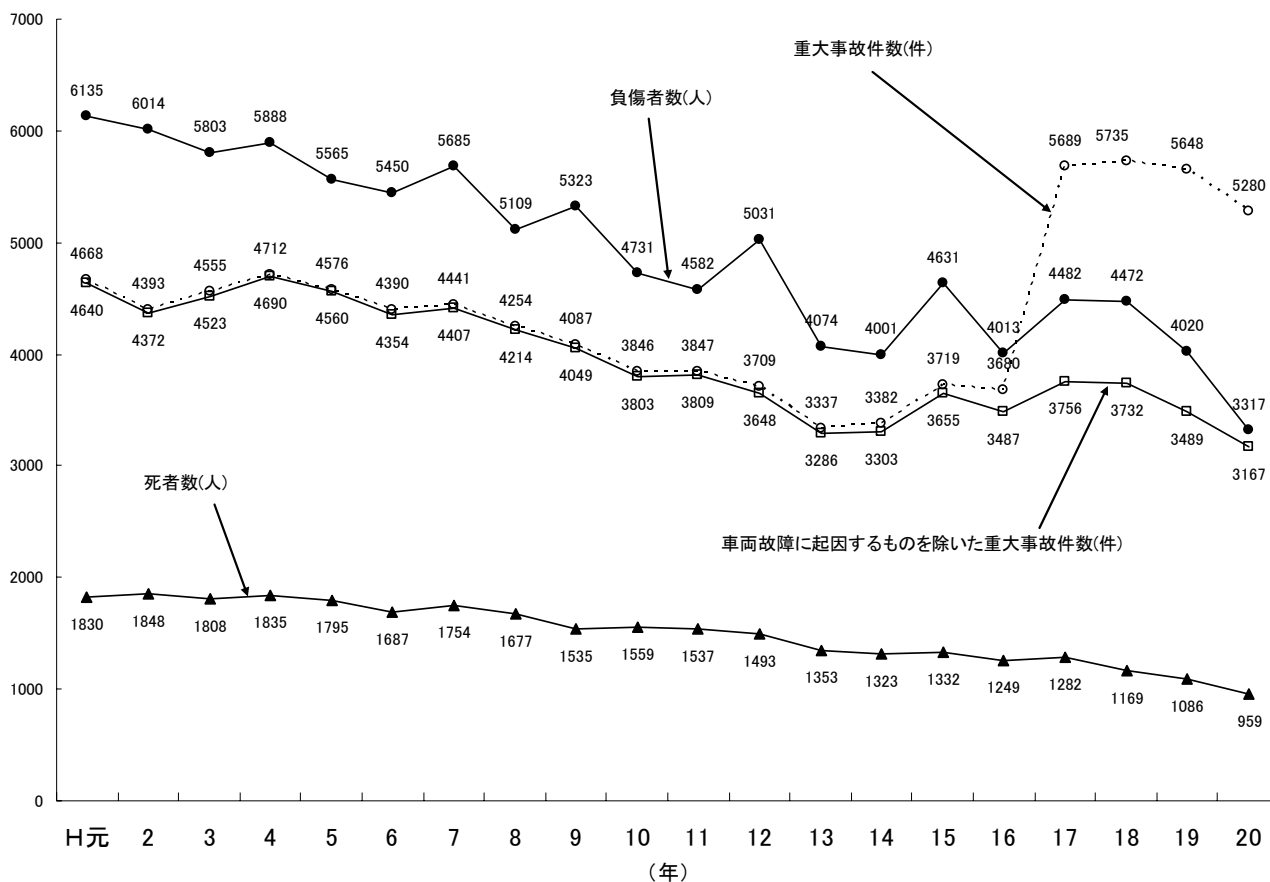
〔表 1-1〕 20 年中の重大事故発生状況

項 目		内 訳	全 報 告 件 数	対前年増減
件 数 (件)			5,280	－ 368
うち乗務員に起因する事故件数 (件)			1,925	－ 213
死傷状況等	死 者 数 (人)		959	－ 127
	重 傷 者 数 (人)		1,746	－ 228
	軽 傷 者 数 (人)		1,571	－ 475

(1) 重大事故発生状況の推移

事業用自動車の重大事故発生状況の推移は、図1-1に示すとおりであり、前年と比較して重大事故件数、死者数及び負傷者数は減少している。

〔図1-1〕 事業用自動車の重大事故発生状況等の推移



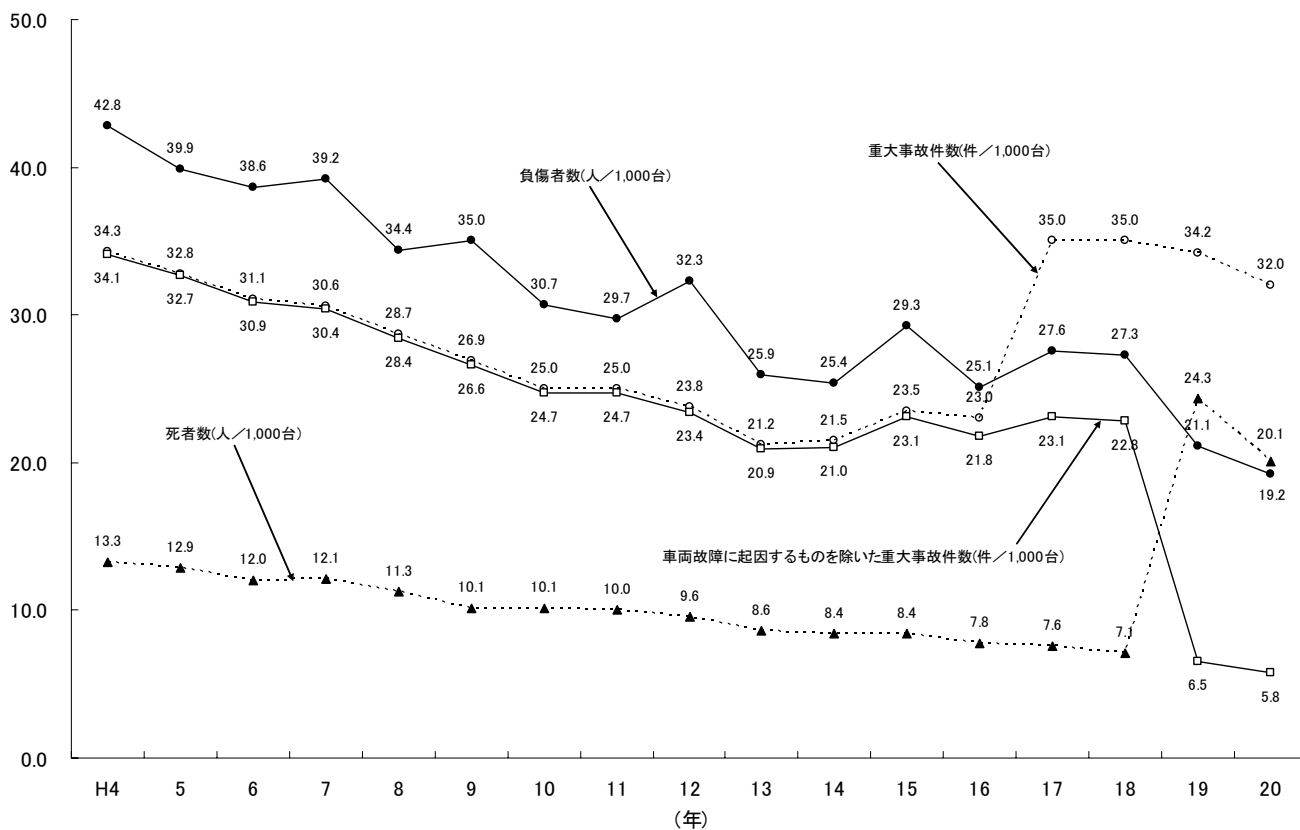
(注) 平成17年2月に事故報告規則が改正され、自動車の装置の故障により運行できなくなったもの(車両故障)に係る報告対象が拡大されている。

(2) 事業用自動車台数及び走行キロ当たりの重大事故

(ア) 事業用自動車 1,000 台当たり重大事故件数等の推移

事業用自動車の重大事故発生状況を事業用自動車 1,000 台当たりで見ると、図 1-2 に示すとおりである。

〔図 1-2〕 事業用自動車 1,000 台当たり重大事故件数等の推移

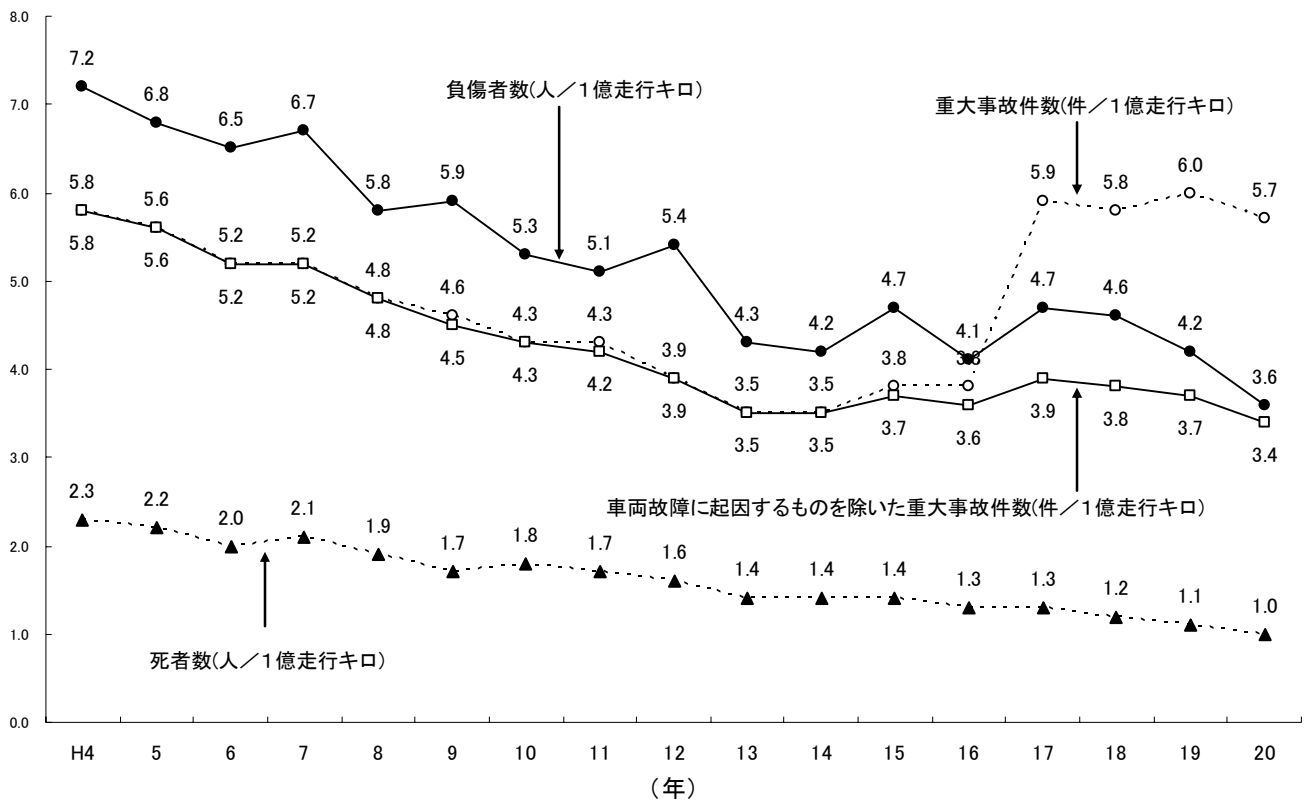


(注) 平成 17 年 2 月に事故報告規則が改正され、自動車の装置の故障により運行できなくなったもの(車両故障)に係る報告対象が拡大されている。

(イ) 事業用自動車 1 億走行キロ当たり重大事故件数等の推移

事業用自動車の重大事故発生状況について、事業用自動車 1 億走行キロ当たりでみると、図 1-3 に示すとおりであり、前年と比較して、重大事故件数、負傷者数、死者数ともに減少している。

(件) [図 1-3] 事業用自動車 1 億走行キロ当たり重大事故件数等の推移



(注) 平成 17 年 2 月に事故報告規則が改正され、自動車の装置の故障により運行できなくなったもの(車両故障)に係る報告対象が拡大されている。

2. 業態別の重大事故発生状況

(1) 平成 19 年中の業態別の重大事故発生状況

平成 19 年中における事業用自動車の重大事故発生状況を業態別にみると、表 2-1 に示すとおりであり、バスが 2,682 件（前年比+7.8%）、ハイ・タクが 689 件（前年比-9.2%）及びトラックが 2,277 件（前年比-9.9%）となっている。

〔表 2-1〕 平成 19 年中の業態別の重大事故発生状況

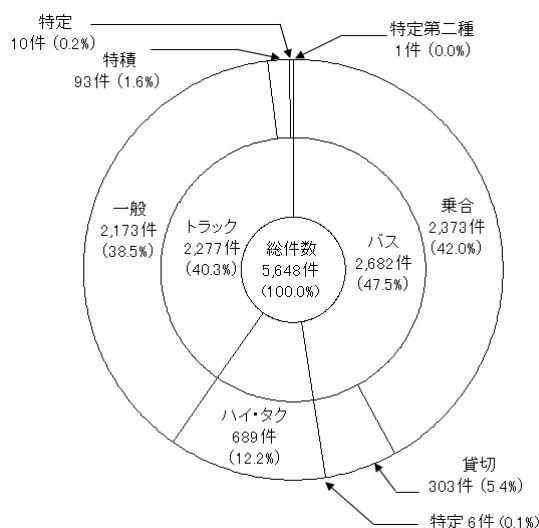
項目	内 訳	バス			ハイ・タク	トラック	合計
		乗合	貸切	特定			
件 数 (件)		2,373	303	6	689	2,277	5,648
乗務員に起因する事故件数 (件)		386	47	0	472	1233	2138
死傷状況等	死者数 (人)	36 (1)	17 (0)	0 (0)	82 (0)	951	1,086 (1)
	重傷者数 (人)	354 (170)	58 (6)	1 (0)	584 (4)	977	1,974 (180)
	軽傷者数 (人)	408 (258)	432 (40)	0 (0)	229 (17)	977	2,046 (315)
	計 (人)	798 (429)	507 (46)	7 (0)	1,502 (21)	2,905	5,106 (496)

(注) 死傷状況等における () 内数値は、乗客が死傷した人数を示す。

(ア) 事業種類別重大事故件数

平成 19 年中の事業種類別の重大事故件数は図 2-1 に示すとおりであり、バスの乗合が 2,373 件(42.0%)を占め、次いでトラックのうちの一般が 2,173 件で全体の 38.5%、ハイ・タクが 689 件(12.2%)の順となっている。

〔図 2-1〕 事業種類別重大事故件数



(2) 平成 20 年中の業態別の重大事故発生状況

平成 20 年中における事業用自動車の重大事故発生状況を業態別にみると、表 2-2 に示すとおりであり、バスが 2,567 件（前年比-4.2%）、ハイ・タクが 664 件（前年比-3.6%）及びトラックが 2,049 件（前年比-10.0%）となっている。

〔表 2-2〕 平成 20 年中の業態別の重大事故発生状況

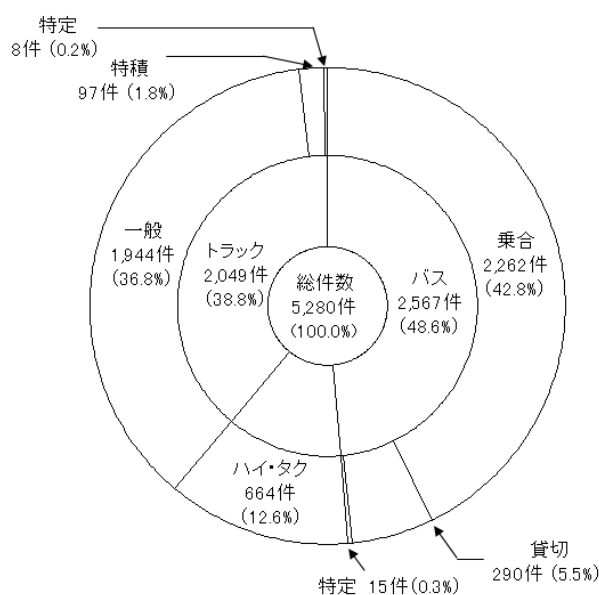
項目	内 訳	バス			ハイ・タク	トラック	合計
		乗合	貸切	特定			
件 数 (件)		2,262	290	15	664	2,049	5,280
乗務員に起因する事故件数 (件)		350	39	3	470	1063	1,925
死傷状況等	死者数 (人)	31 (2)	19 (0)	1 (0)	96 (1)	812	959 (3)
	重傷者数 (人)	328 (164)	67 (4)	6 (1)	520 (6)	825	1,746 (175)
	軽傷者数 (人)	410 (198)	218 (63)	2 (1)	168 (5)	773	1,571 (267)
	計 (人)	769 (364)	304 (67)	9 (2)	784 (12)	2,410	4,276 (445)

(注) 死傷状況等における () 内数値は、乗客が死傷した人数を示す。

(ア) 事業種別別重大事故件数

平成 20 年中の事業種別別の重大事故件数は図 2-2 に示すとおりであり、バスの乗合が 2,262 件(42.8%)を占め、次いでトラックのうちの一般が 1,944 件で全体の 38.8%、ハイ・タクが 664 件 (12.6%) の順となっている。

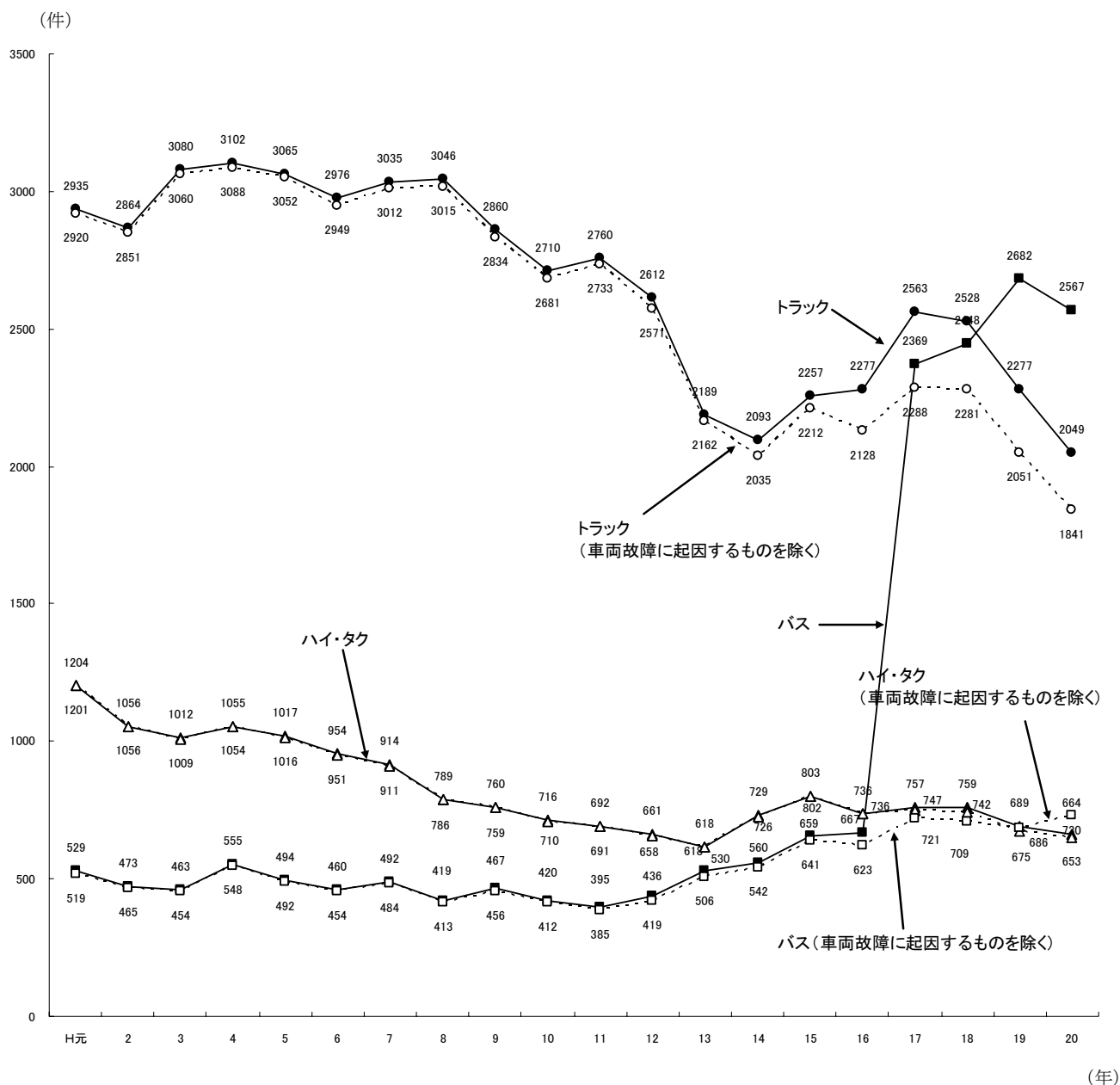
〔図 2-2〕 事業種別別重大事故件数



(3) 業態別重大事故件数の推移

業態別重大事故件数の推移をみると、図2-3に示すとおりであり、全ての業態で減少している。

〔図2-3〕業態別重大事故件数の推移

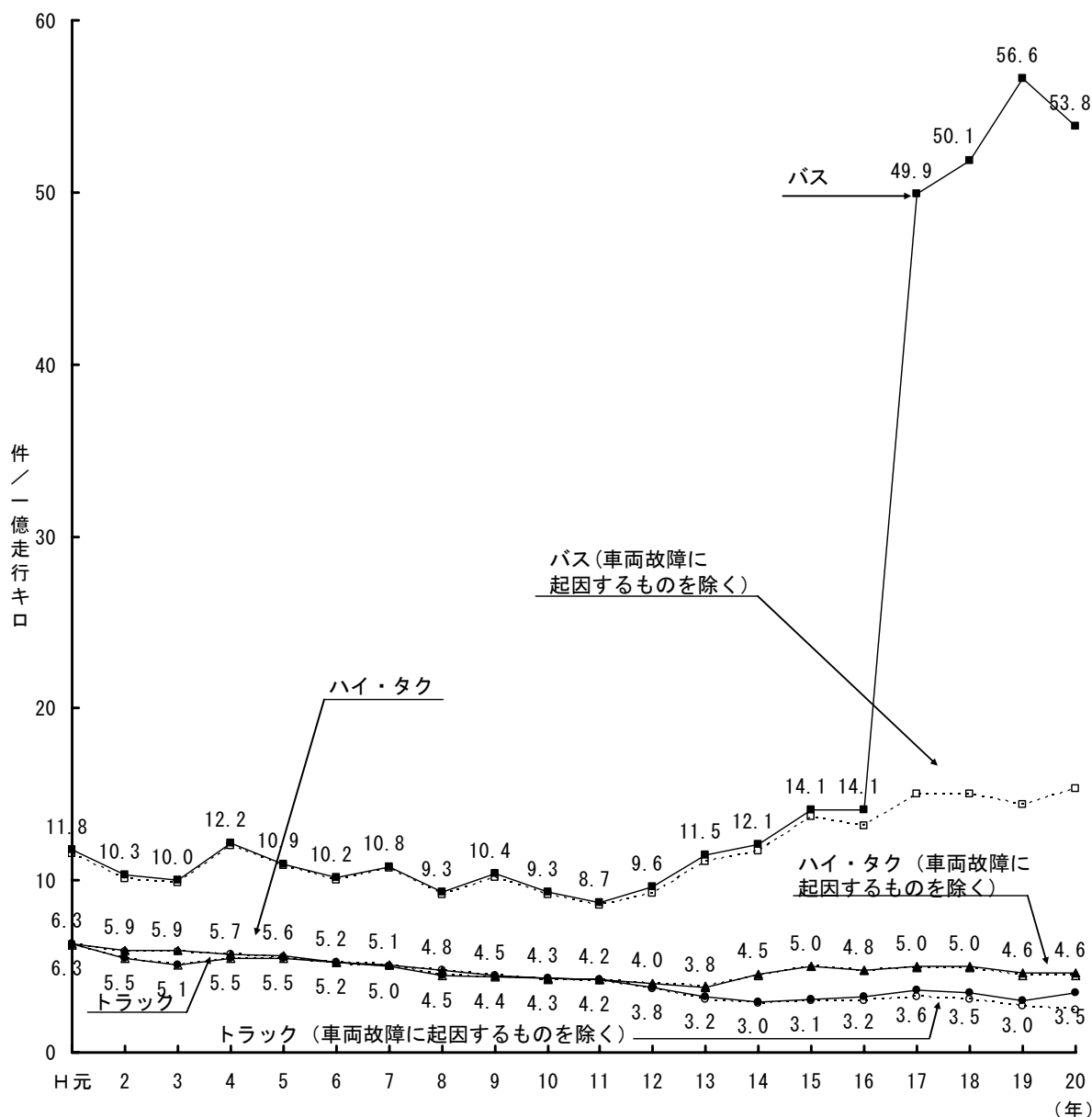


(注) 平成17年2月に事故報告規則が改正され、自動車の装置の故障により運行できなくなったもの(車両故障)に係る報告対象が拡大されている。

(4) 業態別事業用自動車 1 億走行キロ当たり重大事故件数の推移

業態別事業用自動車 1 億走行キロ当たりの重大事故件数の推移をみると、図 2-4 に示すとおりであり、前年と比較してバスで減少、ハイ・タクで横ばい、トラックについては若干の増加がみられる。

〔図 2-4〕 業態別事業用自動車 1 億走行キロ当たり重大事故件数の推移



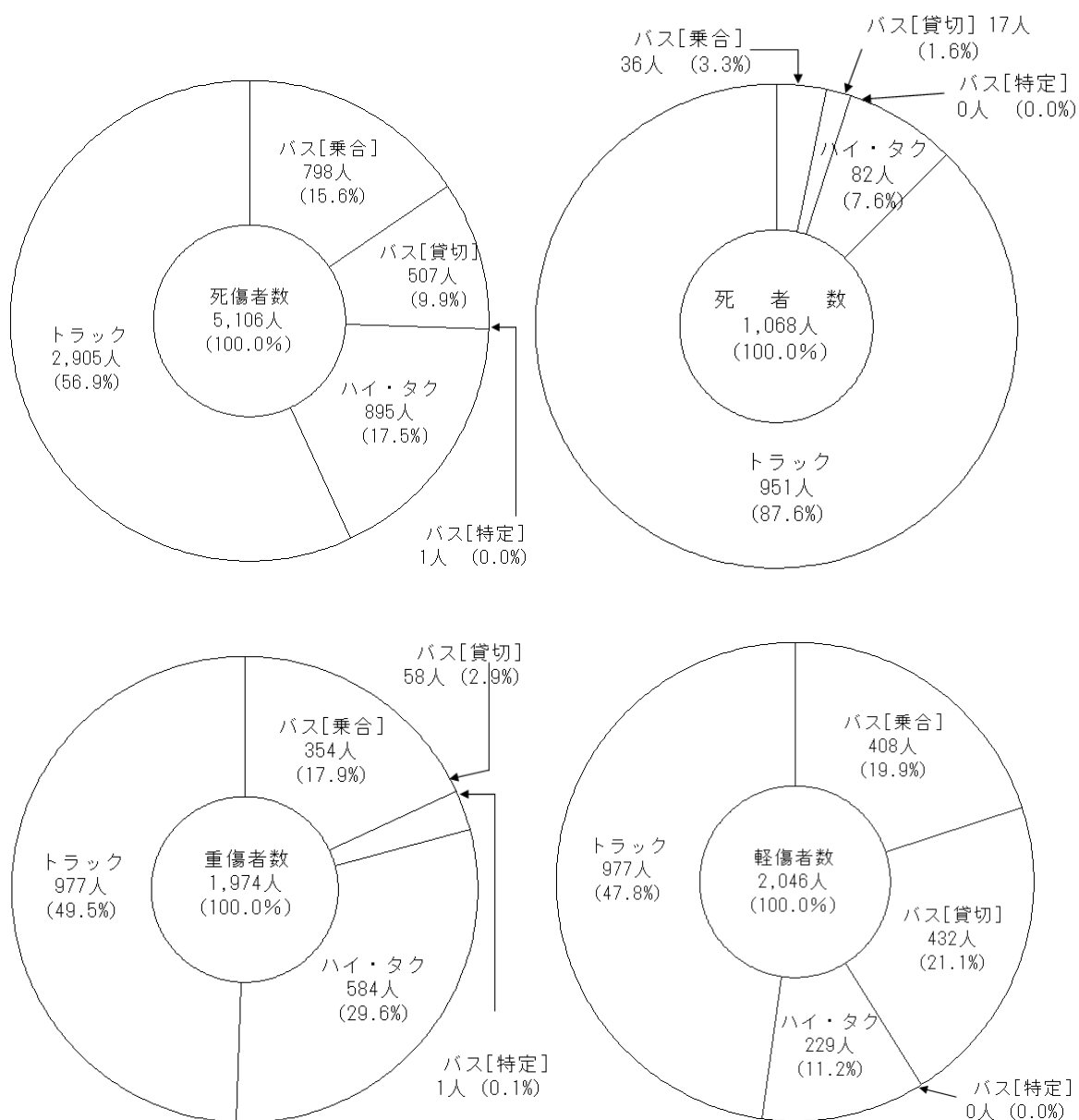
(注) 平成 17 年 2 月に事故報告規則が改正され、自動車の装置の故障により運行できなくなったもの（車両故障）に係る報告対象が拡大されている。

(5) 平成 19 年中の業態別死傷者内訳

平成 19 年中における業態別に死傷者の発生状況を見ると、図 2-5 に示すとおりであり、トラックが 2,905 人 (56.9%)、バスが 1,306 人 (25.5%)、ハイ・タクが 895 人 (17.5%) となっている。

また、トラックは死者数 951 人、重傷者数 977 人及び軽傷者数 977 人でいずれも最上位を占めている。

〔図 2-5〕 平成 19 年中の業態別死傷者内訳

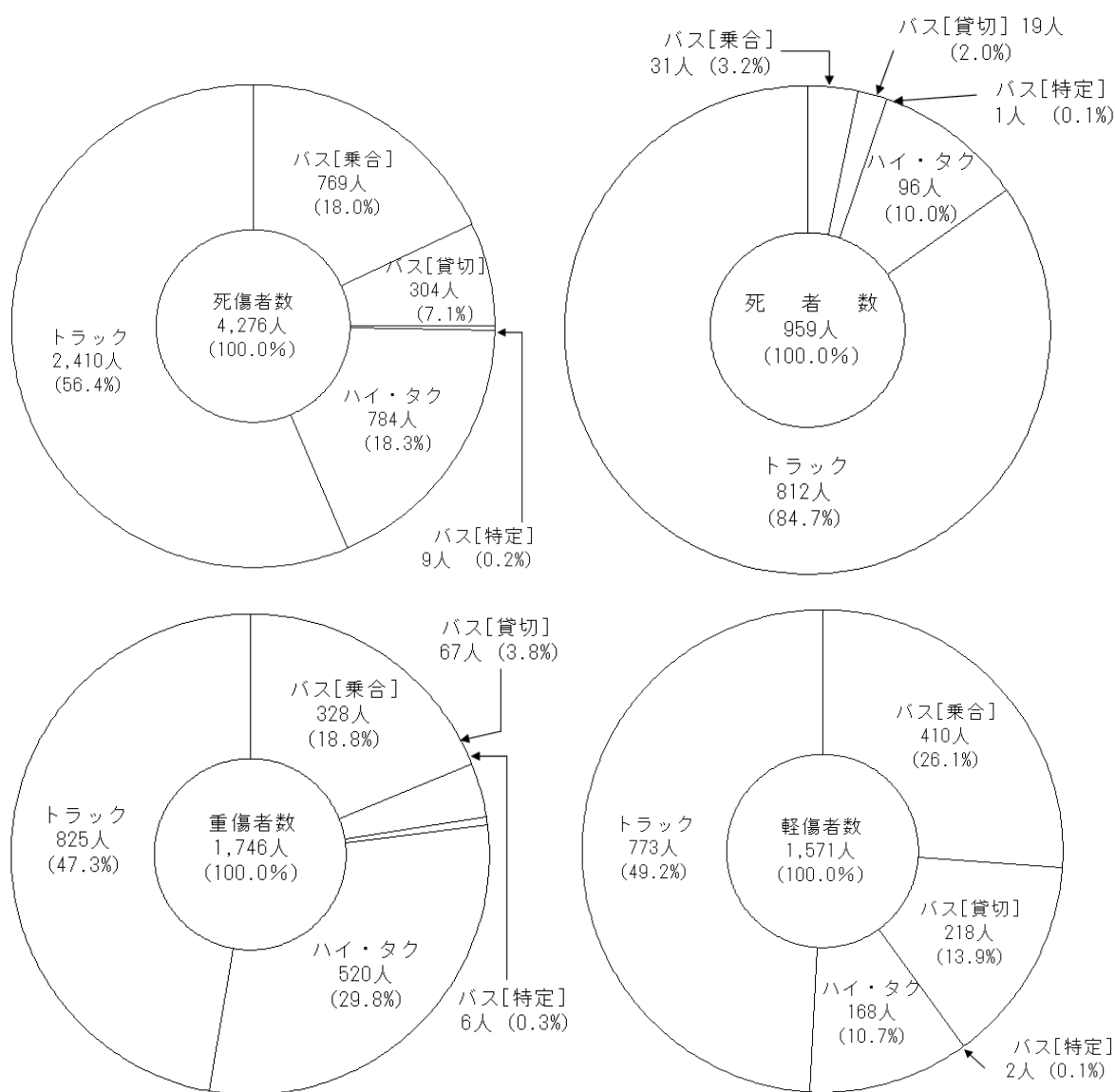


(6) 平成 20 年中の業態別死傷者内訳

平成 20 年中における業態別に死傷者の発生状況を見ると、図 2-6 に示すとおりであり、トラックが 2,410 人 (56.4%)、バスが 1,082 人 (25.3%)、ハイ・タクが 784 人 (18.3%) となっている。

また、トラックは死者数 812 人、重傷者数 825 人及び軽傷者数 773 人でいずれも最上位を占めている。

〔図 2-6〕 平成 20 年中の業態別死傷者内訳

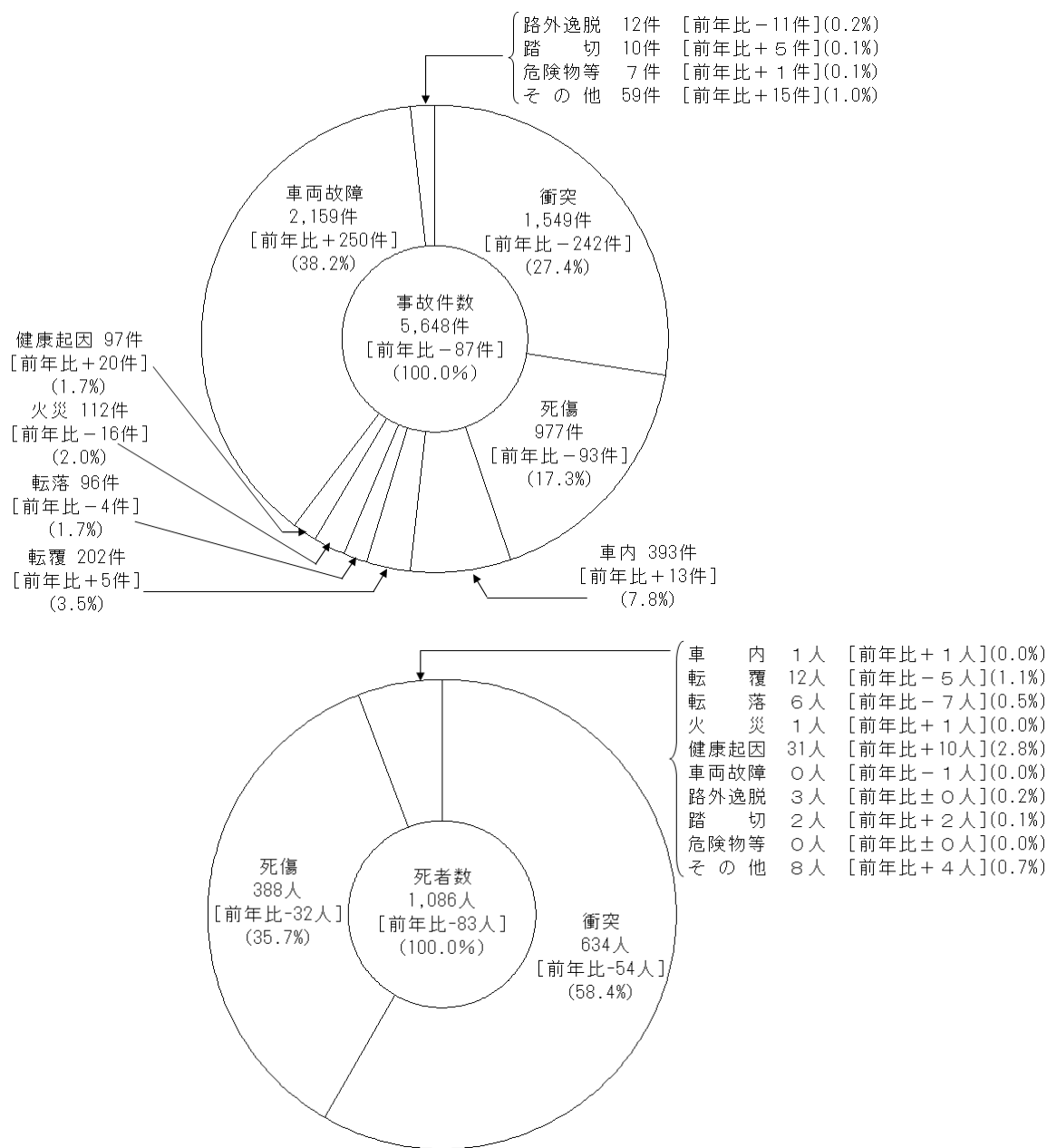


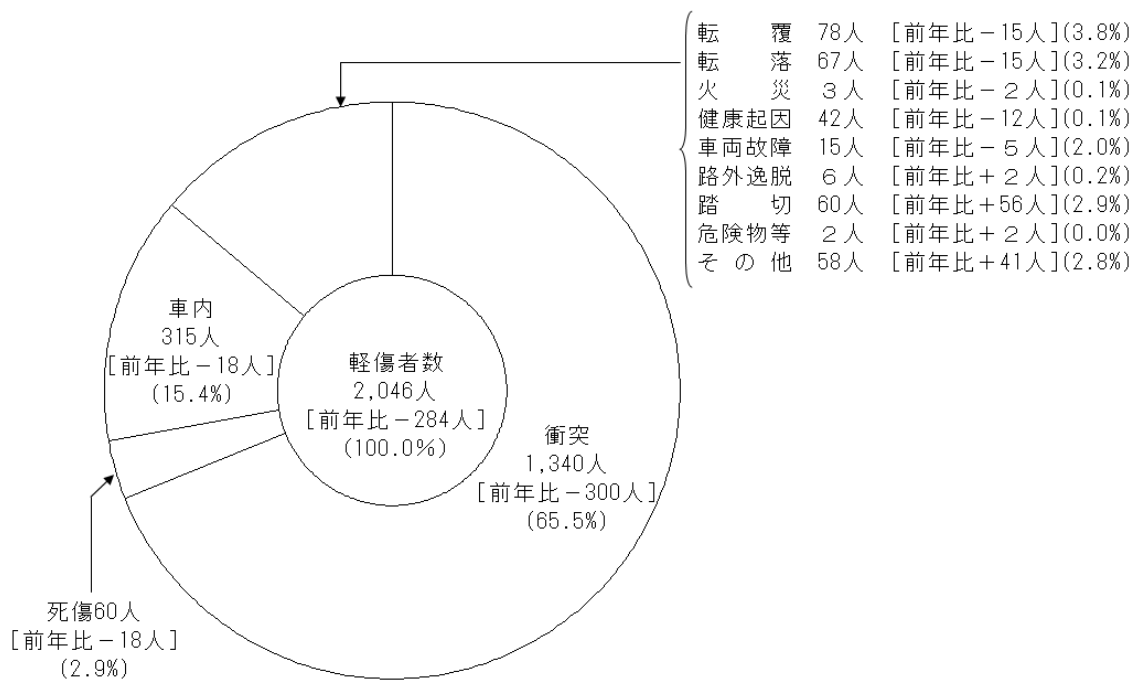
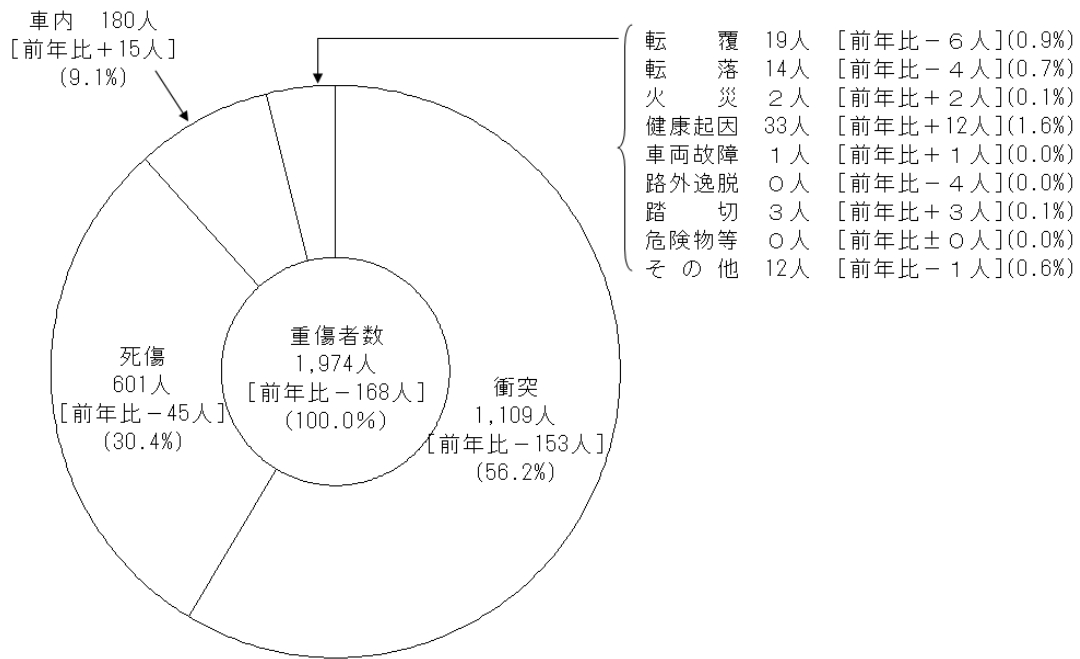
3. 事故種類別の重大事故発生状況

(1) 平成 19 年中の重大事故発生状況

平成 19 年中の重大事故発生状況を事故種類別にみると、図 3-1 に示すように、車両故障が全体の 38.2% と最も多く、次いで衝突事故、死傷事故の順となっている。また、死者数にあつては、衝突が 634 人 (58.4%)、死傷が 388 人 (35.7%) で、合計すると 1,022 人になり、全体の 94.1% と大部分を占めている。

〔図 3-1〕 平成 19 年中の事故種類別の重大事故発生状況

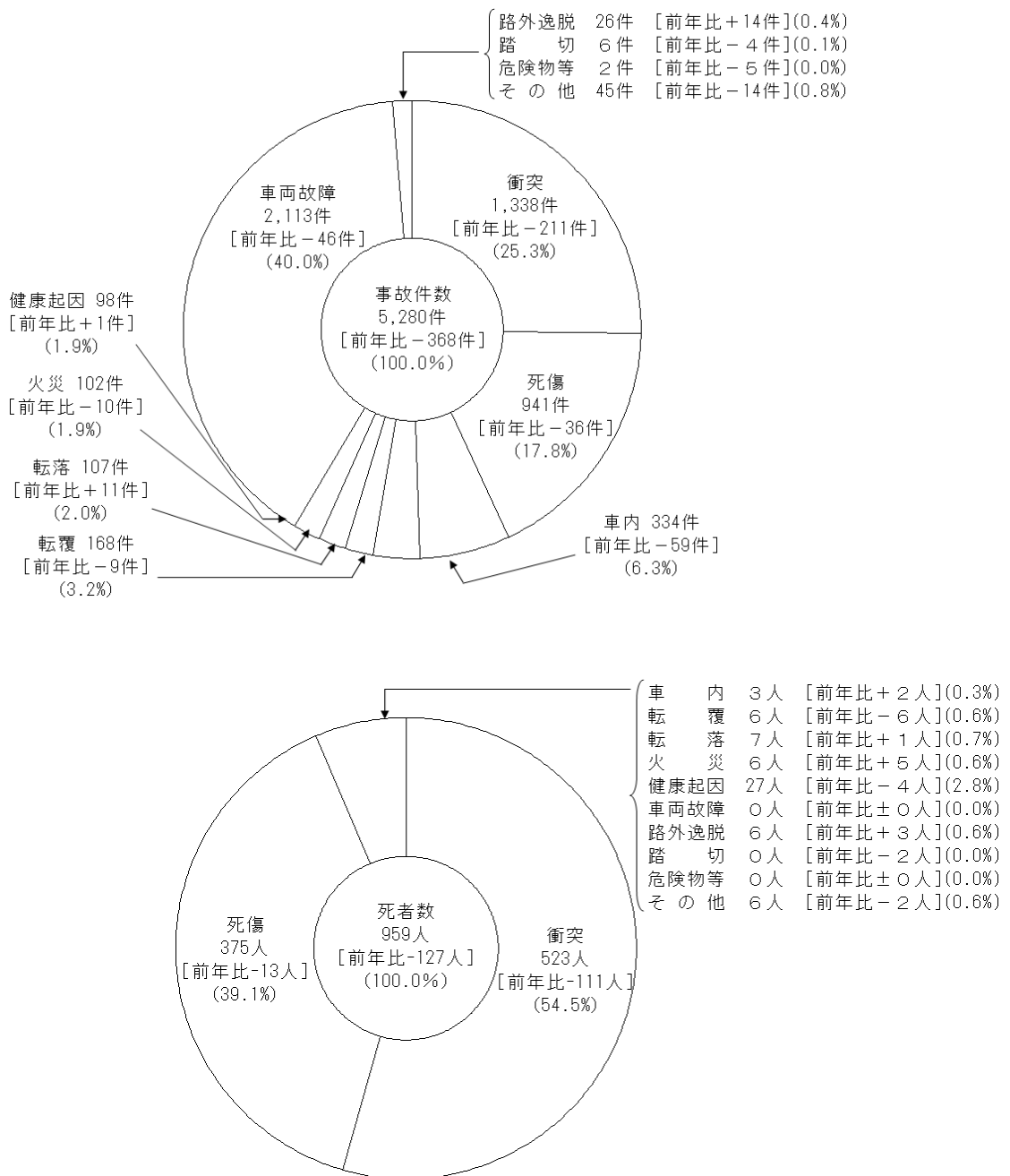


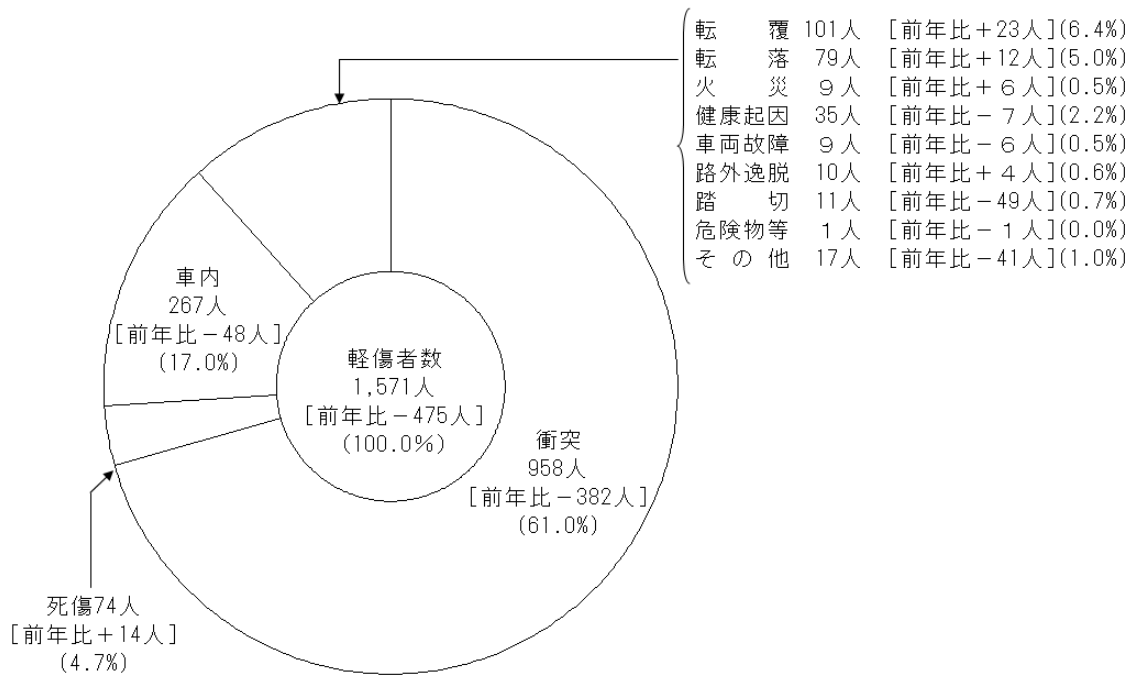
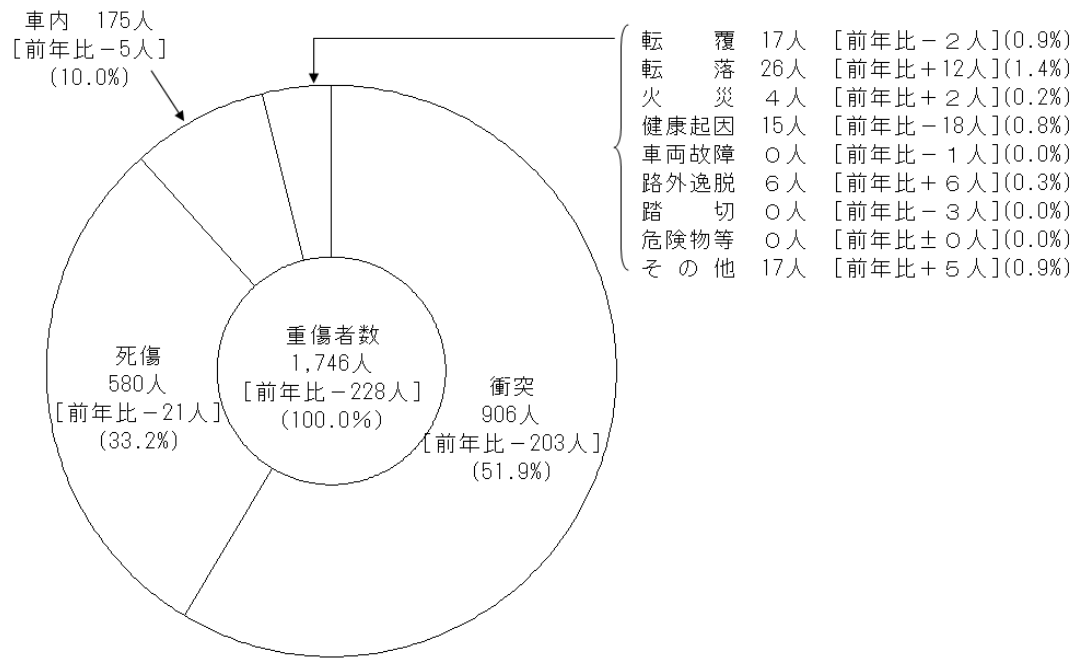


(2) 平成 20 年中の重大事故発生状況

平成 20 年中の重大事故発生状況を事故種類別にみると、図 3-2 に示すように、車両故障が全体の 40.0%と最も多く、次いで衝突事故、死傷事故の順となっている。また、死者数にあつては、衝突が 523 人 (54.5%)、死傷が 375 人 (39.1%) で、合計すると 898 人になり、全体の 93.6%と大部分を占めている。

〔図 3-2〕 平成 20 年中の事故種類別の重大事故発生状況





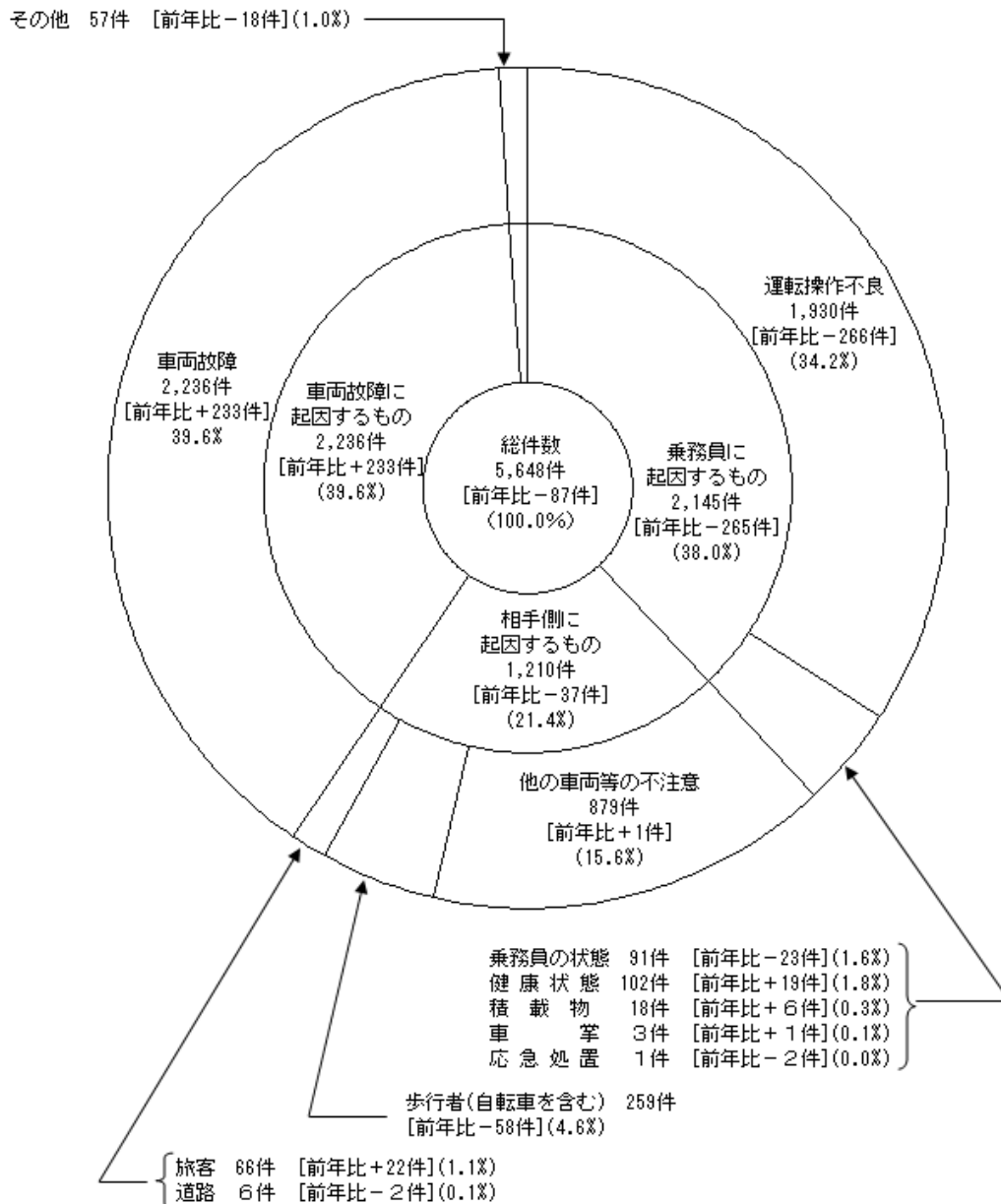
4. 事故原因

(1) 平成19年中の事故原因の大別

平成19年中の重大事故の発生状況を原因別にみると、図4-1に示すとおりであり、乗務員に起因するものが2,145件(37.9%)で、その多くを占めている。また、乗務員に起因するものの内訳をみると、運転操作不良が1,930件(34.1%)となっており、大部分が運転者の不適切な運転操作によるものと推測できる。

また、原因別重大事故の発生件数の推移は、図4-3に示すとおりである。

〔図4-1〕 平成19年中の原因別重大事故発生状況

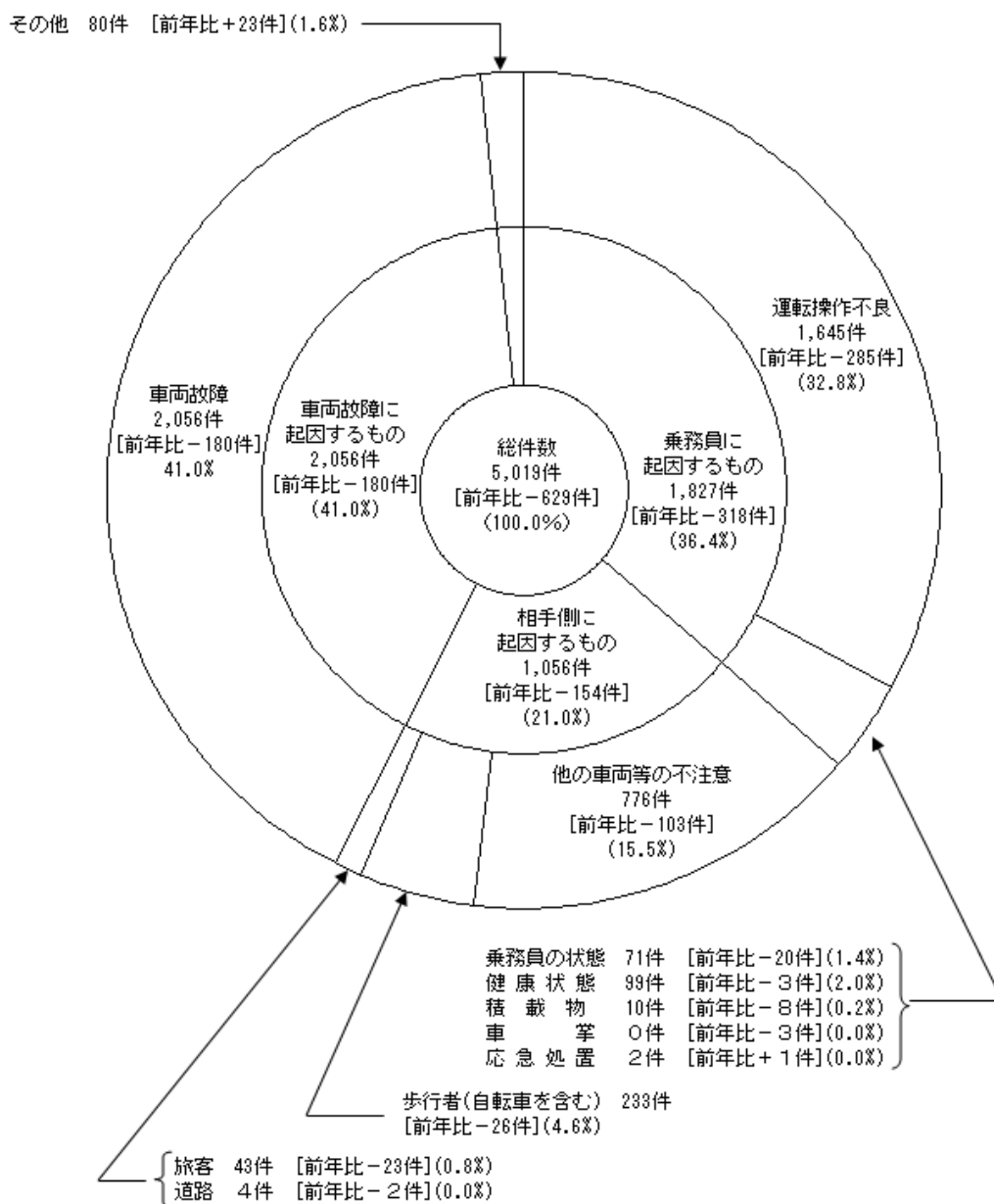


(2) 平成 20 年中の事故原因の大別

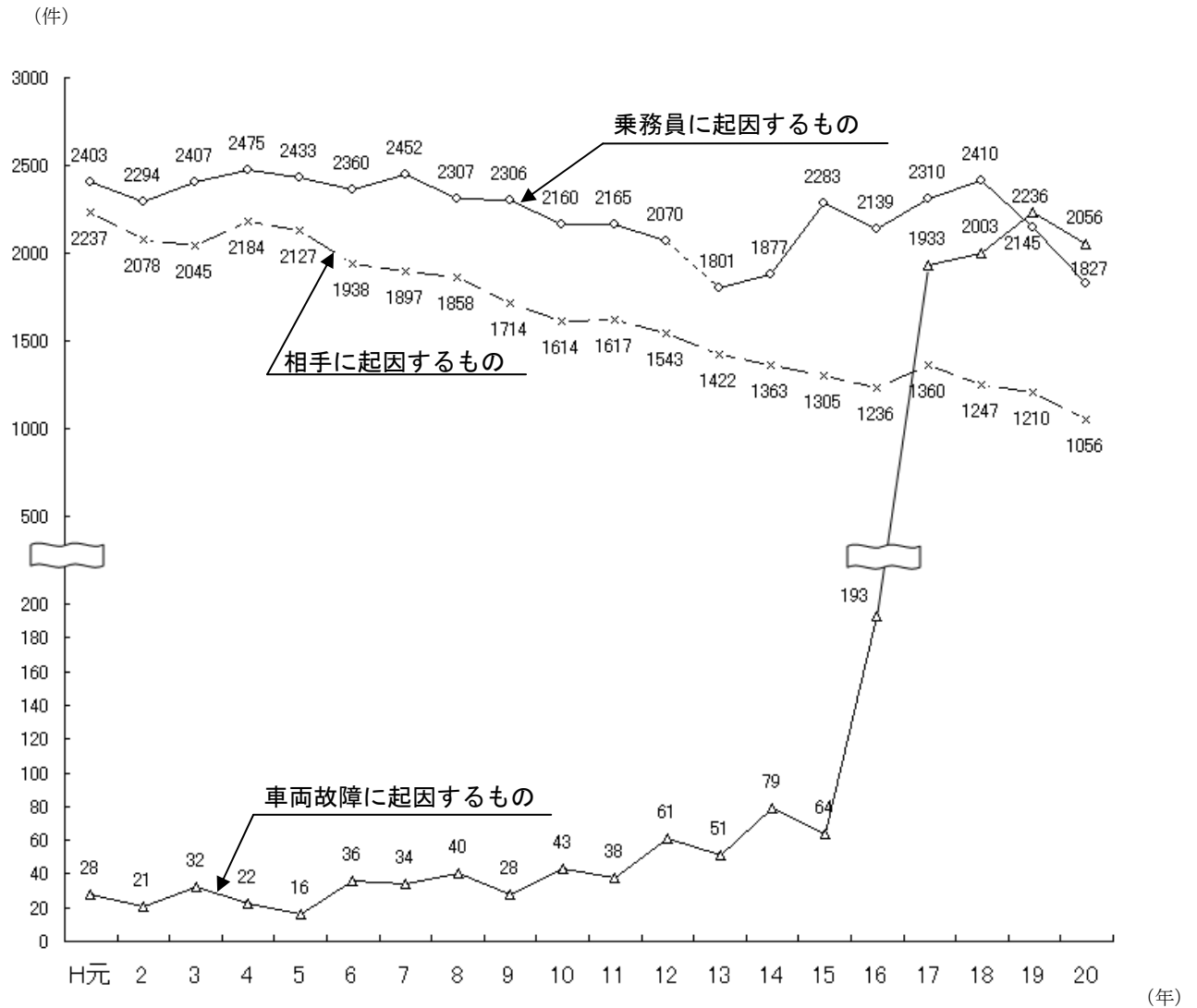
平成 20 年中の重大事故の発生状況を原因別にみると、図 4-2 に示すとおりであり、乗務員に起因するものが 1,827 件 (36.4%) で、その多くを占めている。また、乗務員に起因するものの内訳をみると、運転操作不良が 1,645 件 (32.8%) となっており、大部分が運転者の不適切な運転操作によるものと推測できる。

また、原因別重大事故の発生件数の推移は、図 4-3 に示すとおりである。

〔図 4-2〕 平成 20 年中の原因別重大事故発生状況



〔図4-3〕 原因別重大事故発生件数の推移

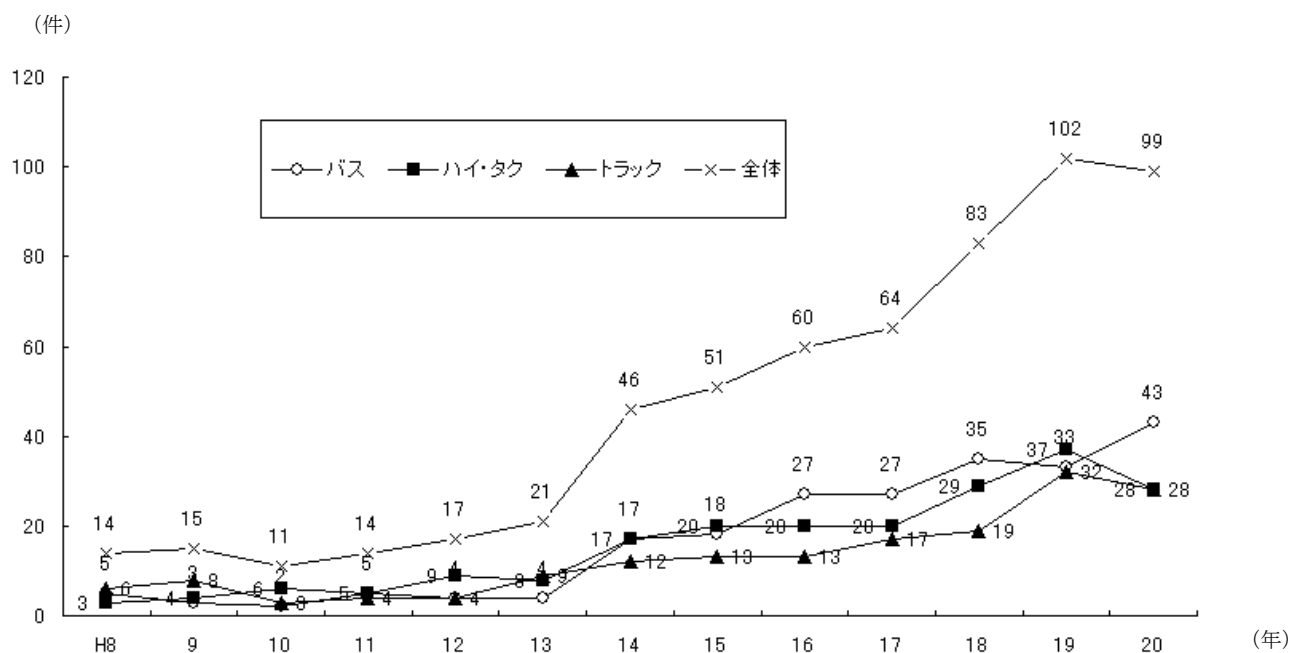


(注) 平成17年2月に事故報告規則が改正され、自動車の装置の故障により運行できなくなったもの(車両故障)に係る報告対象が拡大されている。

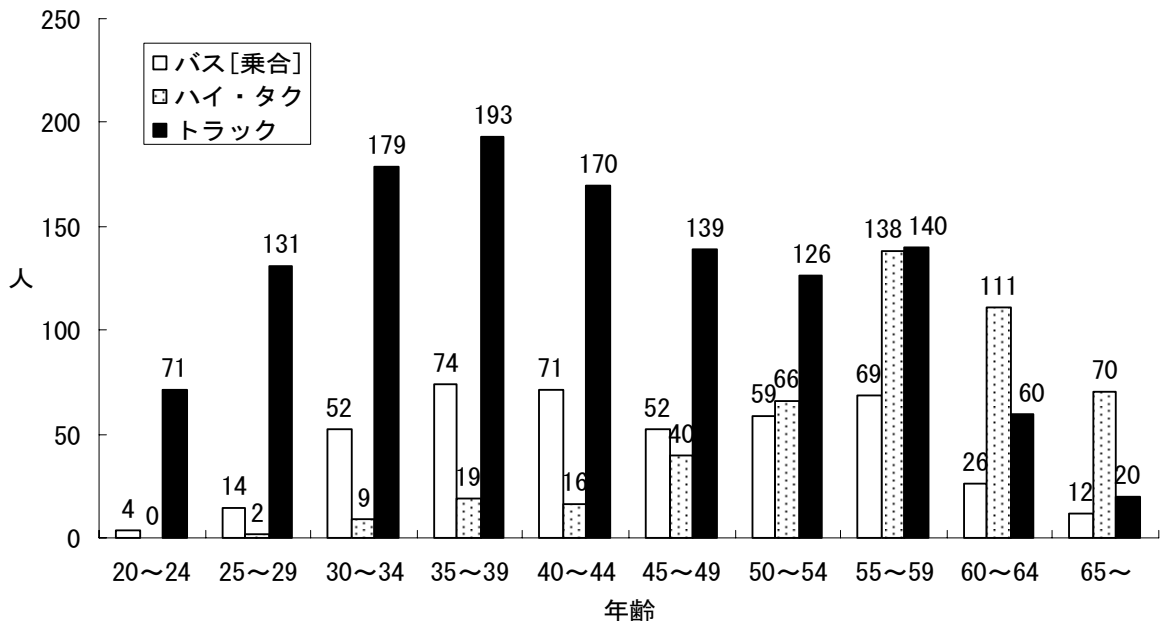
(3) 運転者の健康状態

運転者の健康状態に起因する事故の発生状況の推移は、図4-4に示すとおりである。また、運転者の年齢分布は図4-5（平成19年中）及び図4-6（平成20年中）、病名別の運転者数は表4-1（平成19年中）及び表4-2（平成20年中）に示すとおりである。

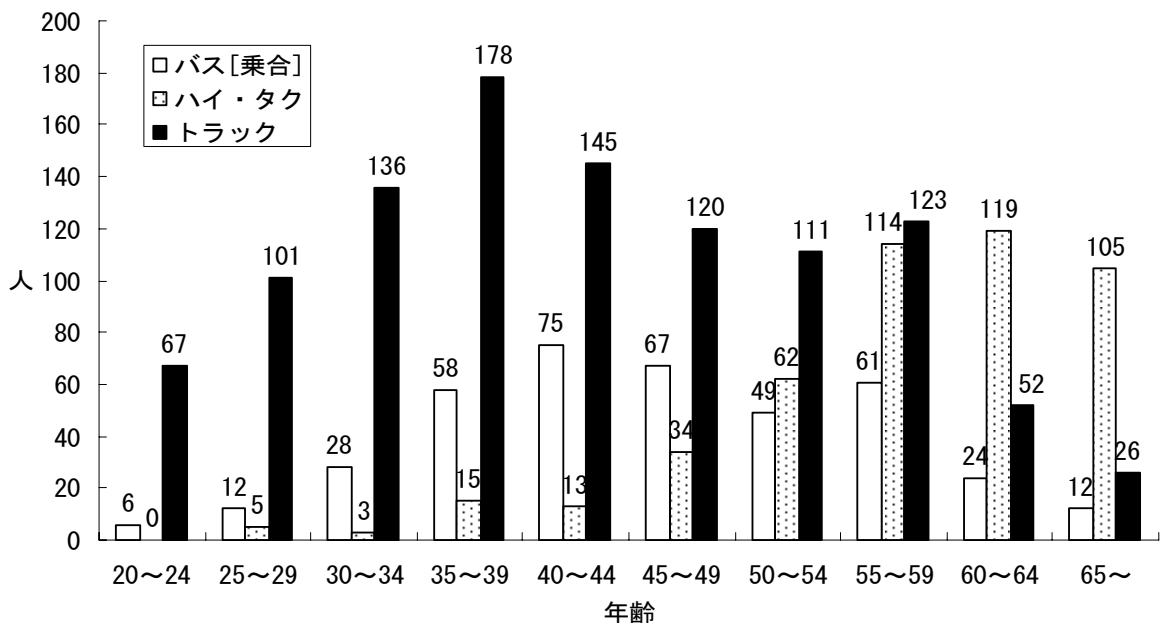
〔図4-4〕 運転者の健康状態に起因する重大事故の発生状況の推移



〔図4-5〕 平成19年中の運転者の年齢分布



〔図4-6〕 平成20年中の運転者の年齢分布



〔表４－１〕 平成 19 年中の病名別の運転者数

病名 \ 業態	バス	ハイ・タク	トラック	合計
くも膜下出血	2	2	4	8
脳血拴	1	1	0	2
脳（その他）	3	12	5	20
心筋梗塞	1	4	7	12
心臓（その他）	2	7	8	17
失神	2	1	0	3
その他	22	10	8	40
計	33	37	32	102

〔表４－２〕 平成 20 年中の病名別の運転者数

病名 \ 業態	バス	ハイ・タク	トラック	合計
くも膜下出血	2	4	6	12
脳血拴	0	0	0	0
脳（その他）	3	5	4	12
心筋梗塞	2	4	2	8
心臓（その他）	1	5	7	13
失神	6	1	4	11
その他	29	9	5	43
計	43	28	28	99

(4) 車両故障に起因する重大事故

車両故障による重大事故の発生状況は、表4-3に示すとおりである。また、死傷状況等は表4-4（平成19年中）及び表4-5（平成20年中）に、業態別・装置別件数は表4-6（平成19年中）及び表4-7（平成20年中）に示すとおりである。

〔表4-3〕 車両故障事故件数の推移

年	総事故件数 (A)	車両故障事故件数 (B)	B / A × 100 (%)
元	4,668	28	0.6
2	4,393	21	0.5
3	4,555	32	0.7
4	4,712	22	0.5
5	4,576	16	0.3
6	4,390	36	0.8
7	4,441	34	0.8
8	4,254	40	0.9
9	4,087	38	0.9
10	3,846	43	1.1
11	3,847	38	1.0
12	3,709	61	1.6
13	3,337	51	1.5
14	3,382	79	2.3
15	3,719	64	1.7
16	3,680	193	5.2
17	5,689	1,933	34.0
18	5,735	2,003	34.9
19	5,648	2,232	39.5
20	5,280	2,160	40.9

〔表 4 - 4〕 平成 19 年中の車両故障に起因する重大事故発生状況

項 目		内 訳		バス	ハイ・タク	トラック	合計
		数 (件)					
件		数 (件)		1,996	14	222	2,232
死傷状況等	死 者 数 (人)			0	0	0	0
	重 傷 者 数 (人)			0	0	1	1
	軽 傷 者 数 (人)			3	0	12	15

〔表 4 - 5〕 平成 20 年中の車両故障に起因する重大事故発生状況

項 目		内 訳		バス	ハイ・タク	トラック	合計
		数 (件)					
件		数 (件)		1,930	11	219	2,160
死傷状況等	死 者 数 (人)			0	0	1	1
	重 傷 者 数 (人)			6	0	1	7
	軽 傷 者 数 (人)			27	0	5	32

〔表4-6〕 平成19年中の車両故障事故の業態別・装置別件数

装 置 \ 業 態	バス	ハイ・タク	トラック	合計
原 動 機	424	5	32	461
速 度 抑 制 装 置	3	0	0	3
動 力 伝 達 装 置	410	2	34	446
車 輪 (タ イ ヤ 除 く)	5	1	37	43
タ イ ヤ	85	0	27	112
車 軸	2	0	20	22
操 縦 装 置	23	0	8	31
制 動 装 置	75	0	21	96
緩 衝 装 置	52	1	2	55
燃 料 装 置	112	0	5	117
電 気 装 置	473	5	9	487
車 枠 及 び 車 体	13	0	4	17
連 結 装 置	0	0	2	2
乗 車 装 置	36	0	0	36
物 品 積 載 装 置	0	0	0	0
窓 ガ ラ ス	1	0	0	1
騒 音 防 止 装 置	4	0	1	5
ばい煙等の発散防止装置	9	0	0	9
灯火装置及び指示装置	11	0	0	11
反 射 器	0	0	0	0
警 音 器	0	0	0	0
視野を確保する装置	18	0	0	18
計 器	21	0	2	23
消 火 器	0	0	0	0
内圧容器及びその付属装置	74	0	1	75
運 行 記 録 計	0	0	0	0
そ の 他	145	0	17	162
合 計	1,996	14	222	2,232

〔表４－７〕 平成 20 年中の車両故障事故の業態別・装置別件数

装 置 \ 業 態	バス	ハイ・タク	トラック	合計
原 動 機	376	0	50	426
速 度 抑 制 装 置	1	0	0	1
動 力 伝 達 装 置	335	2	35	372
車 輪 (タ イ ヤ 除 く)	3	1	42	46
タ イ ヤ	67	0	18	85
車 軸	3	0	19	22
操 縦 装 置	28	0	1	29
制 動 装 置	81	1	19	101
緩 衝 装 置	47	0	3	50
燃 料 装 置	127	3	5	135
電 気 装 置	578	4	22	604
車 枠 及 び 車 体	11	0	1	12
連 結 装 置	1	0	1	2
乗 車 装 置	46	0	0	46
物 品 積 載 装 置	0	0	0	0
窓 ガ ラ ス	0	0	0	0
騒 音 防 止 装 置	3	0	0	3
ばい煙等の発散防止装置	6	0	0	6
灯 火 装 置 及 び 指 示 装 置	12	0	0	12
反 射 器	0	0	0	0
警 音 器	0	0	0	0
視 野 を 確 保 す る 装 置	21	0	0	21
計 器	21	0	0	21
消 火 器	0	0	0	0
内 圧 容 器 及 び そ の 付 属 装 置	86	0	0	86
運 行 記 録 計	0	0	0	0
そ の 他	77	0	3	80
合 計	1,930	11	219	2,160

(5) 事故種類別重大事故発生状況

(ア) 平成 19 年中の転覆、転落事故

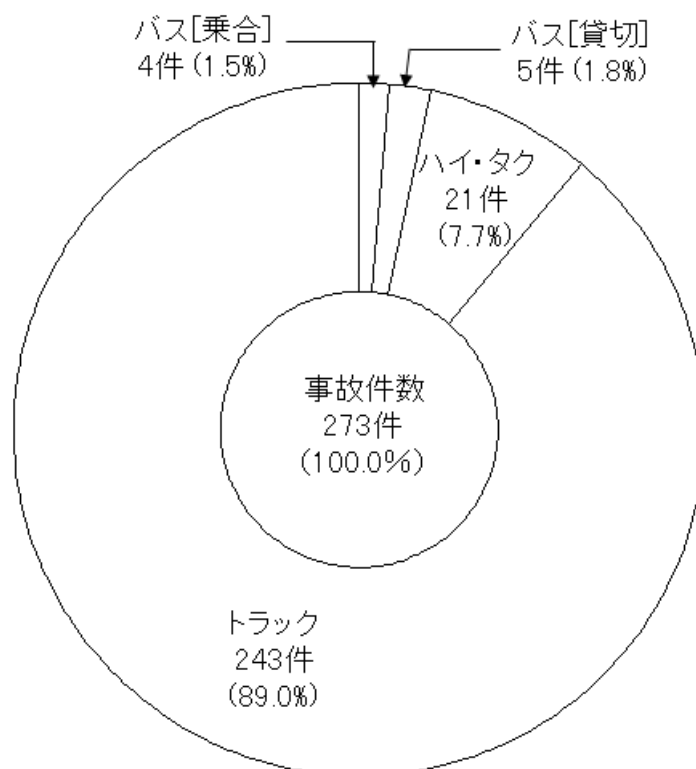
平成 19 年中の転覆、転落の事故発生状況は、表 4-8 に示すとおりであり、事故件数が 273 件、死者数が 18 人及び負傷者数が 173 人となっている。

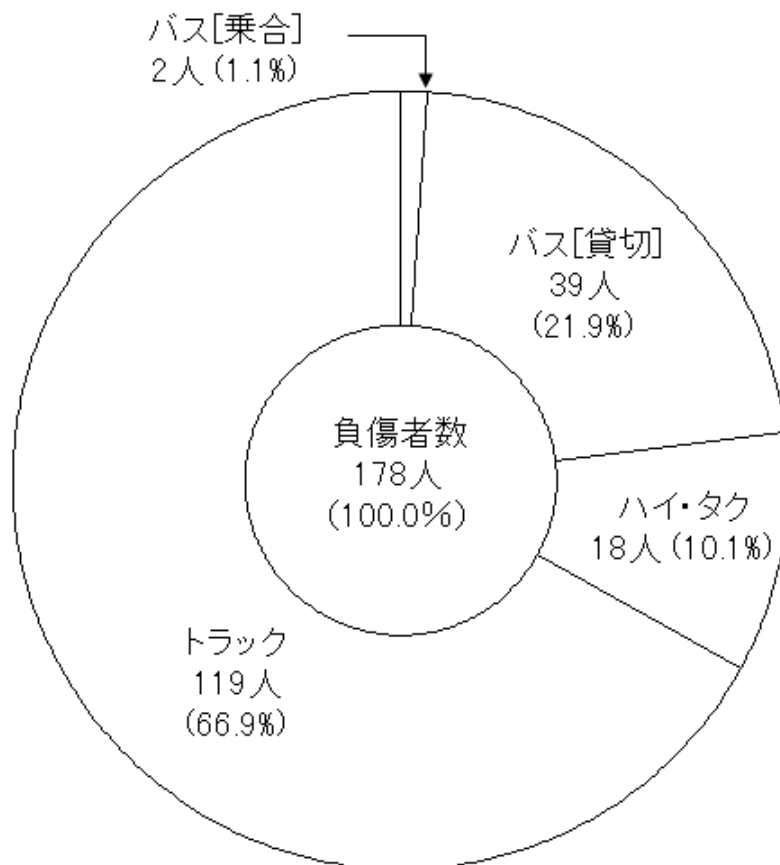
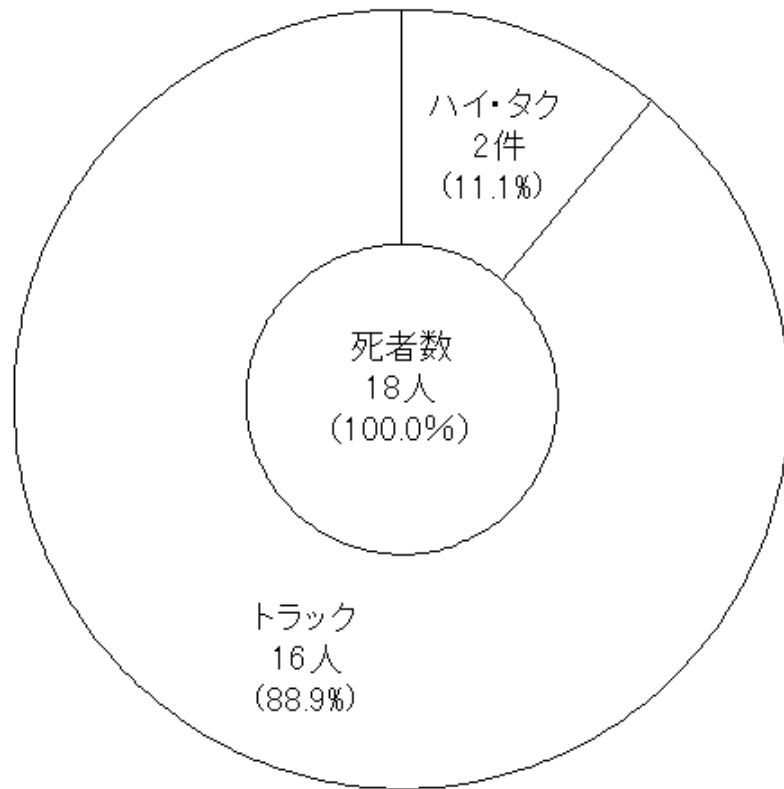
〔表 4-8〕 平成 19 年中の業態別転覆、転落事故発生状況

事故状況		事故件数 (件)	死者数 (人)	負傷者数 (人)
バス	乗合	4(±0)	0(±0)	2(-3)
	貸切	5(±0)	0(-1)	39(-5)
ハイ・タク		21(+9)	2(-3)	18(+5)
トラック		243(-38)	16(-10)	119(-25)
計		273(-29)	18(-14)	178(-28)

※ () 内は前年比を示す

〔図 4-7〕 平成 19 年中の事業種類別転覆、転落事故発生状況





(イ) 平成 20 年中の転覆、転落事故

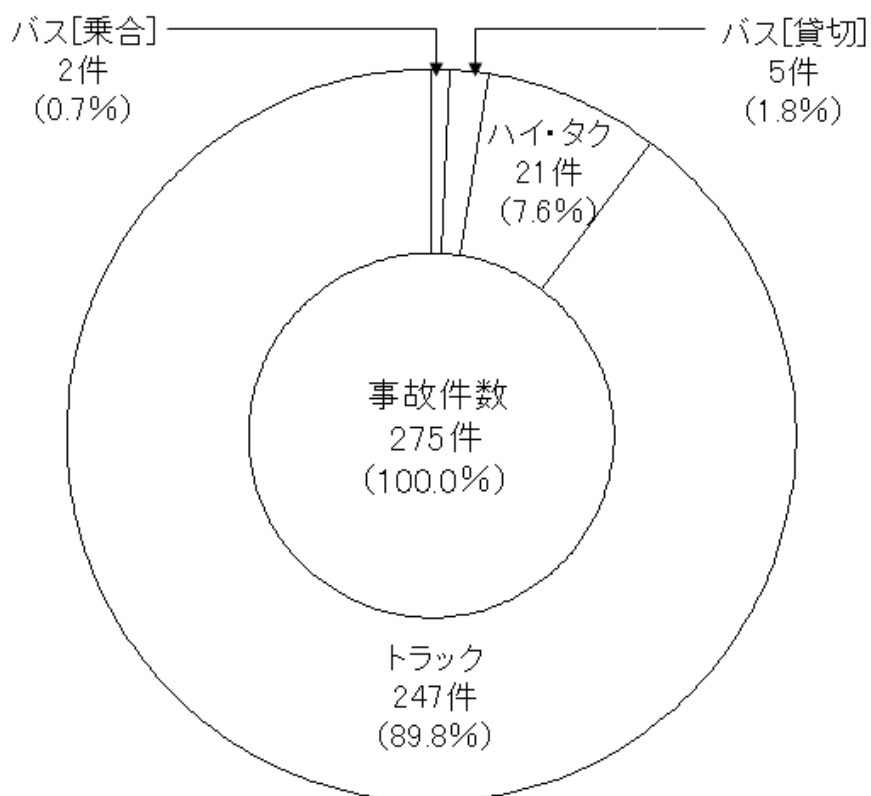
平成 20 年中の転覆、転落の事故発生状況は、表 4-9 に示すとおりであり、事故件数が 275 件、死者数が 13 人及び負傷者数が 223 人となっている。

〔表 4-9〕 平成 20 年中の業態別転覆、転落事故発生状況

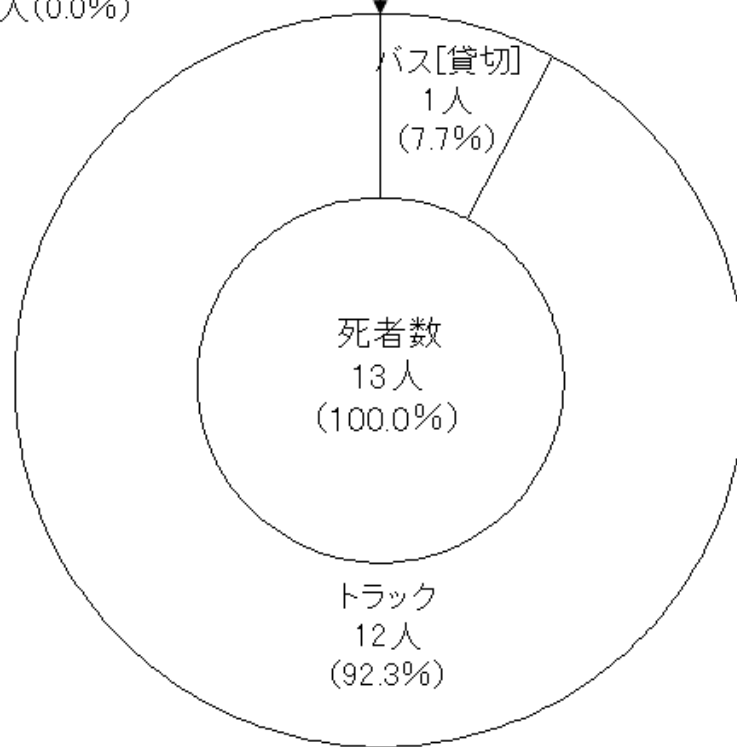
事業種類		事故状況	事故件数 (件)	死者数 (人)	負傷者数 (人)
バス	乗合		2(-2)	0(±0)	2(±0)
	貸切		5(±0)	1(+1)	62(+23)
ハイ・タク			21(±0)	0(-2)	21(+3)
トラック			247(+4)	12(-4)	138(+19)
計			275(+2)	13(-5)	223(+45)

※ () 内は前年比を示す

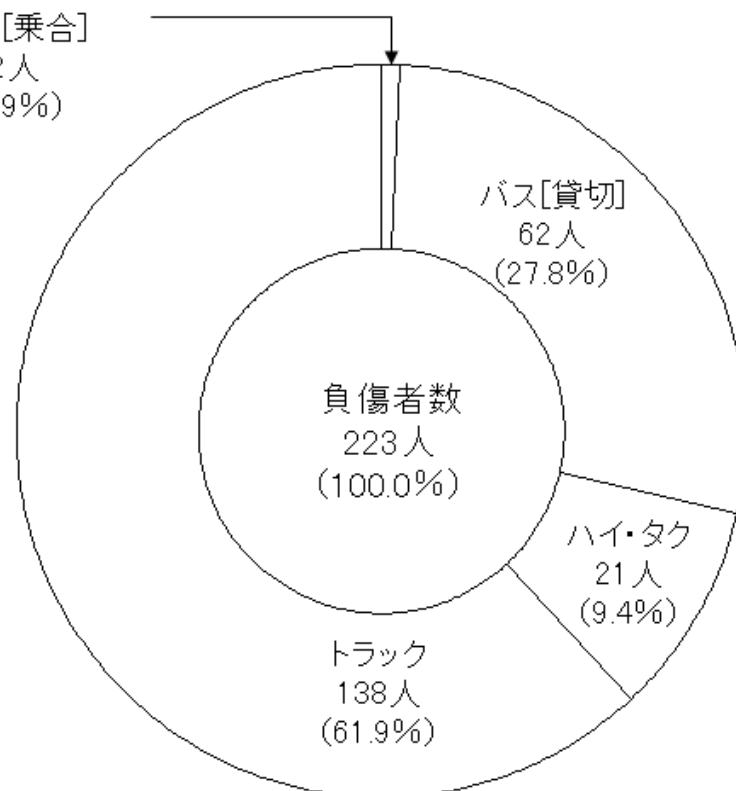
〔図 4-8〕 平成 20 年中の事業種類別転覆、転落事故発生状況



バス[乗合] 0人 (0.0%)
ハイ・タク 0人 (0.0%)



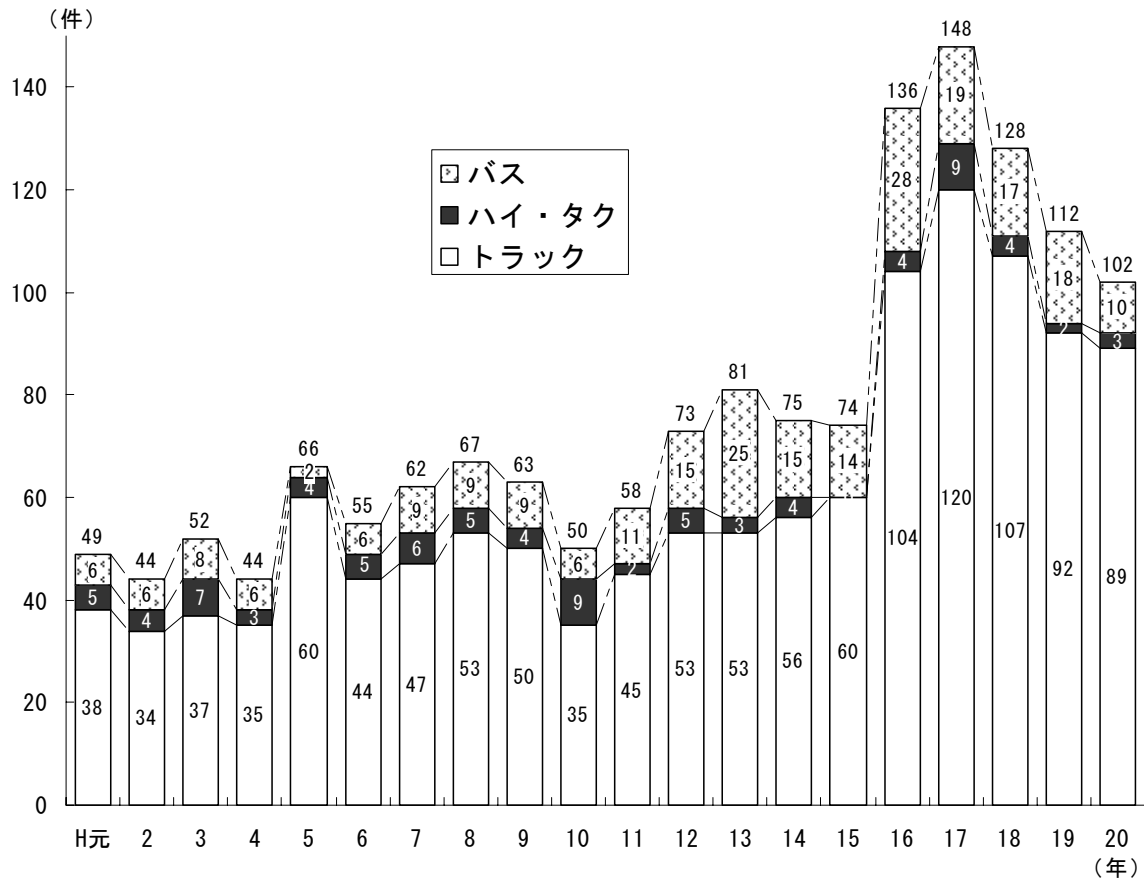
バス[乗合]
2人
(0.9%)



(ウ) 火災事故

平成 20 年中の火災事故件数は図 4-9 に示すとおりであり、全業態で 102 件発生しており、その殆どがトラックとなっている。

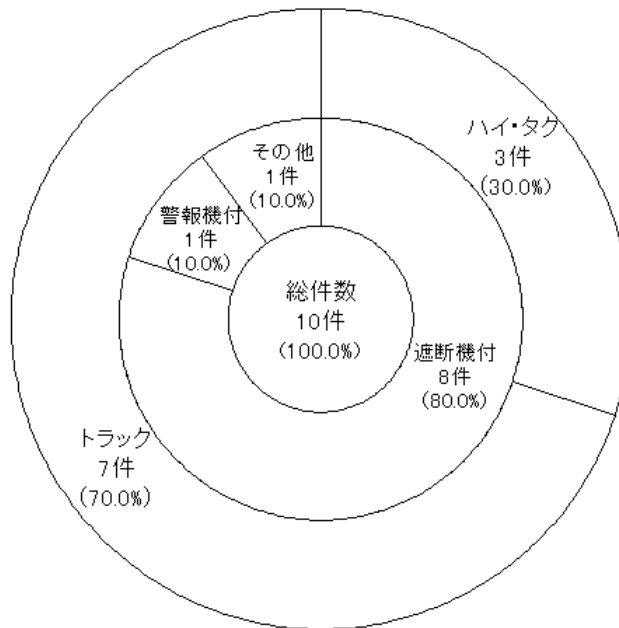
〔図 4-9〕 業態別火災事故発生件数の推移



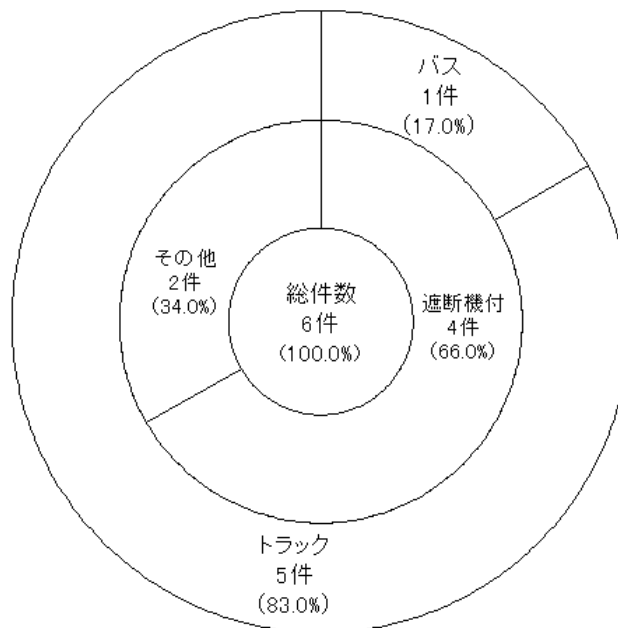
(エ) 踏切事故

踏切事故件数は図4-10（平成19年中）及び図4-11（平成20年中）に示すとおりである。

〔図4-10〕 平成19年中の踏切種類別、業態別踏切事故発生状況



〔図4-11〕 平成20年中の踏切種類別、業態別踏切事故発生状況



(オ) 衝突事故

衝突事故件数は表 4-10 (平成 19 年中) 及び表 4-11 (平成 20 年中) に示すとおりである。また、業態別衝突事故件数は図 4-12 (平成 19 年中) 及び図 4-13 (平成 20 年中) に示すとおりである。

〔表 4-10〕 平成 19 年中の業態別衝突事故件数

業態別		件数	構成比 (%)
バス	乗合	90 (-31)	5.8
	貸切	48 (+5)	3.1
	特定	1 (±0)	0.1
ハイ・タク		291 (-43)	18.8
トラック		1,119 (-173)	72.2
計		1,549 (-242)	100.0

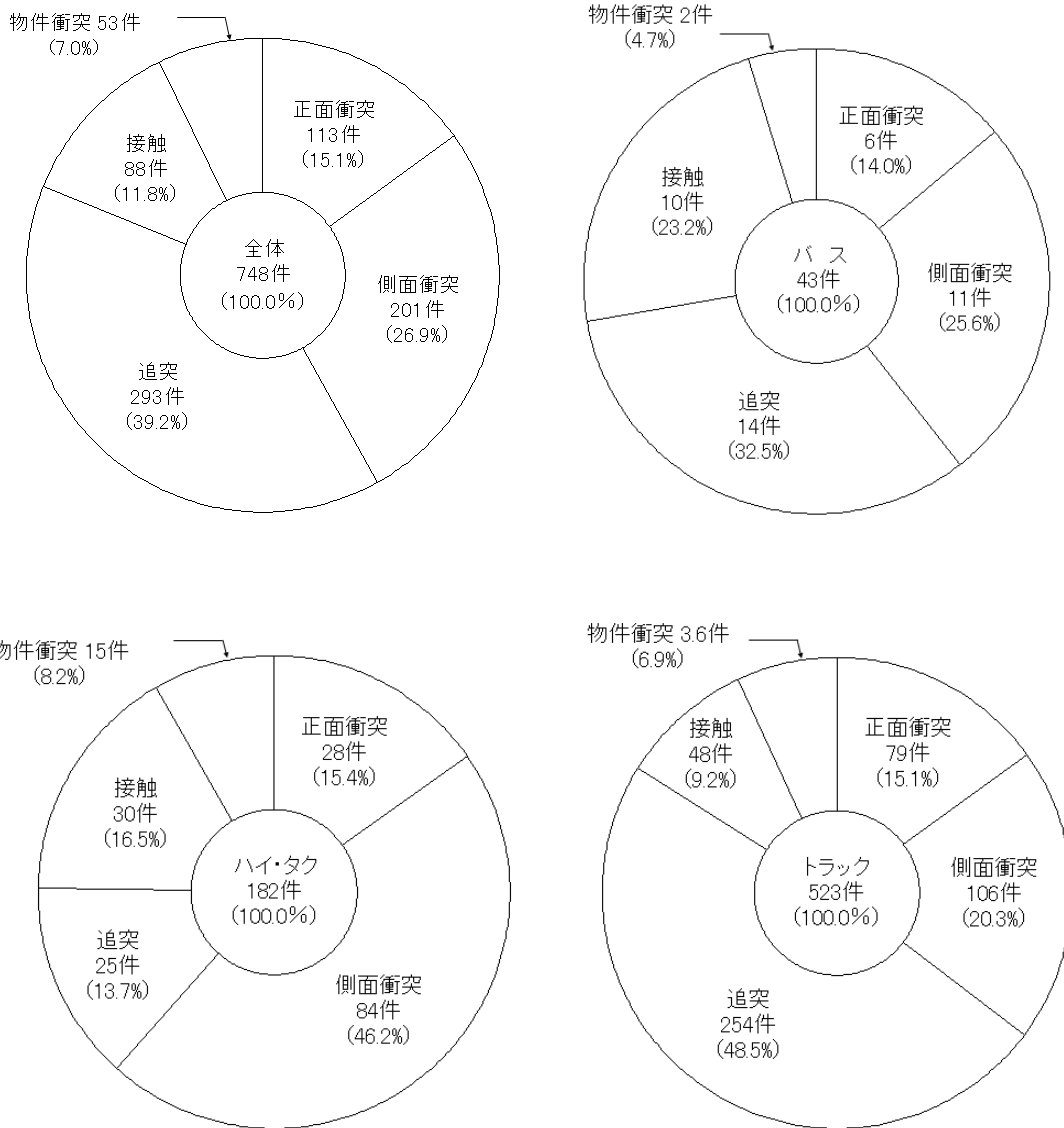
※ () 内は前年比を示す

〔表 4-14〕 平成 20 年中の業態別衝突事故件数

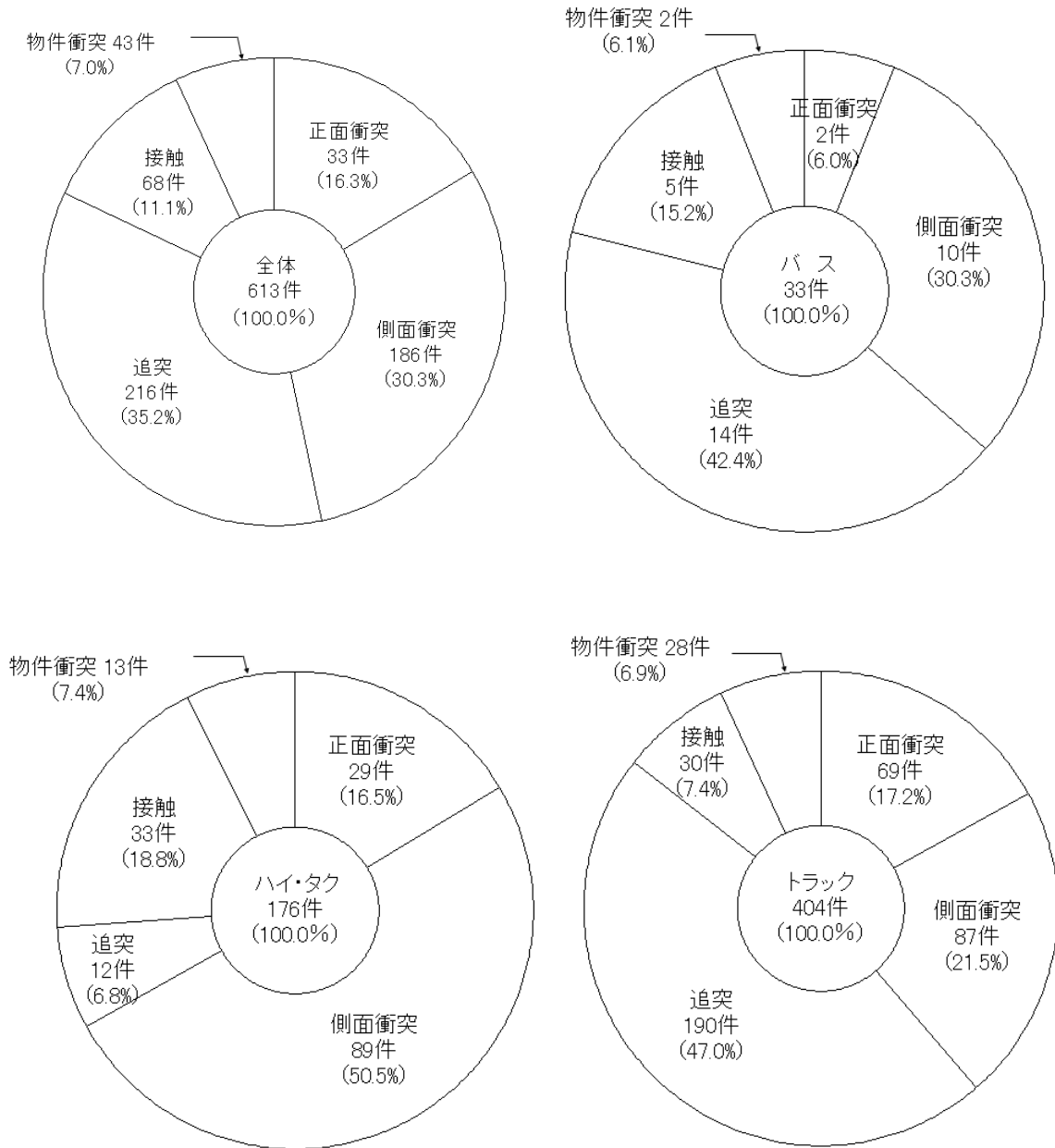
業態別		件数	構成比 (%)
バス	乗合	89 (-1)	6.7
	貸切	43 (-5)	3.2
	特定	2 (+1)	0.1
ハイ・タク		269 (-22)	20.1
トラック		935 (-184)	69.9
計		1,338 (-211)	100.0

※ () 内は前年比を示す

**〔図 4 - 1 2〕 平成 19 年中の業態別、衝突の状態別衝突事故発生状況
(乗務員に起因するもの)**



〔図4-13〕 平成20年中の業態別、衝突の状態別衝突事故発生状況
 (乗務員に起因するもの)



(カ) 死傷事故

死傷事故件数は表 4-12 (平成 19 年中) 及び表 4-13 (平成 20 年中) に示すとおりである。また、その発生状況は図 4-14 (平成 19 年中) 及び図 4-15 (平成 20 年中) に示すとおりである。

[表 4-12] 平成 19 年中の業態別死傷事故件数

業態別		件数	構成比 (%)
バス	乗合	108 (+3)	11.1
	貸切	13 (-8)	1.3
	特定	0 (-1)	0.0
ハイ・タク		297 (-42)	30.4
トラック		559 (-87)	57.2
計		977 (-93)	100.0

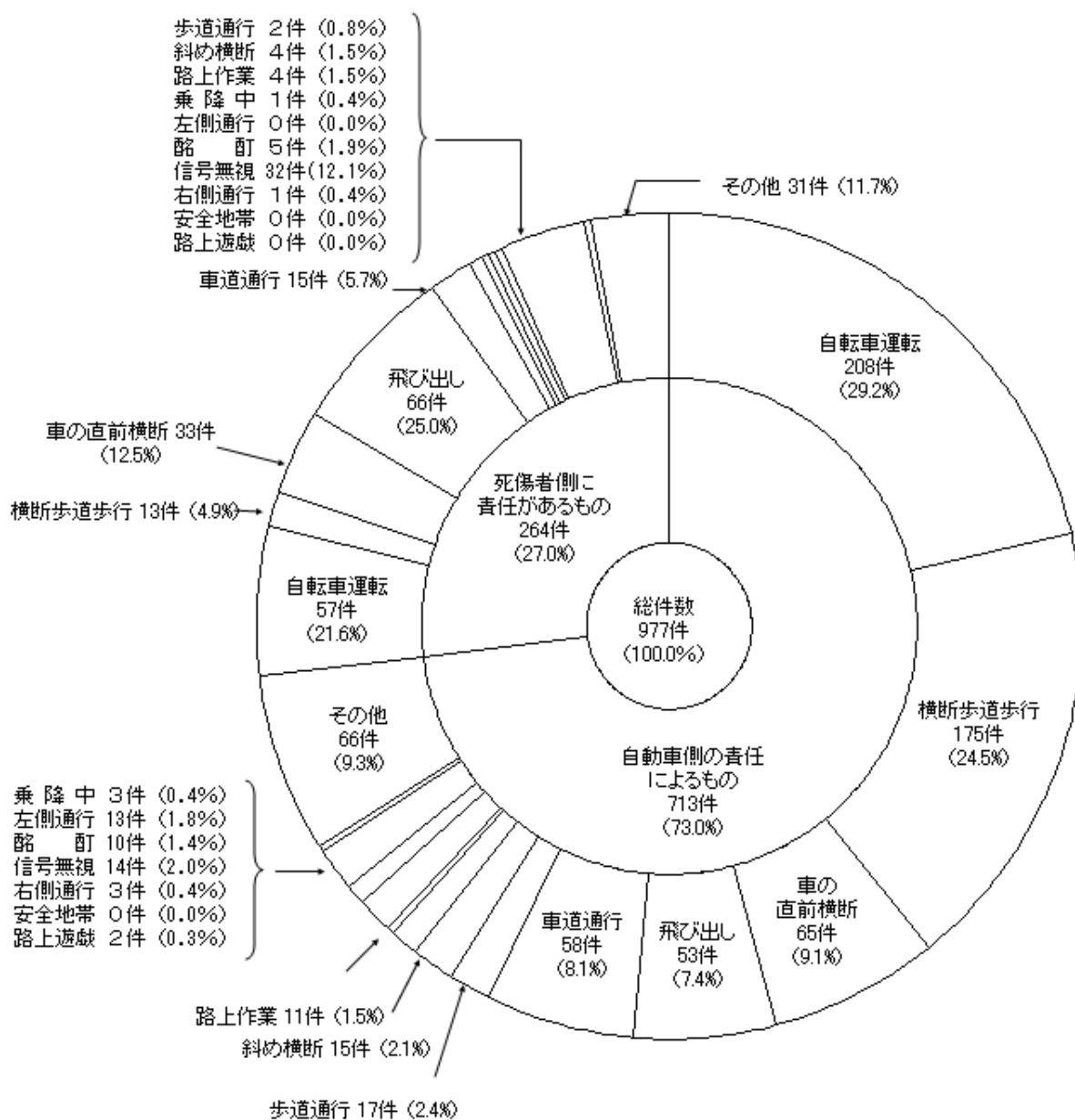
※ () 内は前年比を示す

[表 4-13] 平成 20 年中の業態別死傷事故件数

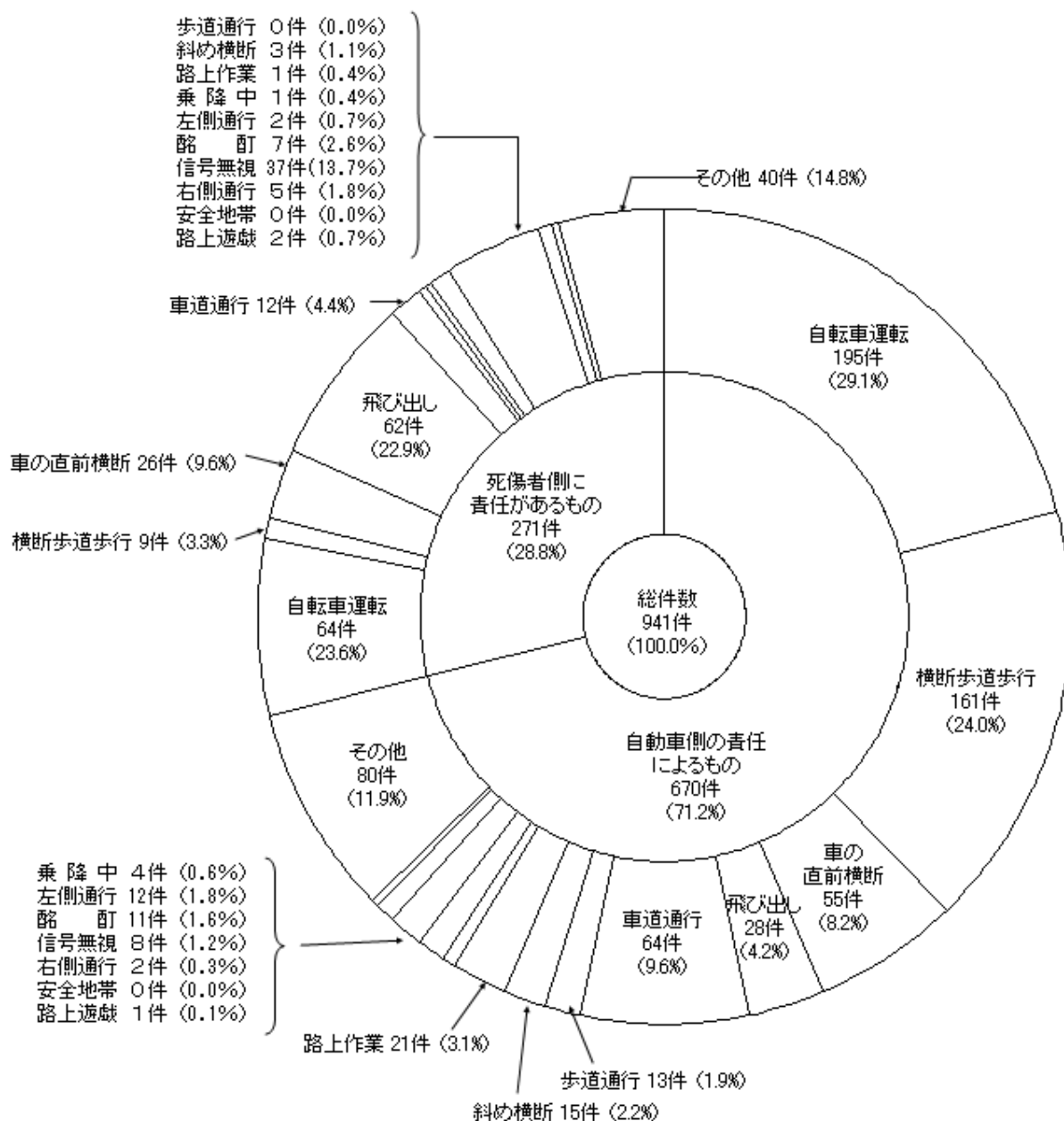
業態別		件数	構成比 (%)
バス	乗合	92 (-16)	9.8
	貸切	18 (+5)	1.9
	特定	4 (+4)	0.4
ハイ・タク		297 (±0)	31.6
トラック		530 (-29)	56.3
計		941 (-36)	100.0

※ () 内は前年比を示す

〔図4-14〕 平成19年中の死傷事故当時の死傷者側の状態



〔図4-15〕 平成20年中の死傷事故当時の死傷者側の状態

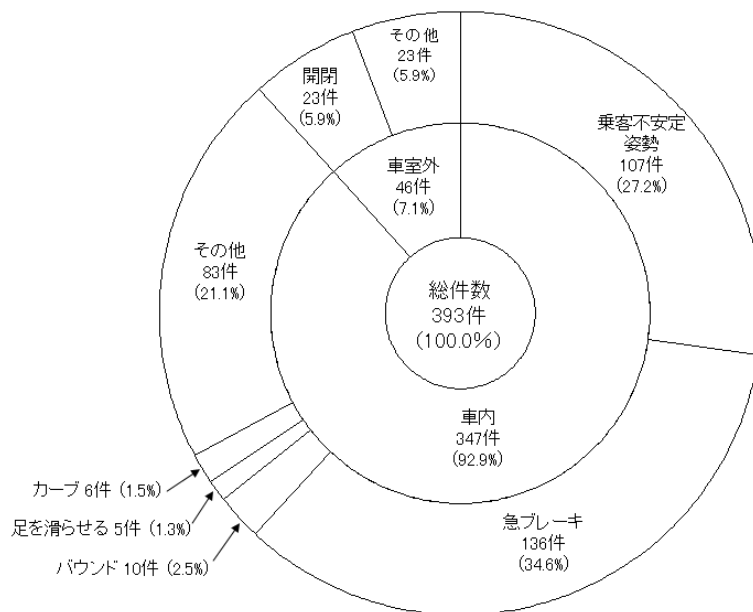


(キ) 車内事故

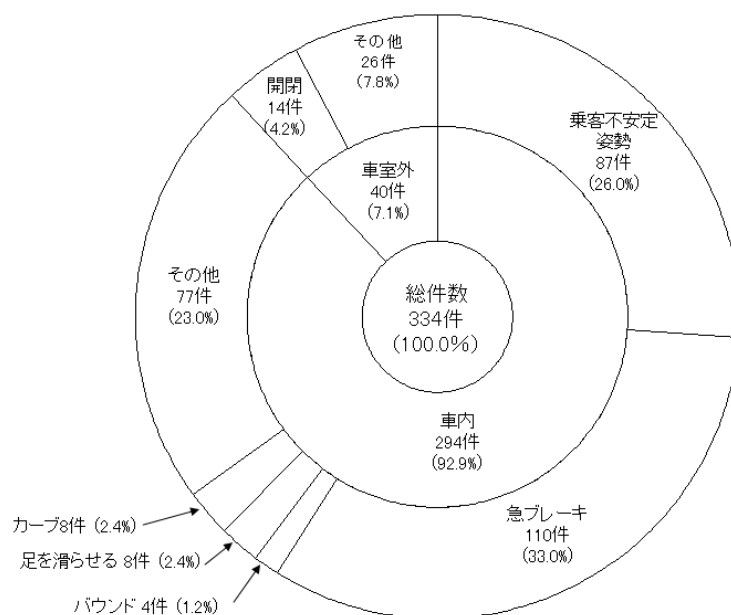
バス及びハイ・タクの車内事故の原因別重大事故発生状況は図4-16（平成19年中）及び図4-17（平成20年中）に示すとおりである。

原因についてみると急ブレーキが最も多く、次いで乗客の不安定姿勢の順となっている。

〔図4-16〕 平成19年中のバス及びハイ・タクの車内事故の原因別重大事故発生状況



〔図4-17〕 平成20年中のバス及びハイ・タクの車内事故の原因別重大事故発生状況

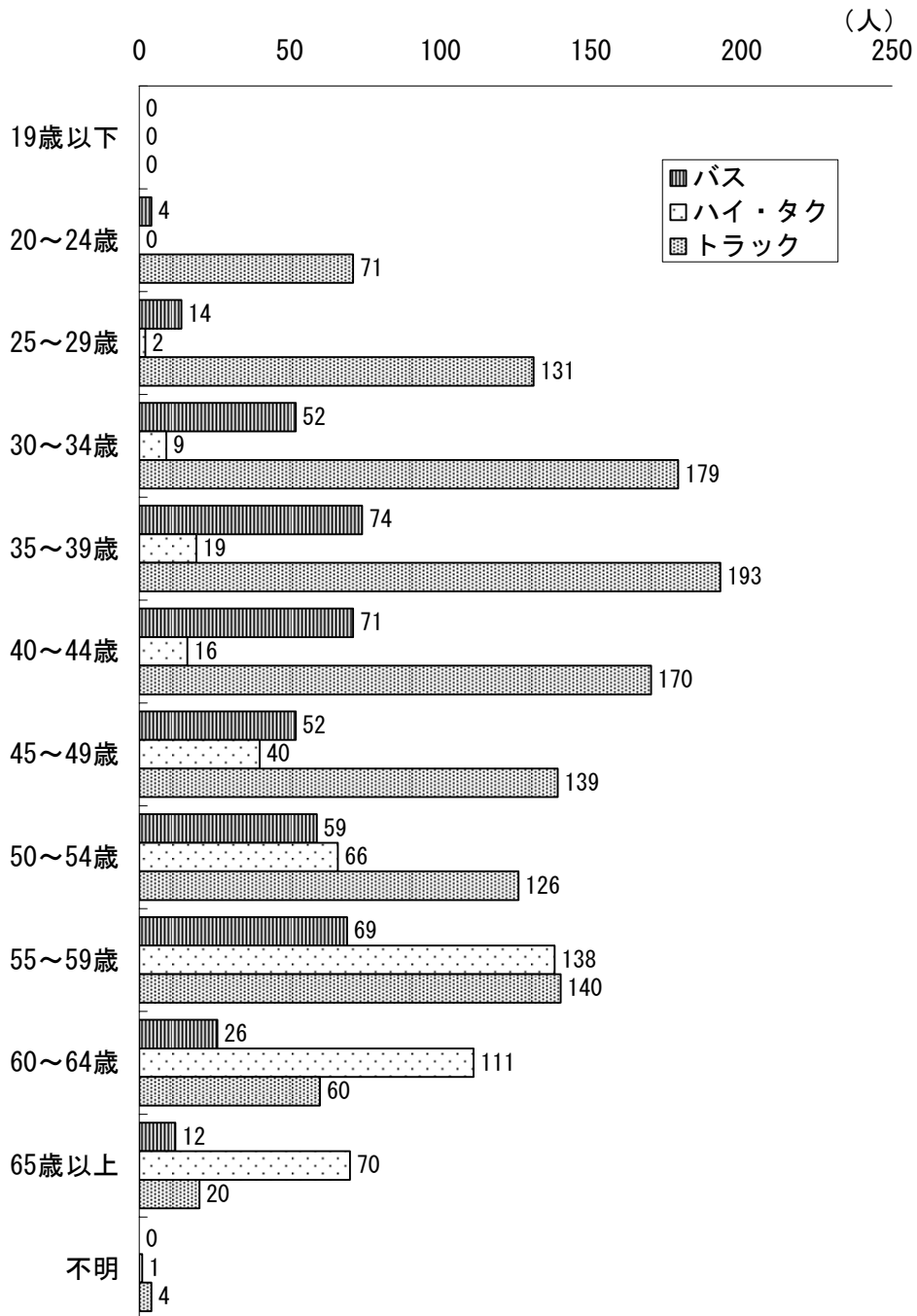


5. 事故発生運転者

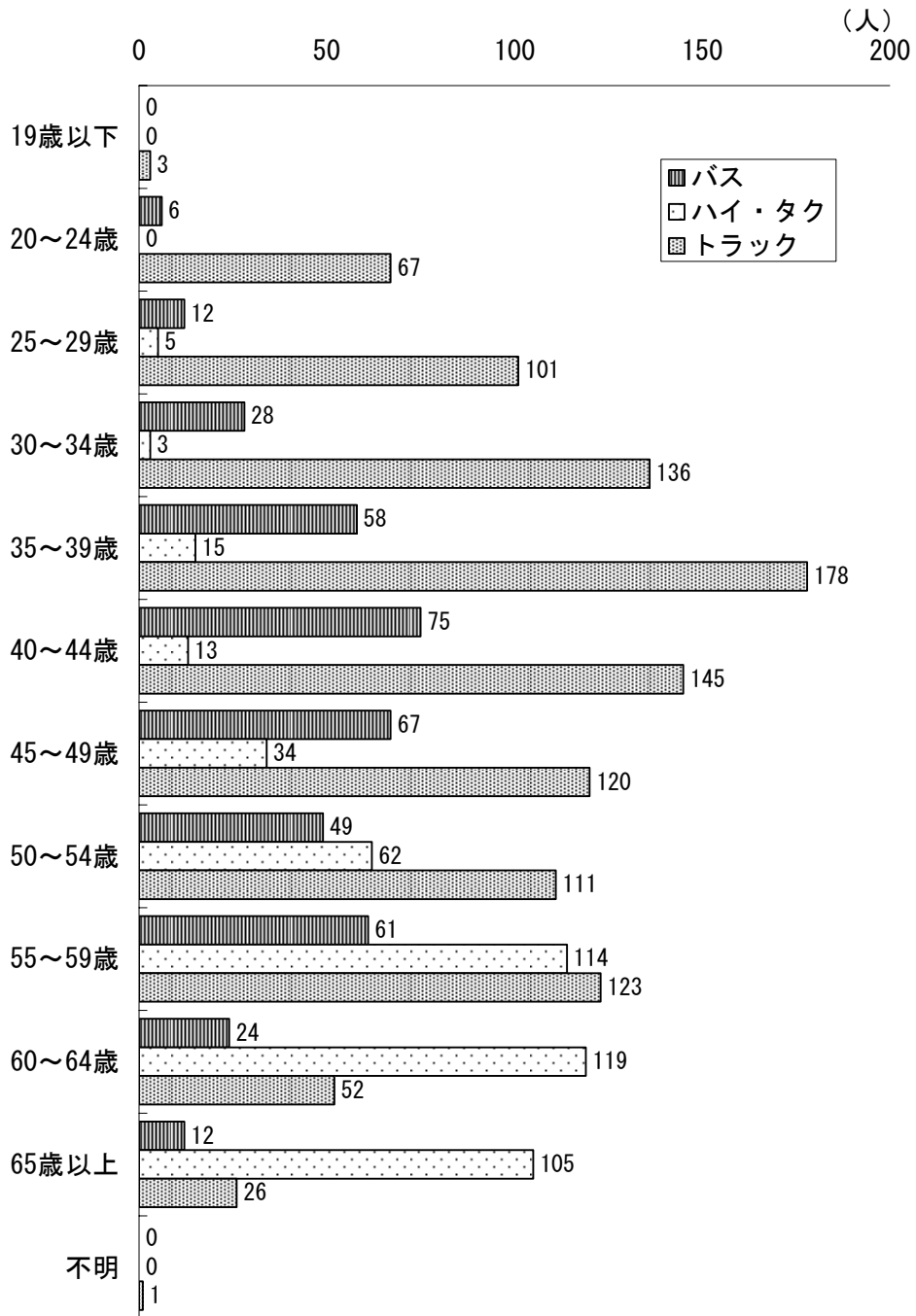
(1) 事故発生運転者の年齢

事故発生運転者の年齢分布は、図5-1（平成19年中）及び図5-2（平成20年中）に示すとおりである。

〔図5-1〕平成19年中の事故発生運転者の年齢分布



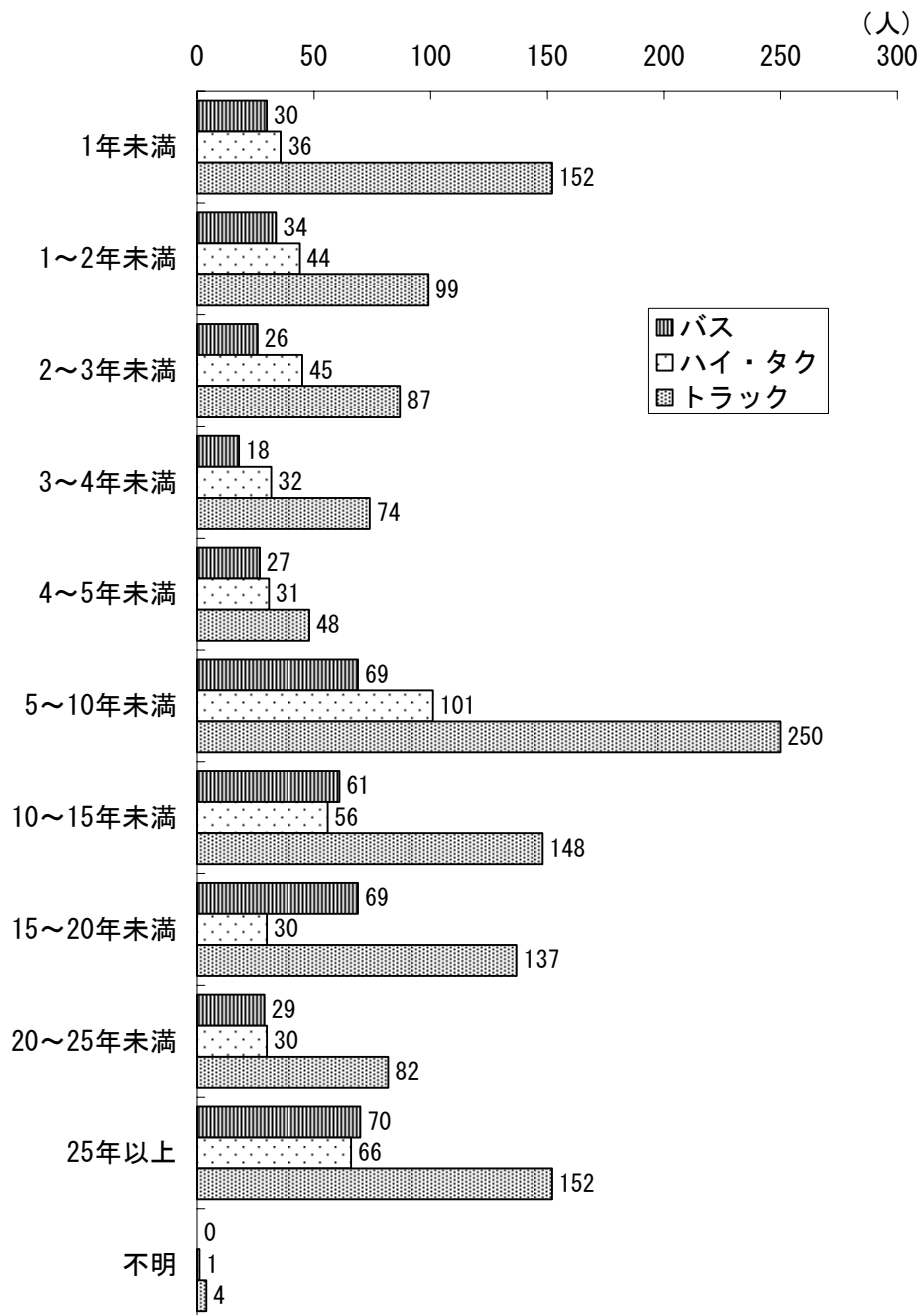
〔図5-2〕平成20年中の事故発生運転者の年齢分布



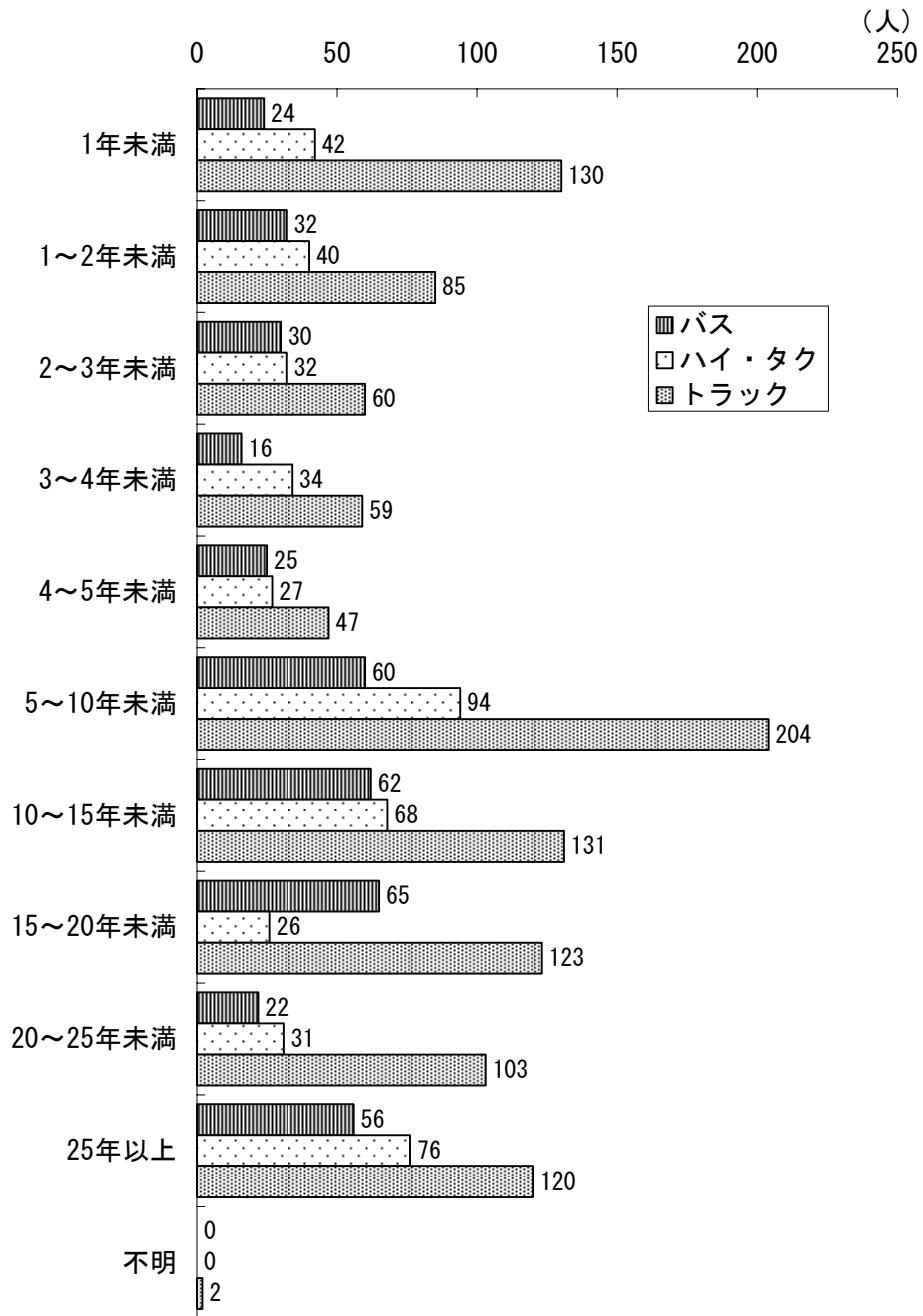
(2) 事故発生運転者の経験年数

事故発生運転者の経験年数分布は、図5-3（平成19年中）及び図5-4（平成20年中）に示すとおりである。

〔図5-3〕平成19年中の事故発生運転者の経験年数分布



〔図5-4〕平成20年中の事故発生運転者の経験年数分布

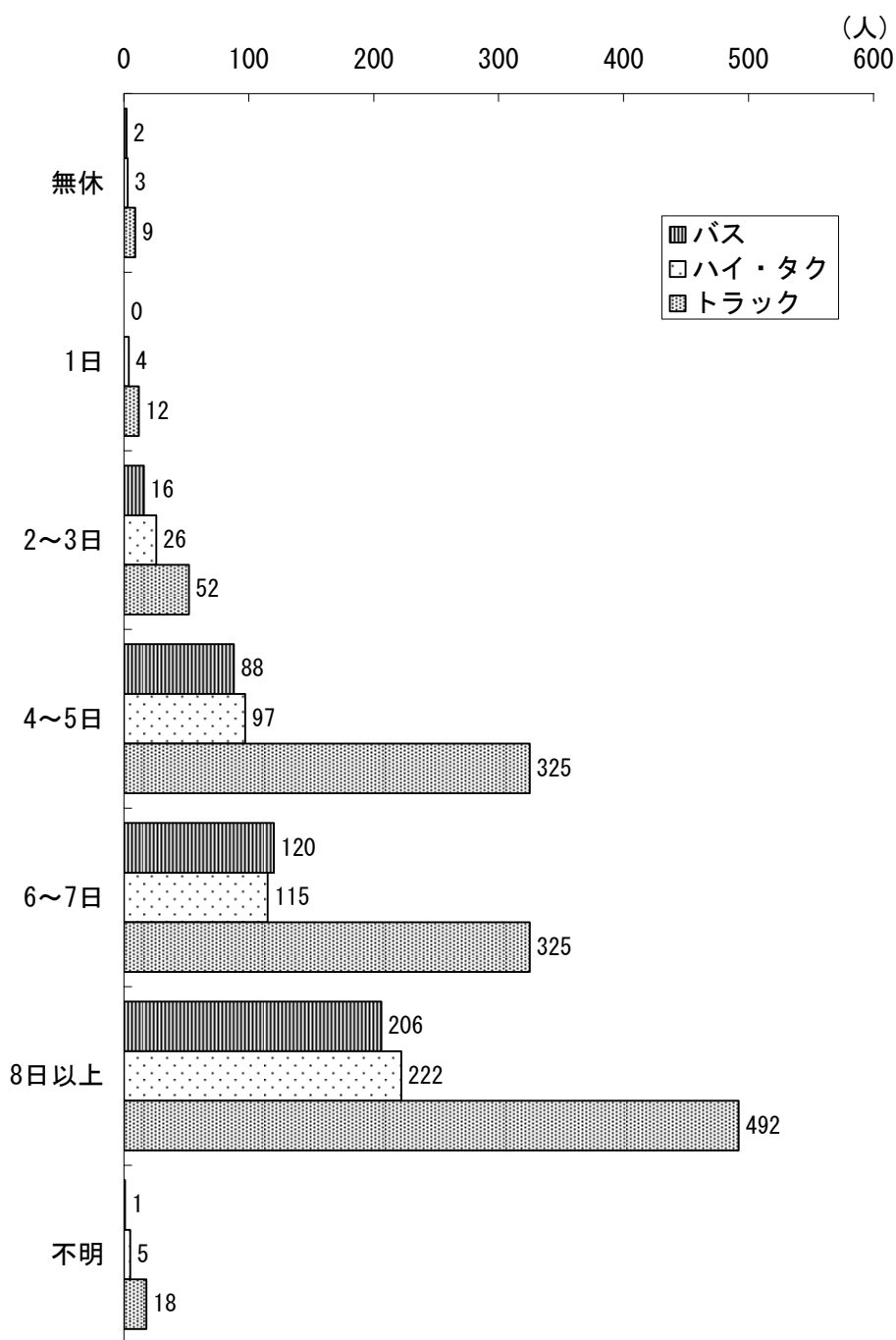


(3) 事故発生運転者の勤務状況

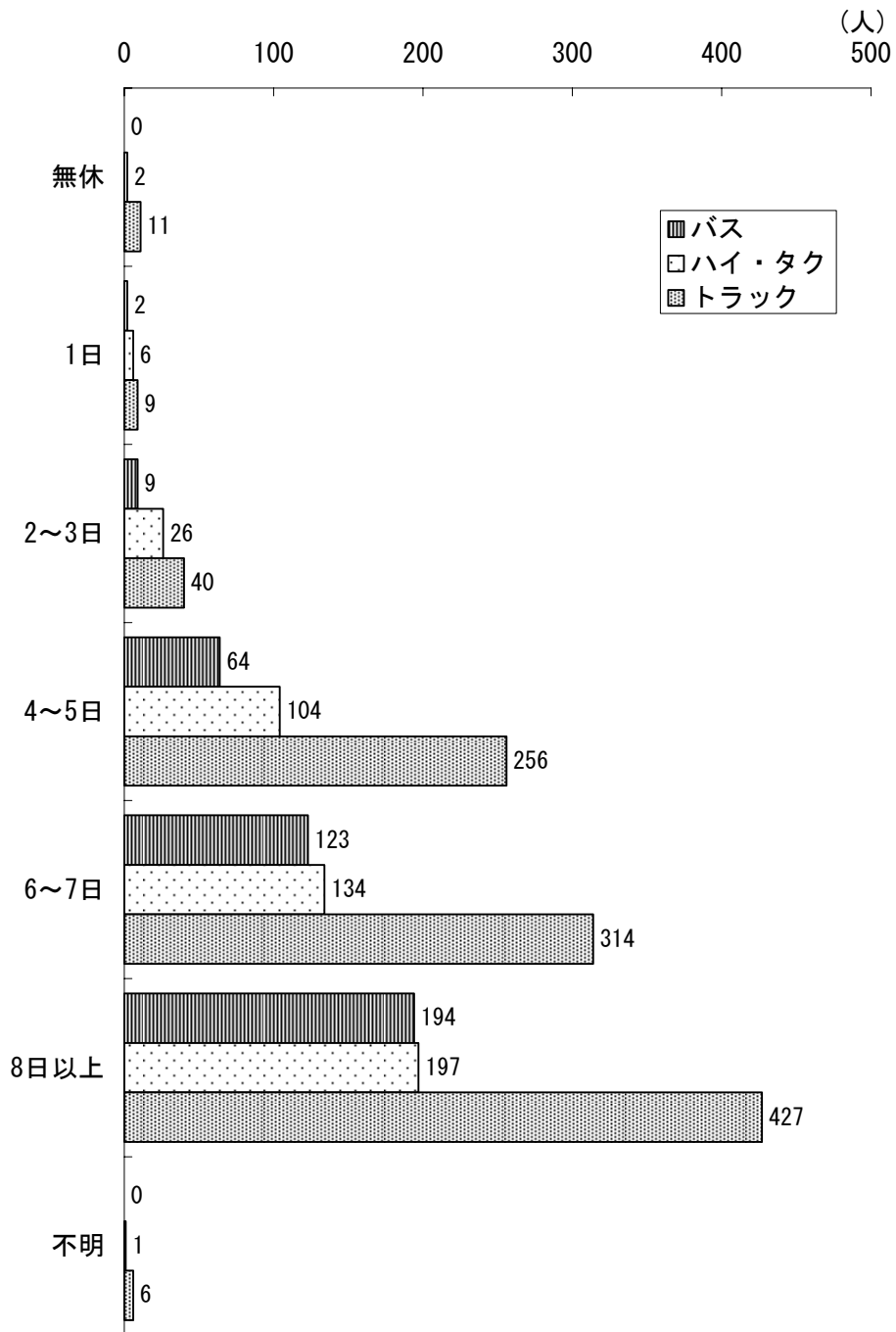
(ア) 事故発生以前1ヶ月間の休日日数

運転者の事故発生以前1ヶ月間の休日日数は、図5-5（平成19年中）及び図5-6（平成20年中）に示すとおりである。

〔図5-5〕 平成19年中の事故発生以前1ヶ月間の休日日数の分布



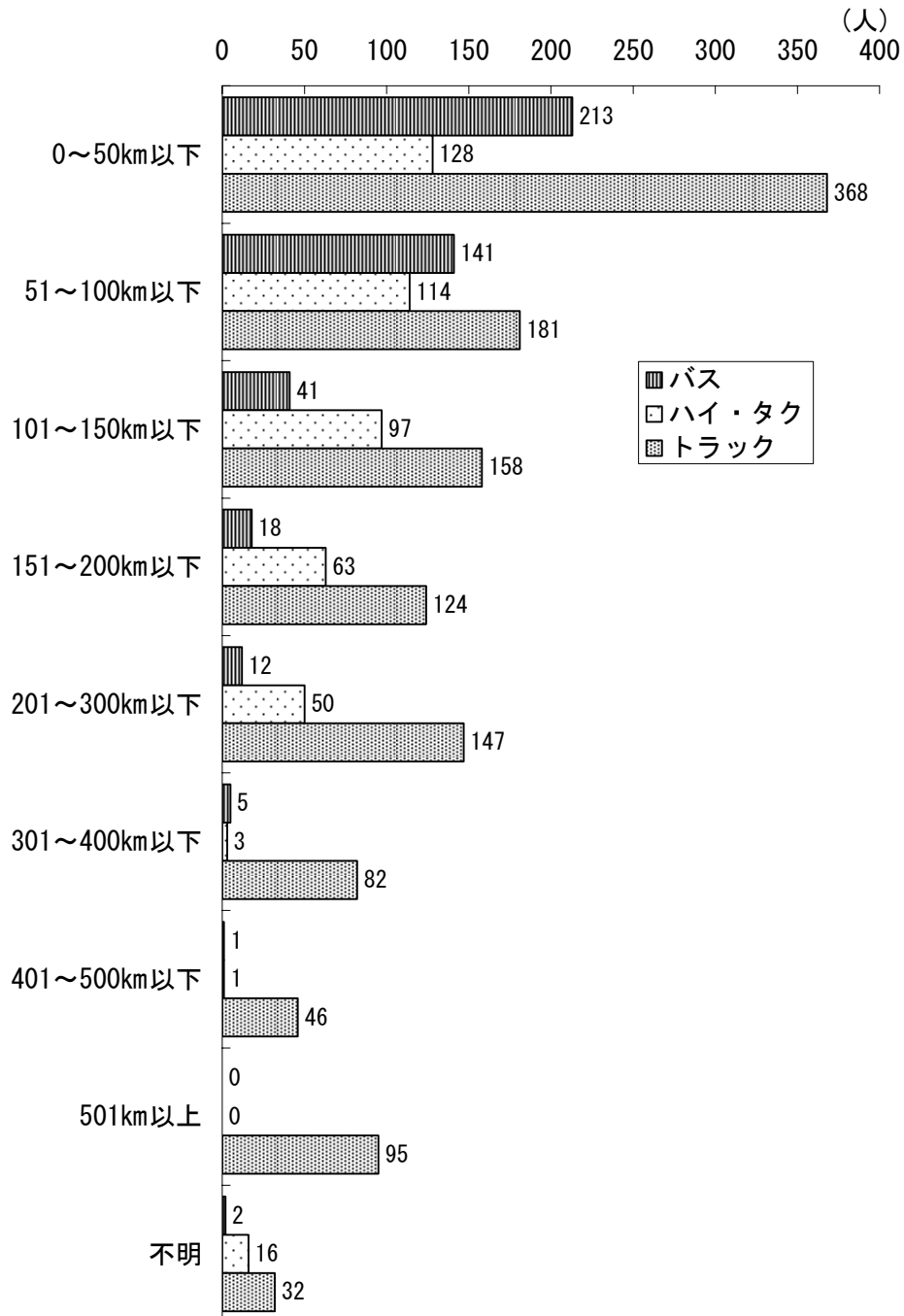
〔図5-6〕 平成20年中の事故発生以前1ヶ月間の休日日数の分布



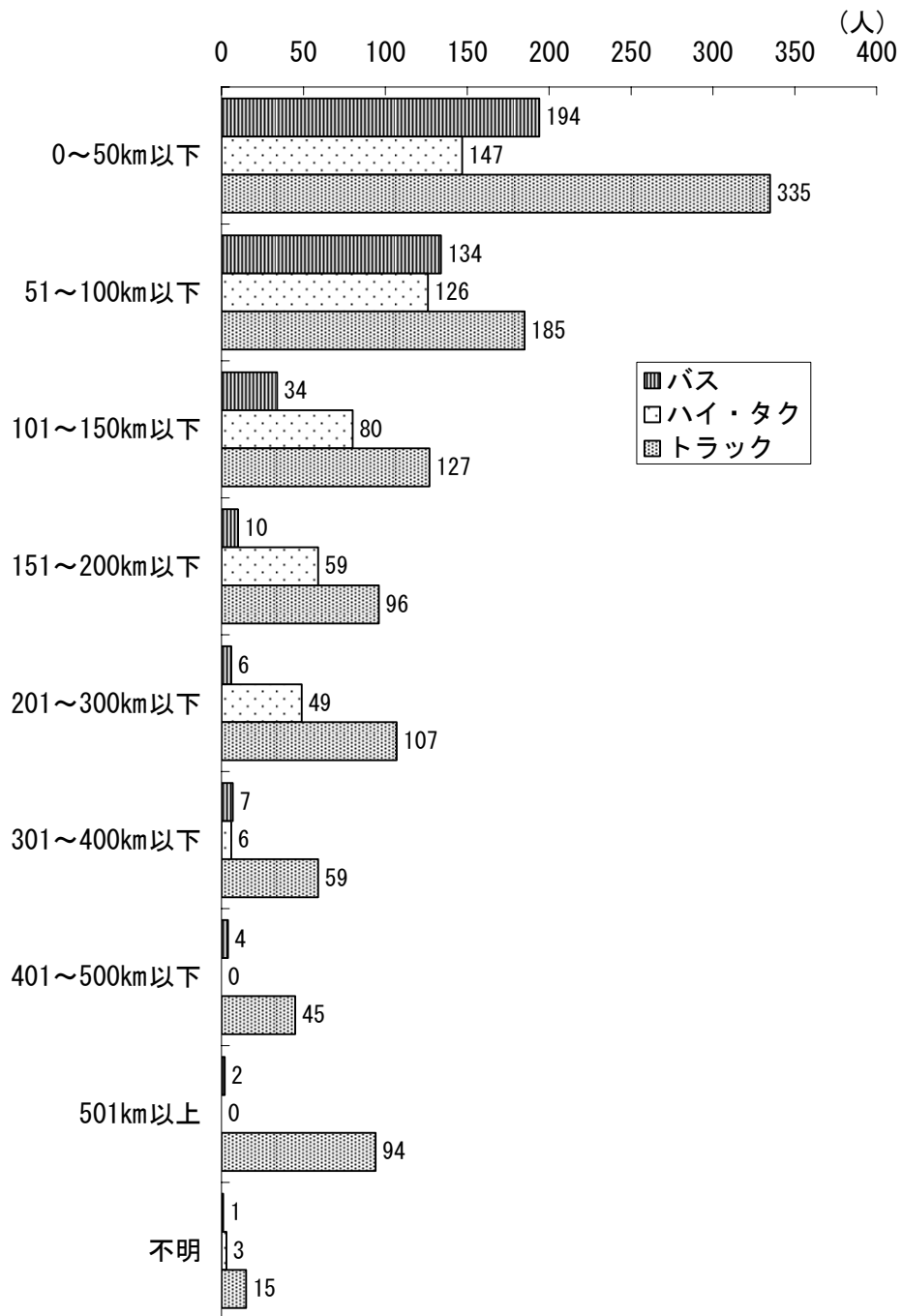
(イ) 事故発生までの乗務距離

運転者の事故発生までの乗務距離は、図5-7（平成19年中）及び図5-8（平成20年中）に示すとおりである。

〔図5-7〕 平成19年中の事故発生までの乗務距離の分布



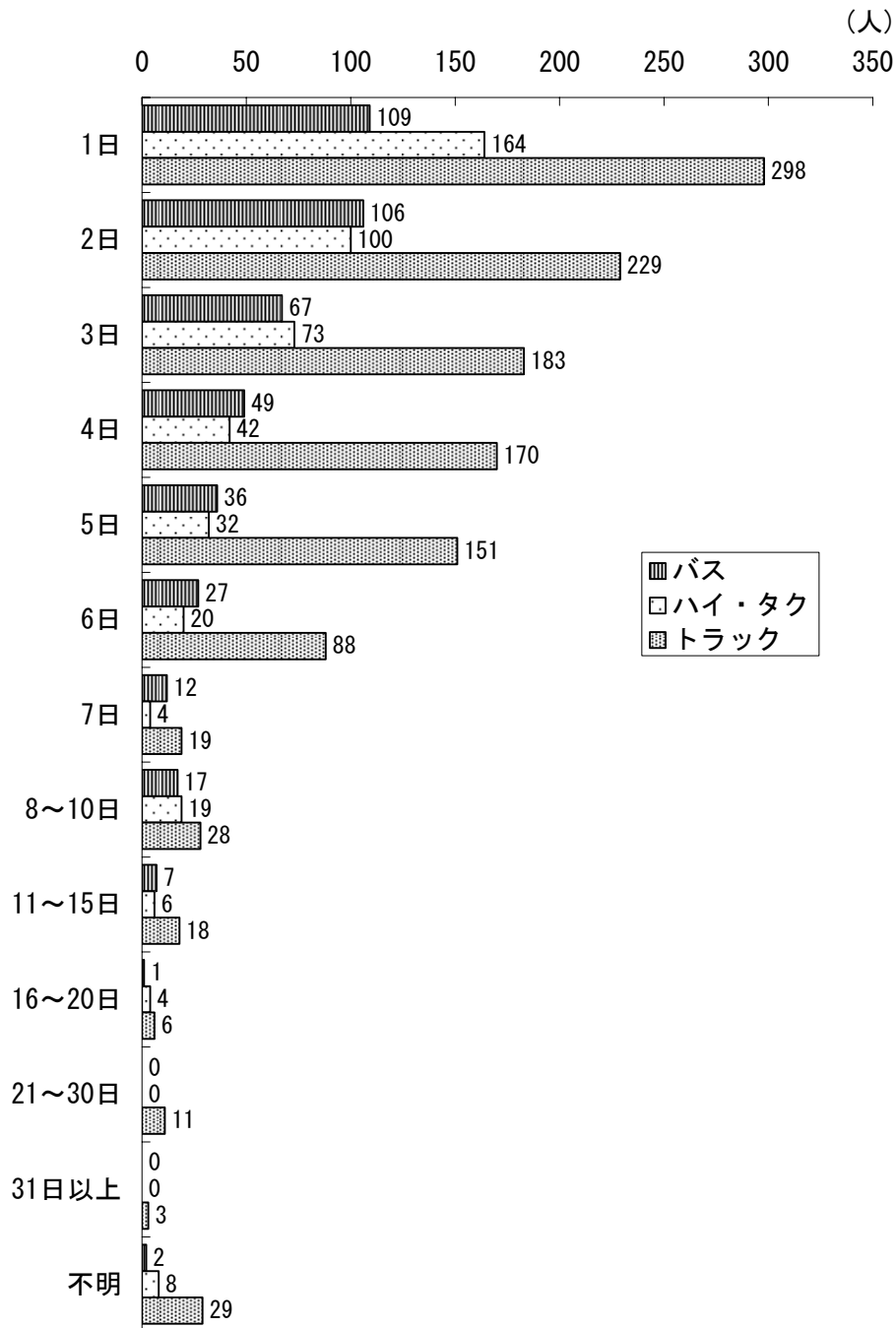
〔図5-8〕 平成20年中の事故発生までの乗務距離の分布



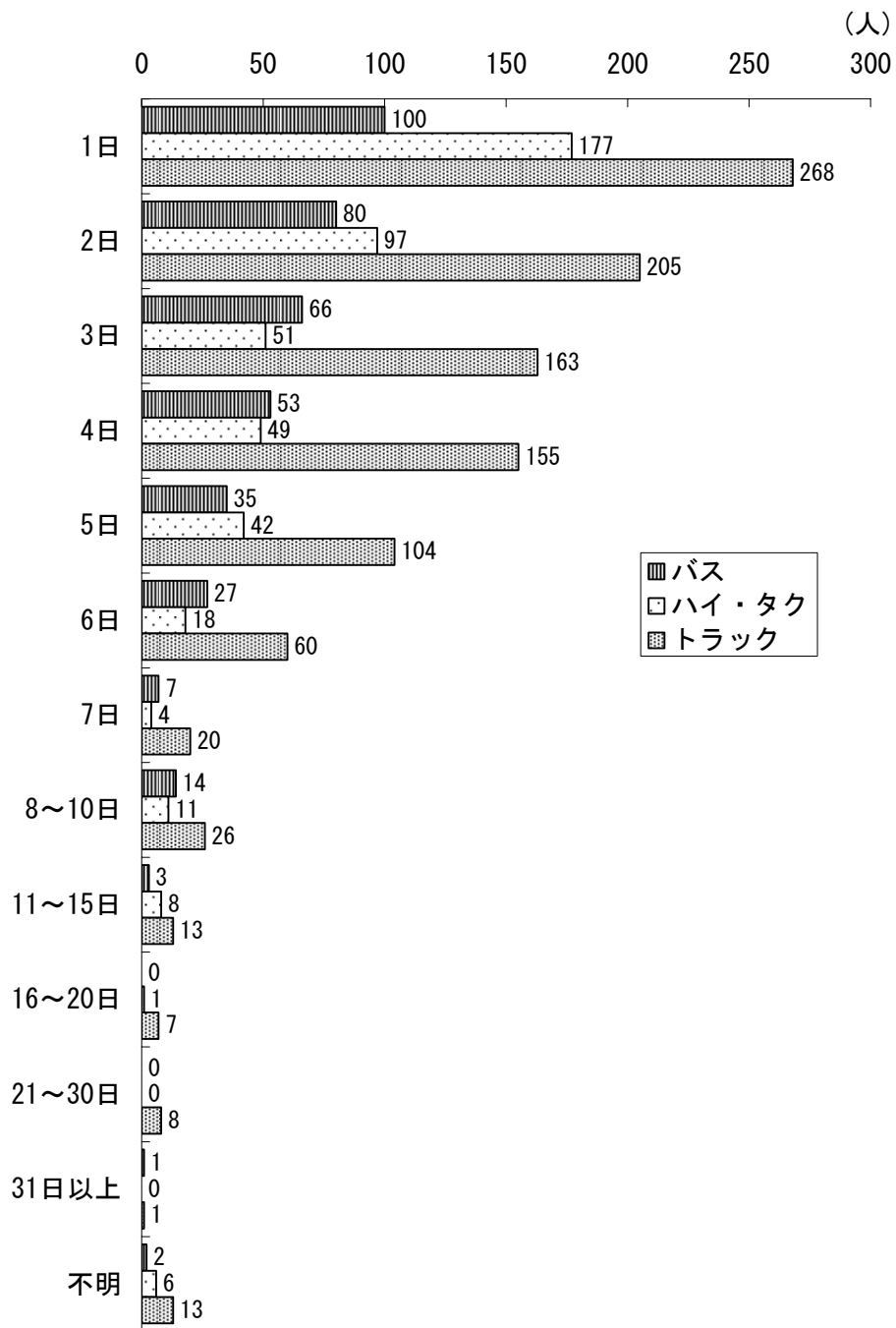
(ウ) 休日から事故までの勤務日数

運転者の休日から事故までの勤務日数は、図5-9（平成19年中）及び図5-10（平成20年中）に示すとおりである。

〔図5-9〕 平成19年中の休日から事故までの勤務日数の分布



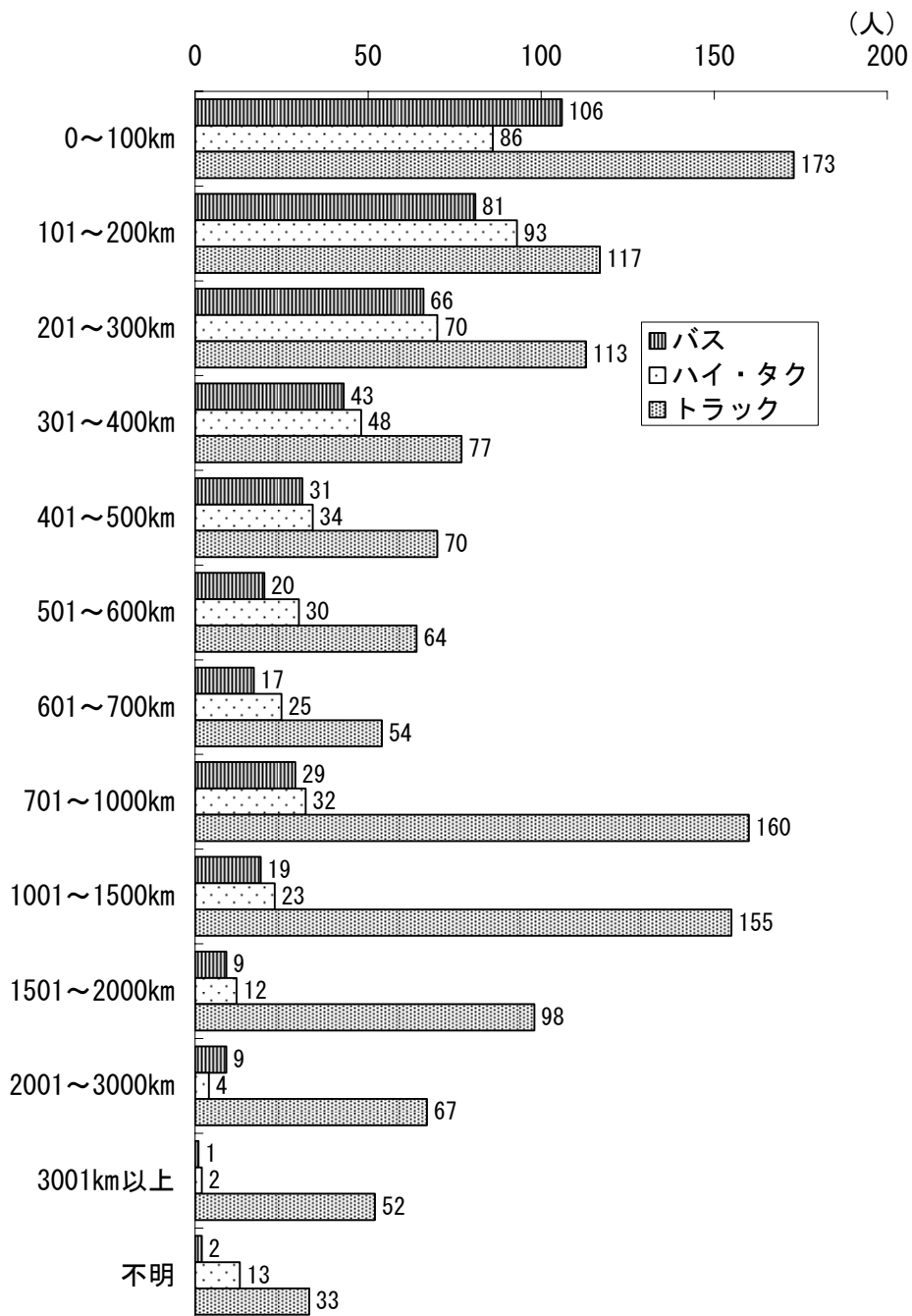
〔図5-10〕 平成20年中の休日から事故までの勤務日数の分布



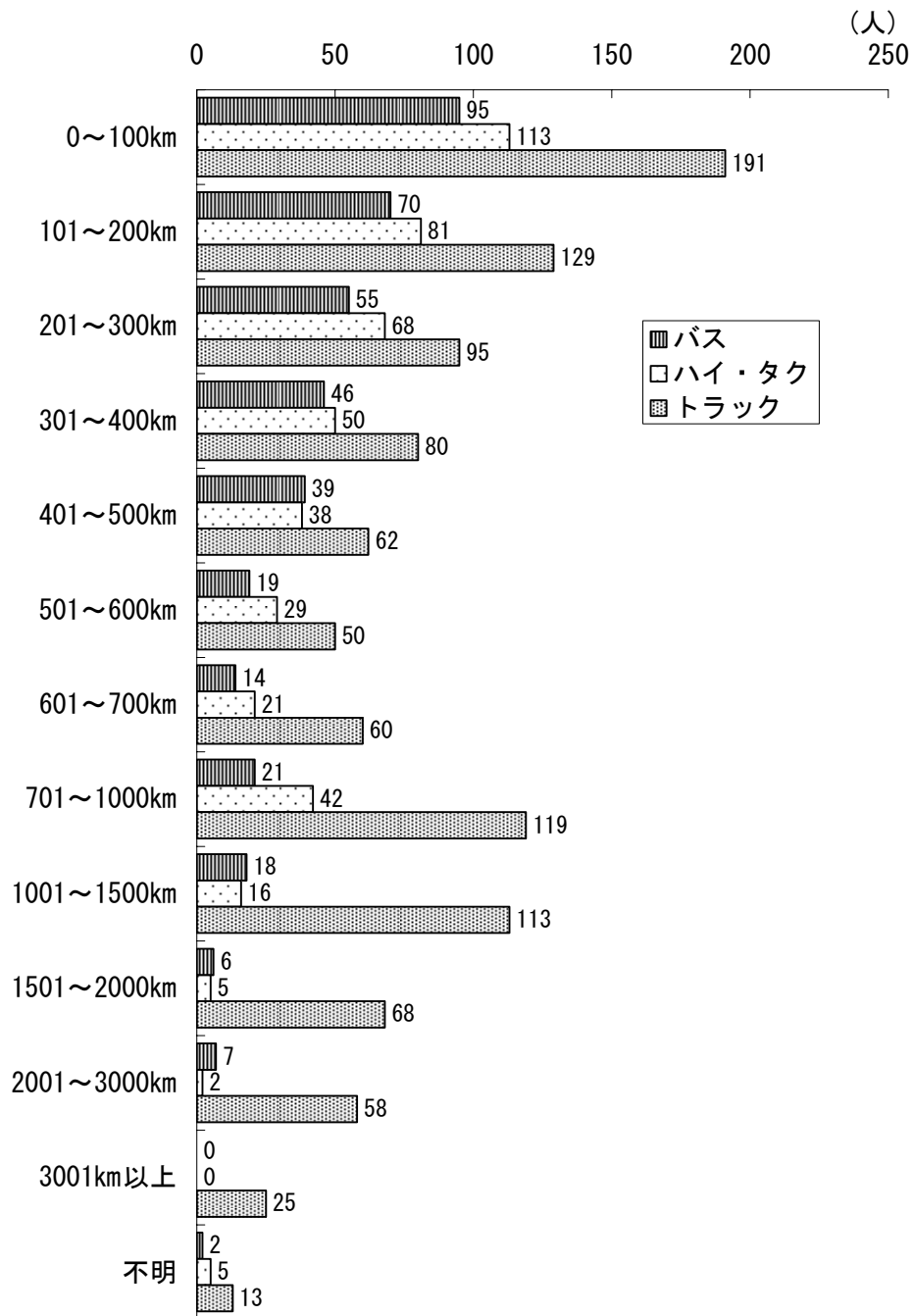
(エ) 休日から事故日までの乗務距離の合計

運転者の休日から事故日までの乗務距離の合計は、図5-11（平成19年中）及び図5-12（平成20年中）に示すとおりである。

〔図5-11〕 平成19年中の休日から事故日までの乗務距離の合計の分布



〔図5-12〕 平成20年中の休日から事故日までの乗務距離の合計の分布

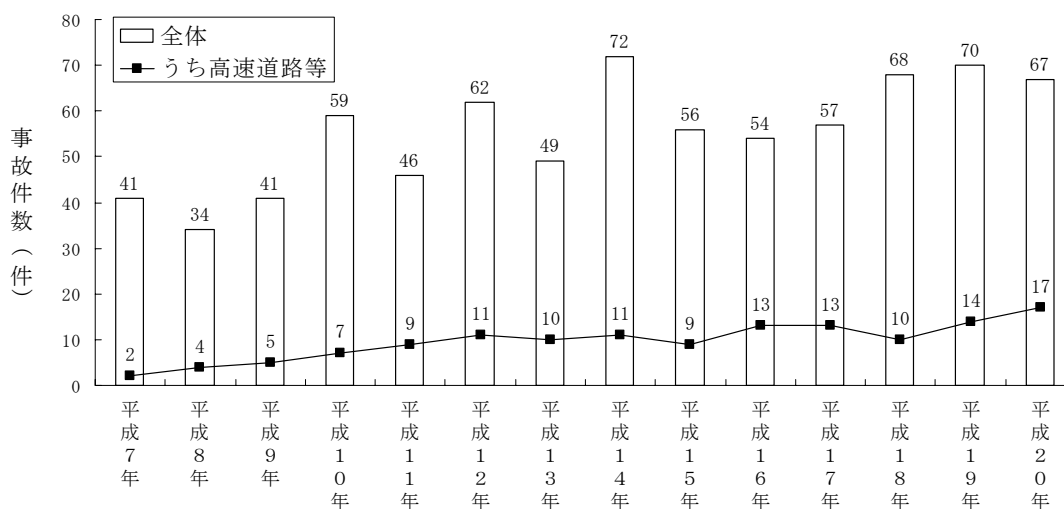


6. 危険物等積載車両の重大事故

(1) 危険物等積載車両の重大事故発生状況の推移

事業用自動車の危険物運搬車両の重大事故発生状況の推移は図6-1に示すとおりであり、平成20年中の事業用自動車の重大事故のうち危険物等積載車両によるものは67件で、重大事故件数の1.2%を占めている。また、このうち高速道路等においては17件で、高速道路等における重大事故件数の2.9%を占めている。

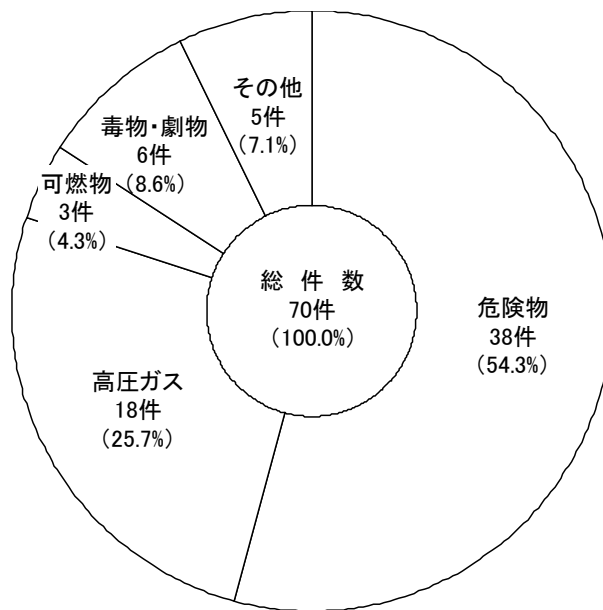
〔図6-1〕 危険物等積載運搬車両の重大事故発生状況の推移



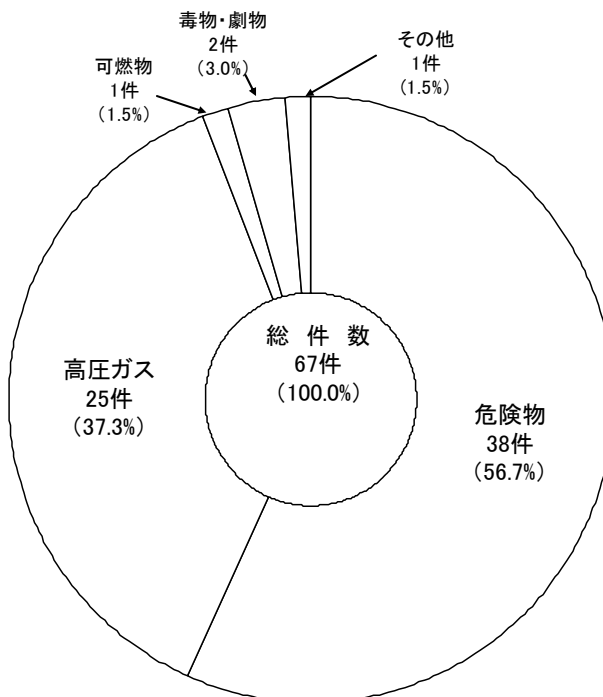
(2) 積載物品別重大事故

積載物品別重大事故発生状況は、図6-2（平成19年中）及び図6-3（平成20年中）のとおりである。

〔図6-2〕 平成19年中の積載危険物等別重大事故発生状況



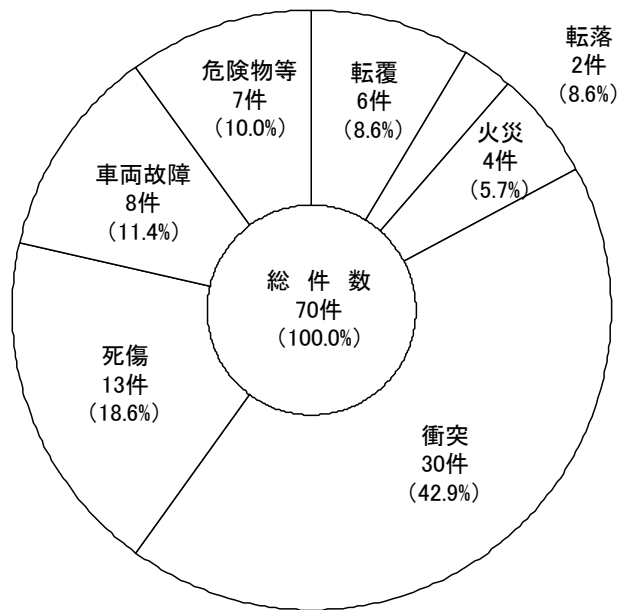
〔図6-3〕 平成20年中の積載危険物等別重大事故発生状況



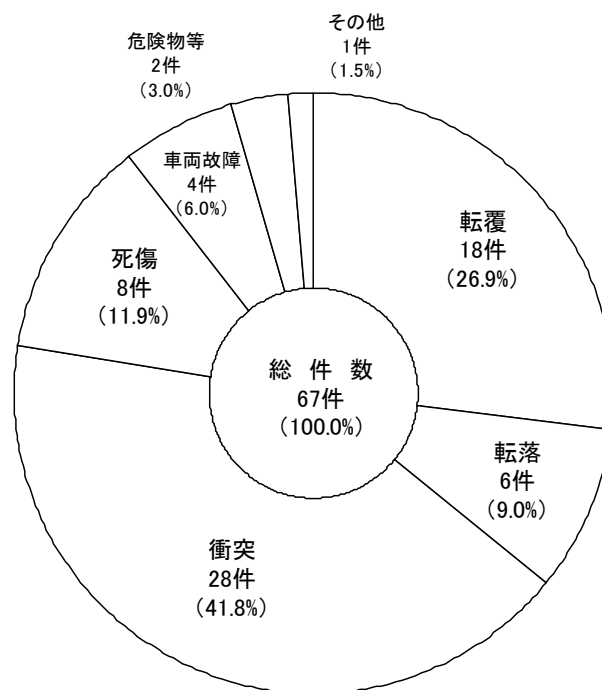
(3) 事故種別別重大事故

事故種別別重大事故発生状況は、図6-4（平成19年中）及び図6-5（平成20年中）のとおりである。

〔図6-4〕 平成19年中の事故種別別重大事故発生状況



〔図6-5〕 平成20年中の事故種別別重大事故発生状況



7. 高速道路等における重大事故発生状況

高速自動車国道及び自動車専用道路等における重大事故発生状況は表7-1（平成19年中）及び表7-2（平成20年中）に示すとおりである。

〔表7-1〕 平成19年中の業態別高速道路等における重大事故発生状況

項 目		業態	バス			
			乗合		貸切	
		道路	高速	専用	高速	専用
重大事故件数		(件)	258	33	99	13
死傷状況等	死者数	(人)	0(0)	1(0)	5(0)	0(0)
	重傷者数	(人)	4(0)	2(1)	11(1)	4(0)
	軽傷者数	(人)	17(3)	10(1)	149(5)	50(6)
	計	(人)	21(3)	13(2)	165(6)	54(2)

項 目		業態	ハイ・タク		トラック		計		合計
			道路	高速	専用	高速	専用	高速	
重大事故件数		(件)	6	8	338	103	701	157	858
死傷状況等	死者数	(人)	0(0)	2(0)	112	40	117(0)	43(0)	160(0)
	重傷者数	(人)	2(0)	7(0)	108	29	125(1)	42(1)	167(2)
	軽傷者数	(人)	7(0)	4(0)	205	116	378(8)	180(7)	558(15)
	計	(人)	9(0)	13(0)	425	185	620(9)	265(8)	885(17)

（注）死傷状況等における（ ）内数値は、乗客が死傷した人数を示す。

〔表 7-2〕 平成 20 年中の業態別高速道路等における重大事故発生状況

項 目		業態	バス			
			乗合		貸切	
		道路	高速	専用	高速	専用
重 大 事 故 件 数		(件)	192	33	98	20
死傷状況等	死 者 数	(人)	2(0)	0(0)	2(0)	2(0)
	重 傷 者 数	(人)	3(2)	4(2)	6(0)	12(4)
	軽 傷 者 数	(人)	28(3)	31(1)	71(47)	17(11)
	計	(人)	33(5)	35(3)	79(47)	31(15)

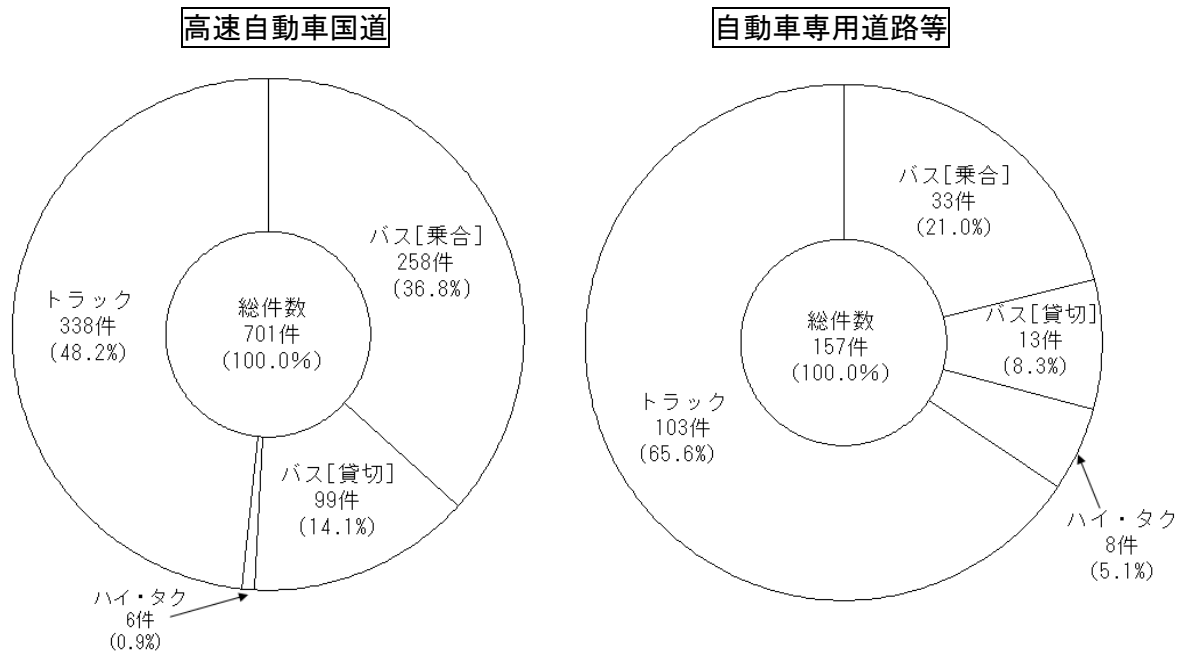
項 目		業態	ハイ・タク		トラック		計		合計
			道路	高速	専用	高速	専用	高速	
重 大 事 故 件 数		(件)	6	7	289	83	585	143	728
死傷状況等	死 者 数	(人)	2(0)	2(0)	89	30	95(0)	34(0)	129(0)
	重 傷 者 数	(人)	2(0)	4(0)	85	22	96(2)	42(6)	138(8)
	軽 傷 者 数	(人)	0(0)	3(0)	217	56	316(50)	107(12)	423(62)
	計	(人)	4(0)	9(0)	391	108	507(52)	183(18)	690(70)

(注) 死傷状況等における () 内数値は、乗客が死傷した人数を示す。

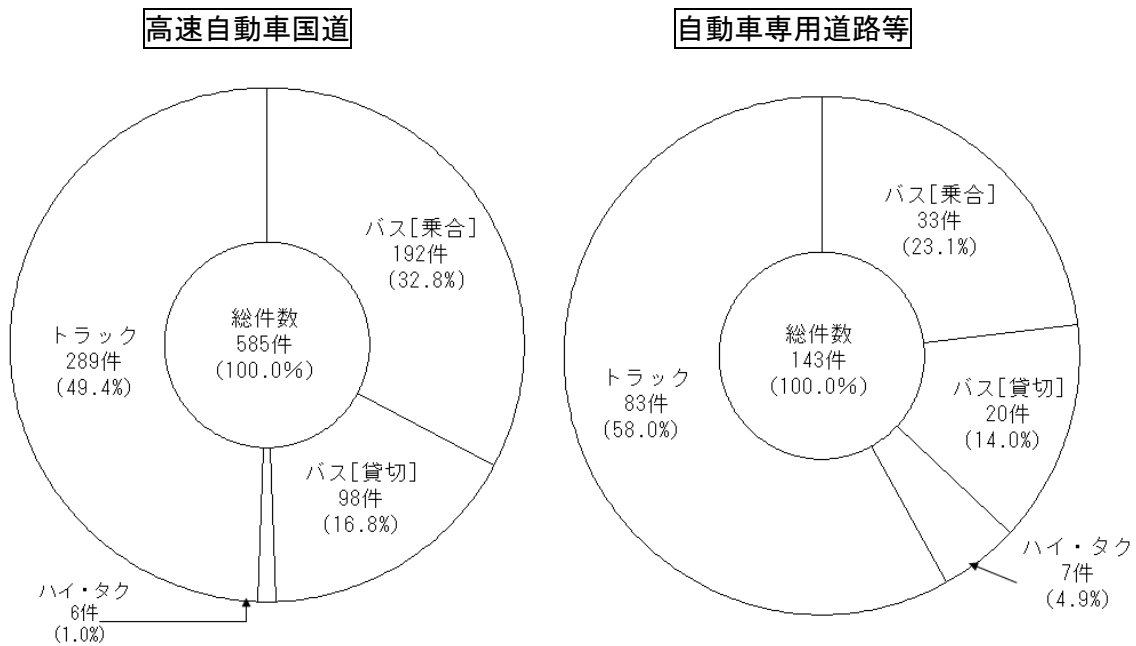
(1) 業態別重大事故件数

高速自動車国道及び自動車専用道路等における業態別重大事故件数は図7-1（平成19年中）及び図7-2（平成20年中）に示すとおりである。

〔図7-1〕 平成19年中の業態別重大事故件数



〔図7-2〕 平成20年中の業態別重大事故件数



(2) 事故種類別重大事故発生状況

高速自動車国道及び自動車専用道路等における事故種類別重大事故発生状況は表7-3（平成19年中）及び表7-4（平成20年中）に示すとおりである。

〔表7-3〕 平成19年中の事故種類別重大事故発生状況

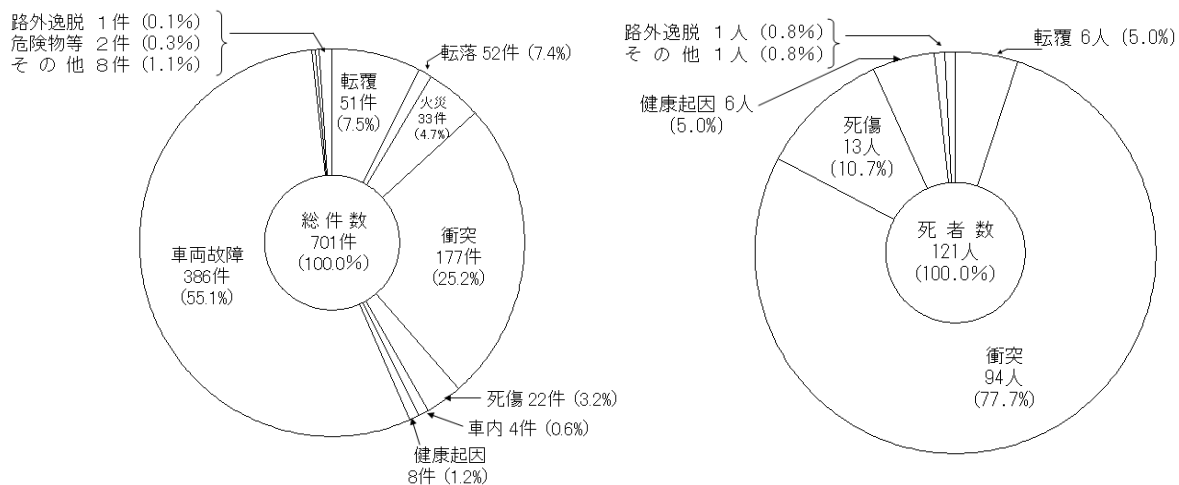
項目 事故種類	高速自動車国道				自動車専用道路等			
	件数	死者	重傷	軽傷	件数	死者	重傷	軽傷
転覆	52	6	5	22	13	0	2	9
転落	8	0	0	6	2	0	0	0
火災	33	0	0	0	8	0	1	2
衝突	177	94	104	317	61	32	34	134
死傷	23	13	12	5	14	10	4	4
車内	5	0	1	8	4	0	1	7
健康起因	6	3	1	0	2	0	0	9
車両故障	386	0	1	3	47	0	0	0
路外逸脱	1	1	0	0	1	1	0	0
危険物等	2	0	0	0	1	0	0	2
その他	8	0	1	17	4	0	0	13
計	701	117	125	378	157	43	42	180

〔表7-4〕 平成20年中の事故種類別重大事故発生状況

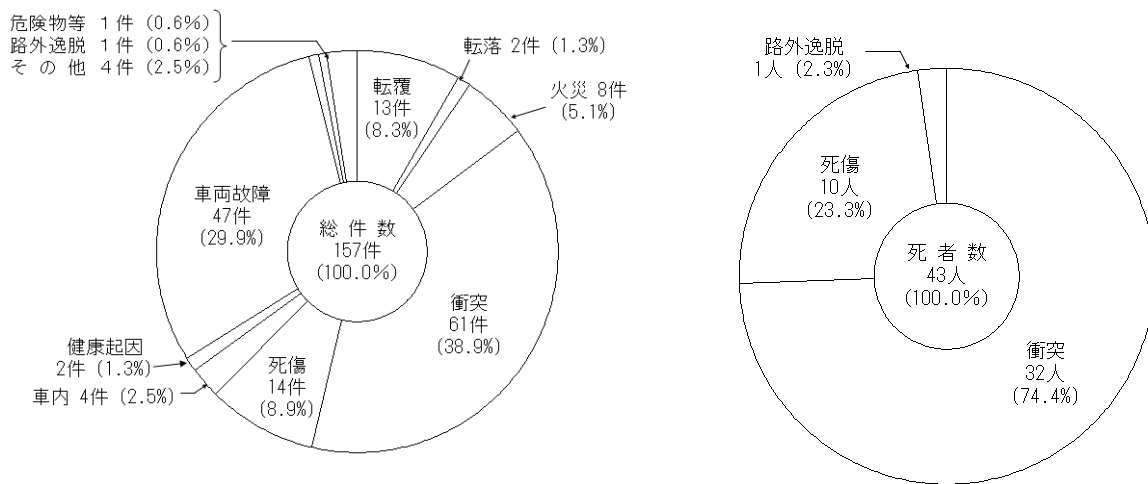
項目 事故種類	高速自動車国道				自動車専用道路等			
	件数	死者	重傷	軽傷	件数	死者	重傷	軽傷
転覆	39	1	8	27	17	1	2	10
転落	4	0	1	2	3	0	1	2
火災	32	2	0	3	9	2	0	0
衝突	142	65	72	200	40	21	27	81
死傷	30	22	11	17	12	10	5	2
車内	5	0	2	50	4	0	6	12
健康起因	9	1	1	2	1	0	1	0
車両故障	314	0	0	2	55	0	0	0
路外逸脱	5	2	1	0	0	0	0	0
危険物等	1	0	0	1	0	0	0	0
その他	4	2	0	12	2	0	0	0
計	585	95	96	316	143	34	42	107

〔図7-3〕 平成19年中の事故種別別重大事故発生状況

高速自動車国道

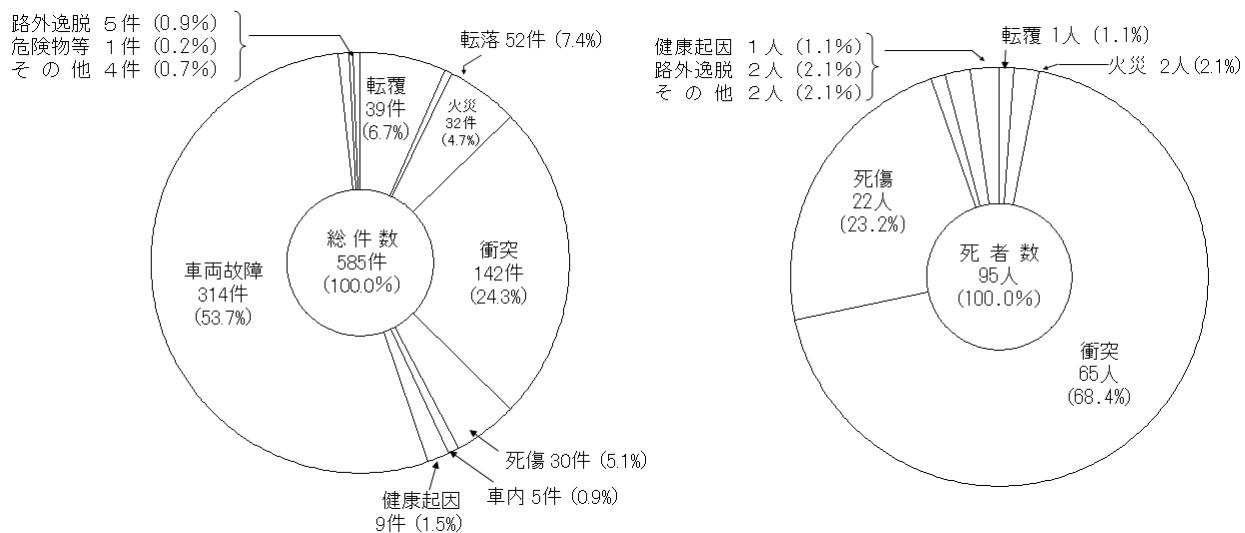


自動車専用道路等

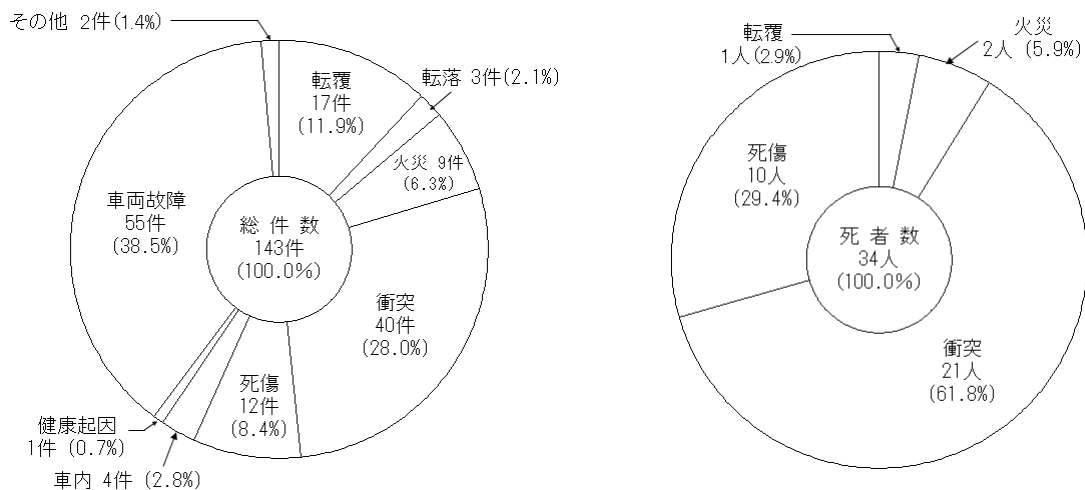


〔図7-4〕 平成20年中の事故種別別重大事故発生状況

高速自動車国道



自動車専用道路等

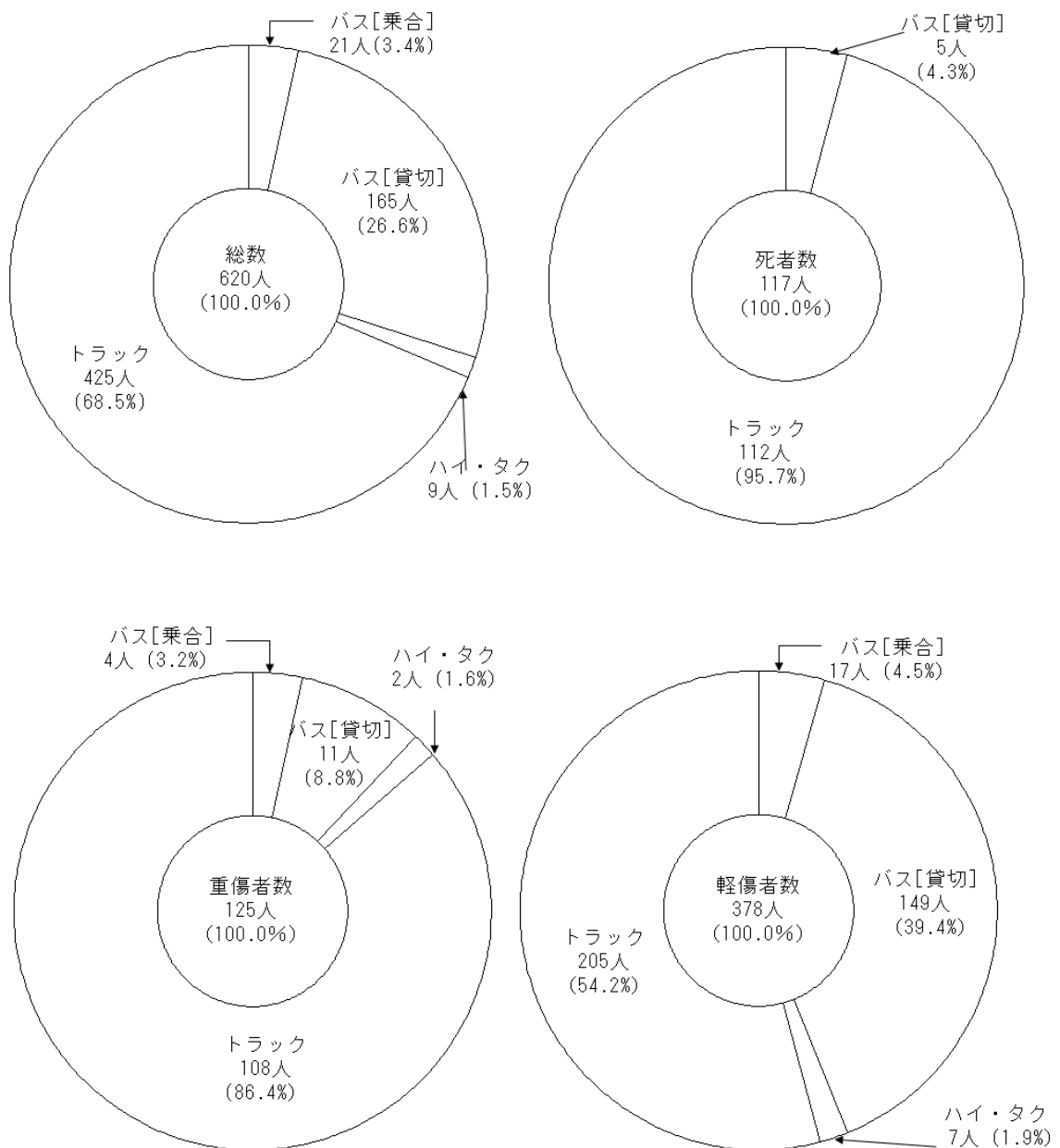


(3) 業態別死傷状況

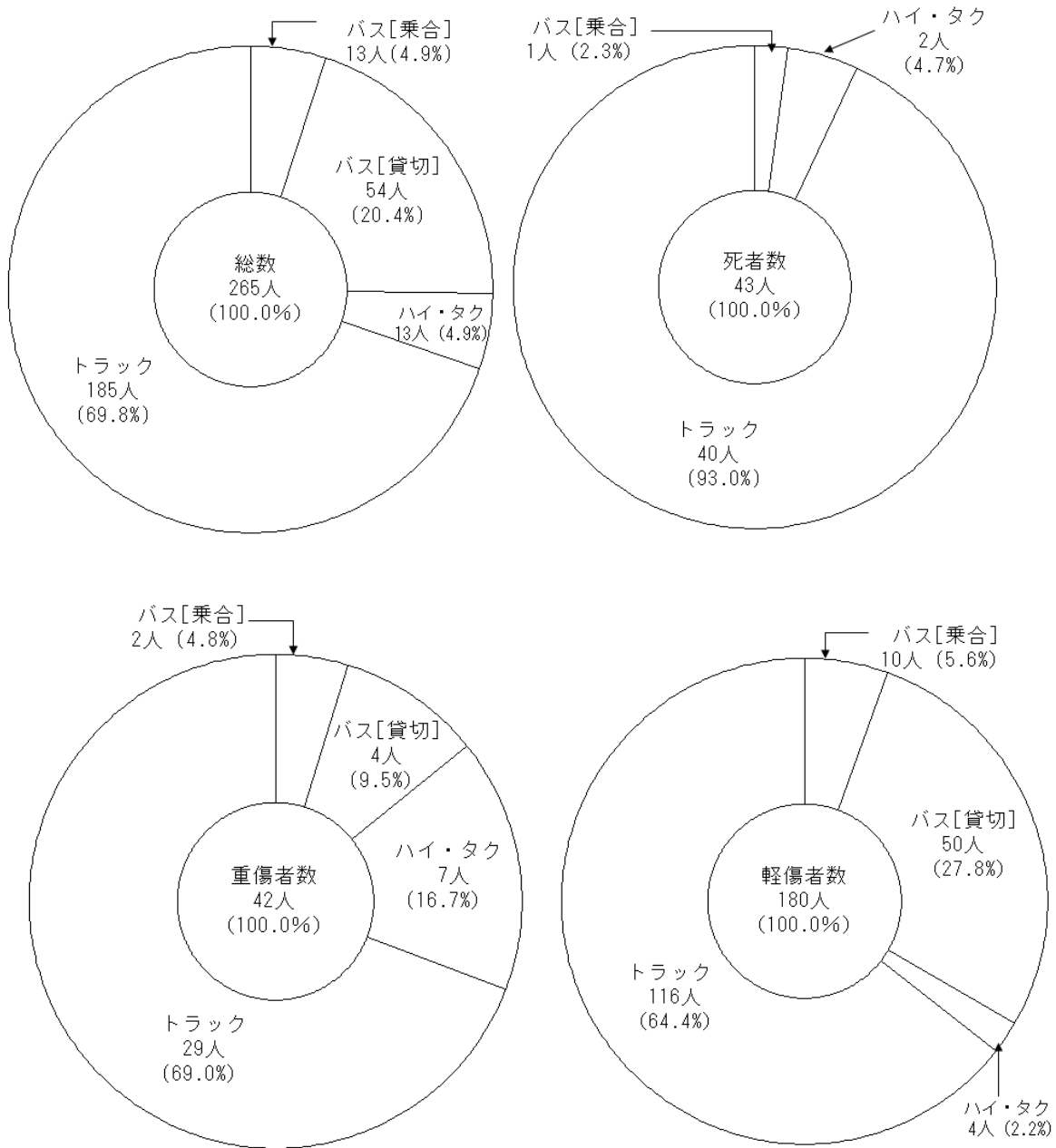
高速自動車国道及び自動車専用道路等における業態別重大事故の死傷状況は図7-5 (平成19年中) 及び図7-6 (平成20年中) に示すとおりである。

〔図7-5〕 平成19年中の業態別死傷状況

高速自動車国道

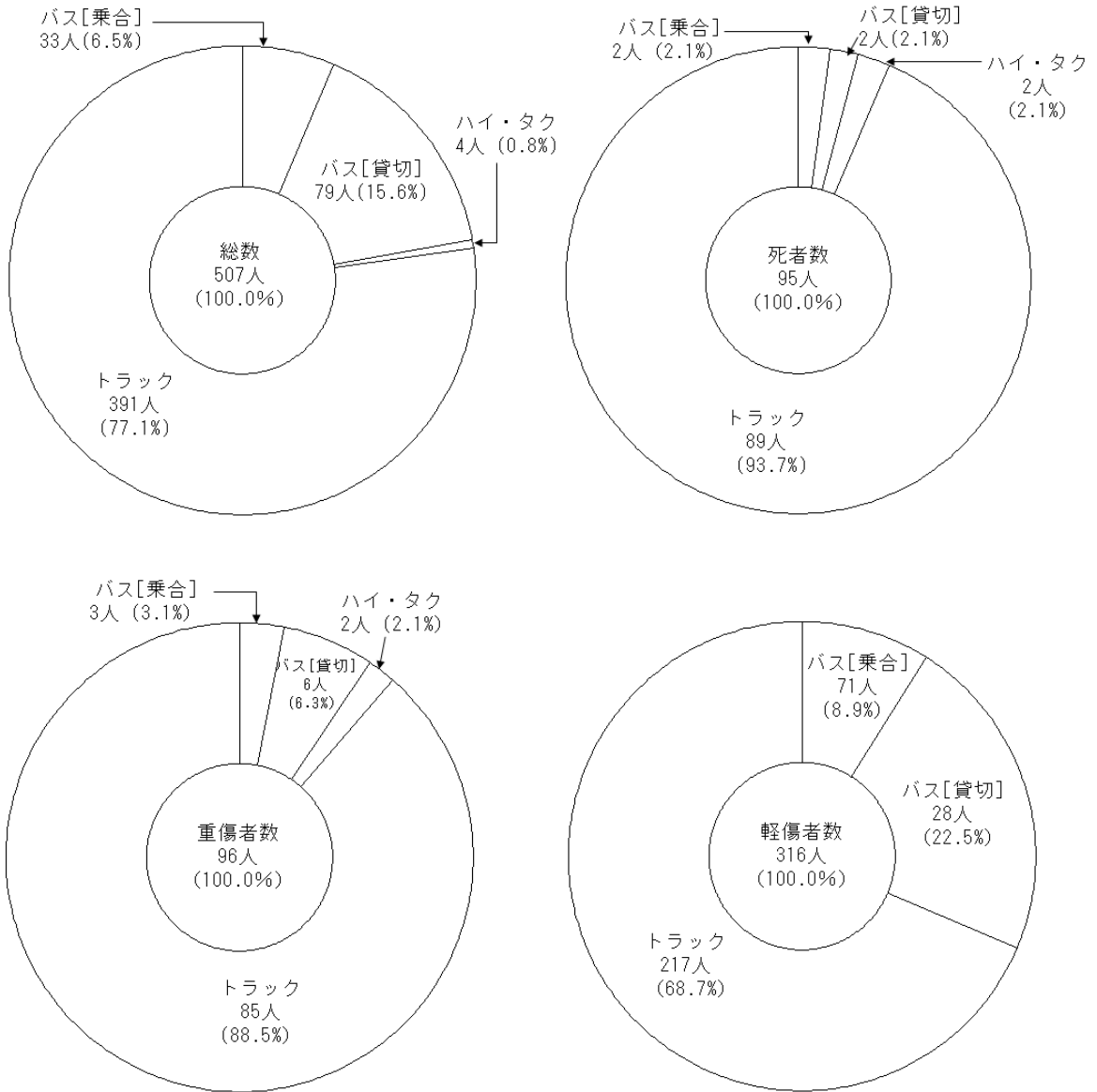


自動車専用道路等

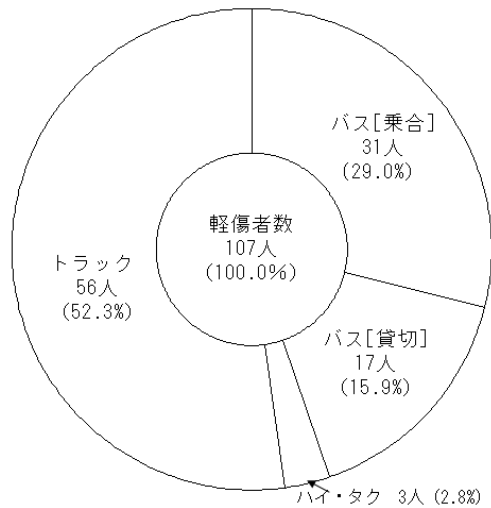
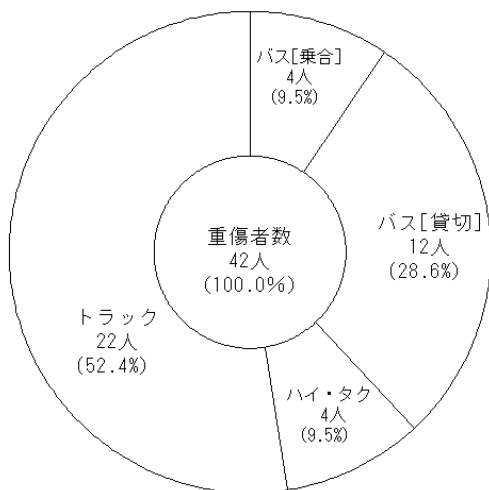
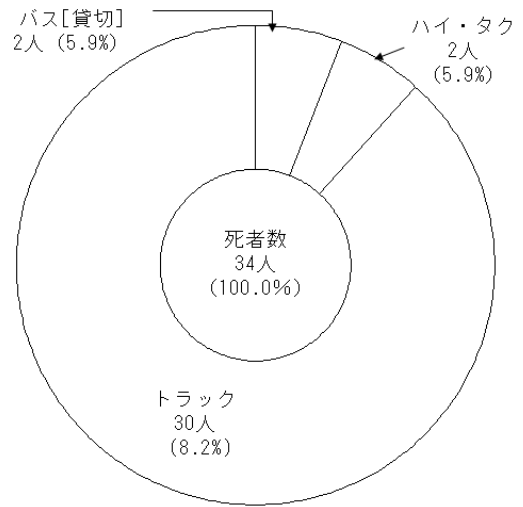
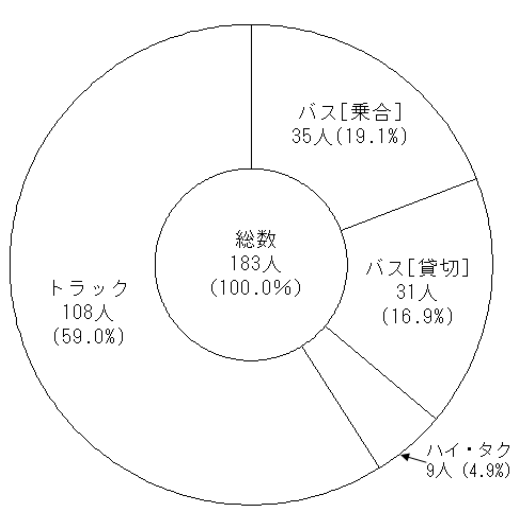


〔図7-6〕 平成20年中の業態別死傷状況

高速自動車国道



自動車専用道路等



(4) 乗務員に起因する重大事故発生状況

(ア) 業態別発生状況

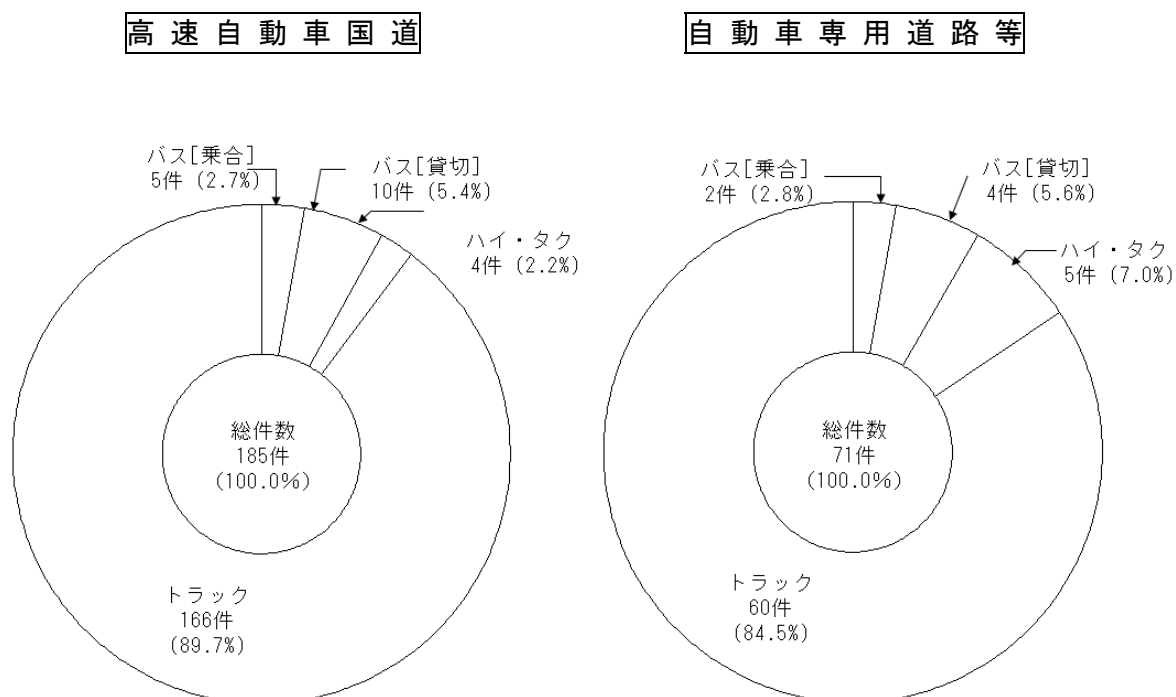
高速自動車国道及び自動車専用道路等における業態別の発生状況は、表7-5、図7-7（平成19年中）及び表7-6、図7-8（平成20年中）に示すとおりである。

〔表7-5〕 平成19年中の乗務員に起因する業態別重大事故発生状況

項 目		業 態		ハイ・タク	トラック	合計
		乗合	貸切			
重大事故件数 (件)		7	14	9	226	256
死傷状況等	死者数 (人)	0(0)	4(0)	1(0)	80	85(0)
	重傷者数 (人)	3(0)	11(1)	7(0)	98	119(1)
	軽傷者数 (人)	17(1)	183(11)	9(0)	220	429(12)
	計 (人)	27(1)	212(12)	26(0)	624	889(13)

(注) 死傷状況等における () 内数値は、乗客が死傷した人数を示す。

〔図7-7〕 乗務員に起因する業態別重大事故件数

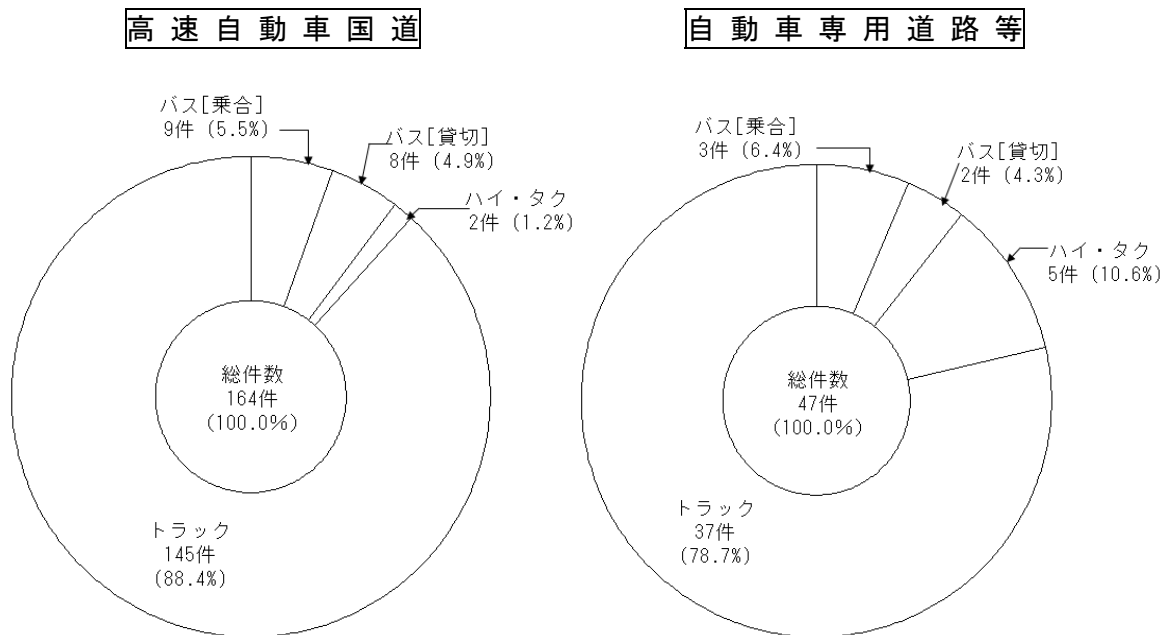


〔表 7-6〕 平成 20 年中の乗務員に起因する業態別重大事故発生状況

業 態 項 目		バス		ハイ・タク	トラック	合計
		乗合	貸切			
重大事故件数 (件)		12	10	7	182	211
死傷状況等	死者数 (人)	0(0)	0(0)	2(0)	64	66(0)
	重傷者数 (人)	5(3)	4(0)	5(0)	72	86(3)
	軽傷者数 (人)	39(1)	59(47)	3(0)	185	286(48)
	計 (人)	56(4)	73(47)	17(0)	503	649(51)

(注) 死傷状況等における () 内数値は、乗客が死傷した人数を示す。

〔図 7-8〕 乗務員に起因する業態別重大事故件数



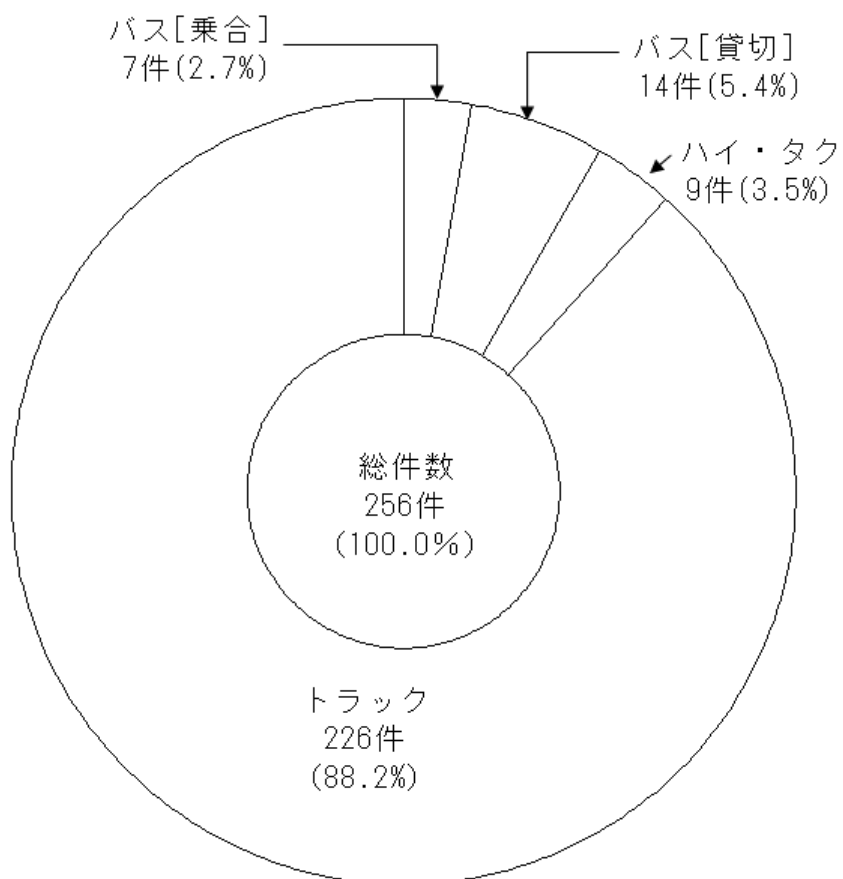
(イ) 事業の種類別発生状況

高速自動車国道及び自動車専用道路等における乗務員に起因する事業の種類別重大事故発生状況は、表7-7、図7-9（平成19年中）及び表7-8、図7-10（平成20年中）に示すとおりである。

〔表7-7〕 平成19年中の事業の種類別重大事故件数

事業の種類		高速自動車国道	自動車専用道路等	計
バス	乗合	5	2	7
	貸切	10	4	14
ハイタク		4	5	9
トラック		166	60	226
計		185	71	256

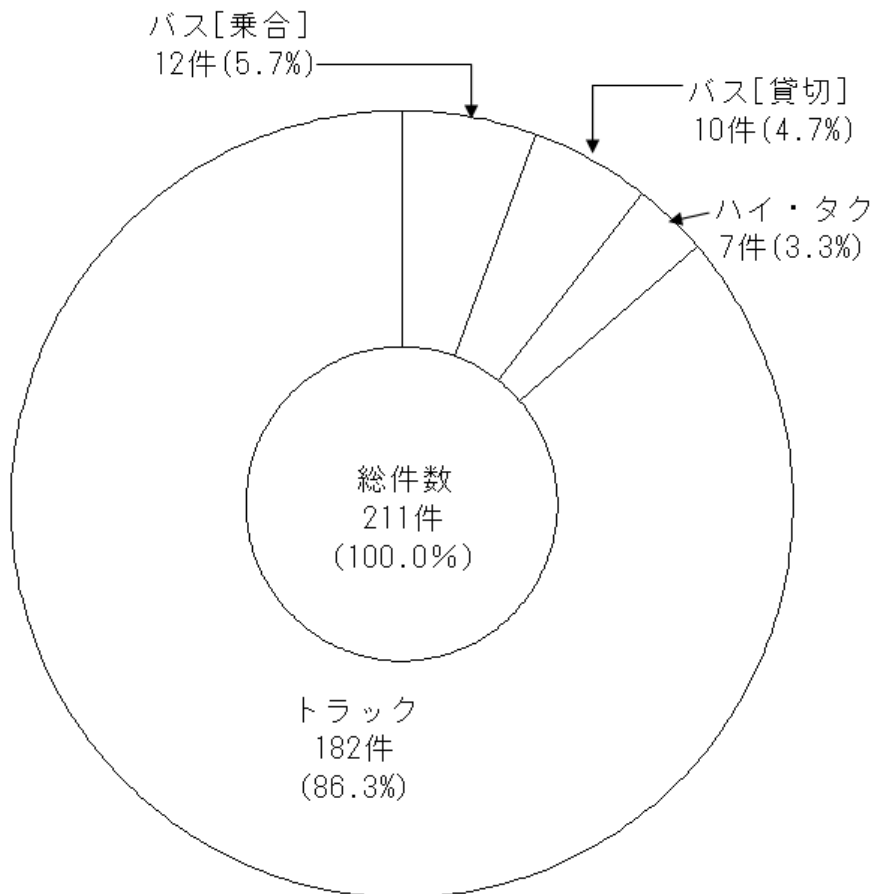
〔図7-9〕 平成19年中の事業の種類別重大事故件数



〔表7-8〕 平成20年中の事業の種類別重大事故件数

事業の種類		高速自動車国道	自動車専用道路等	計
バス	乗合	9	3	12
	貸切	8	2	10
ハイタク		2	5	7
トラック		145	37	182
計		164	47	211

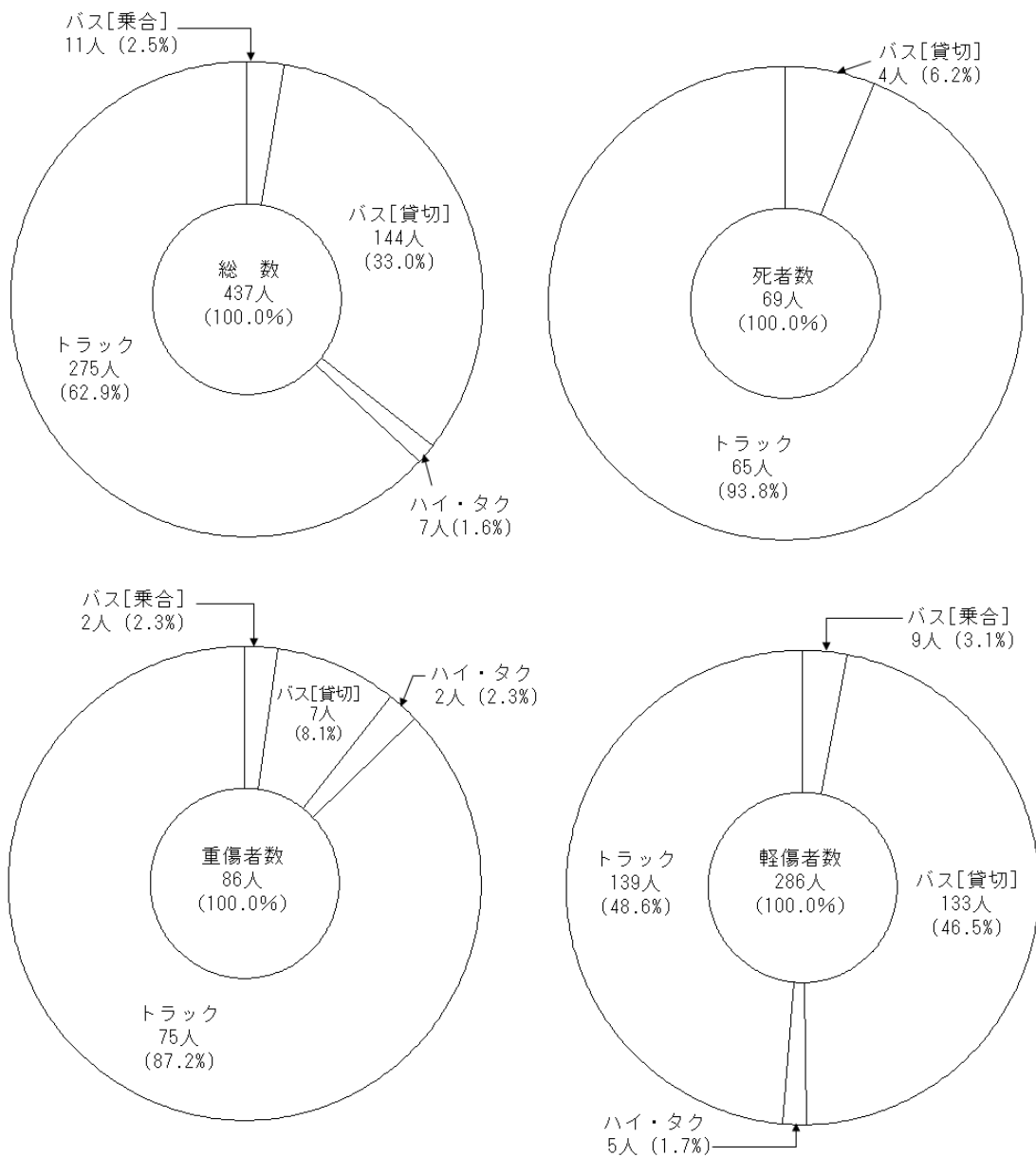
〔図7-10〕 平成20年中の事業の種類別重大事故件数



〔表 7-9〕 平成 19 年中の高速自動車国道における事業の種類別死傷者内訳

事業の種類		死者	重傷	軽傷	計
バス	乗合	0	2	9	11
	貸切	4	7	133	144
ハイ・タク		0	2	5	7
トラック		61	75	139	275
計		65	86	286	437

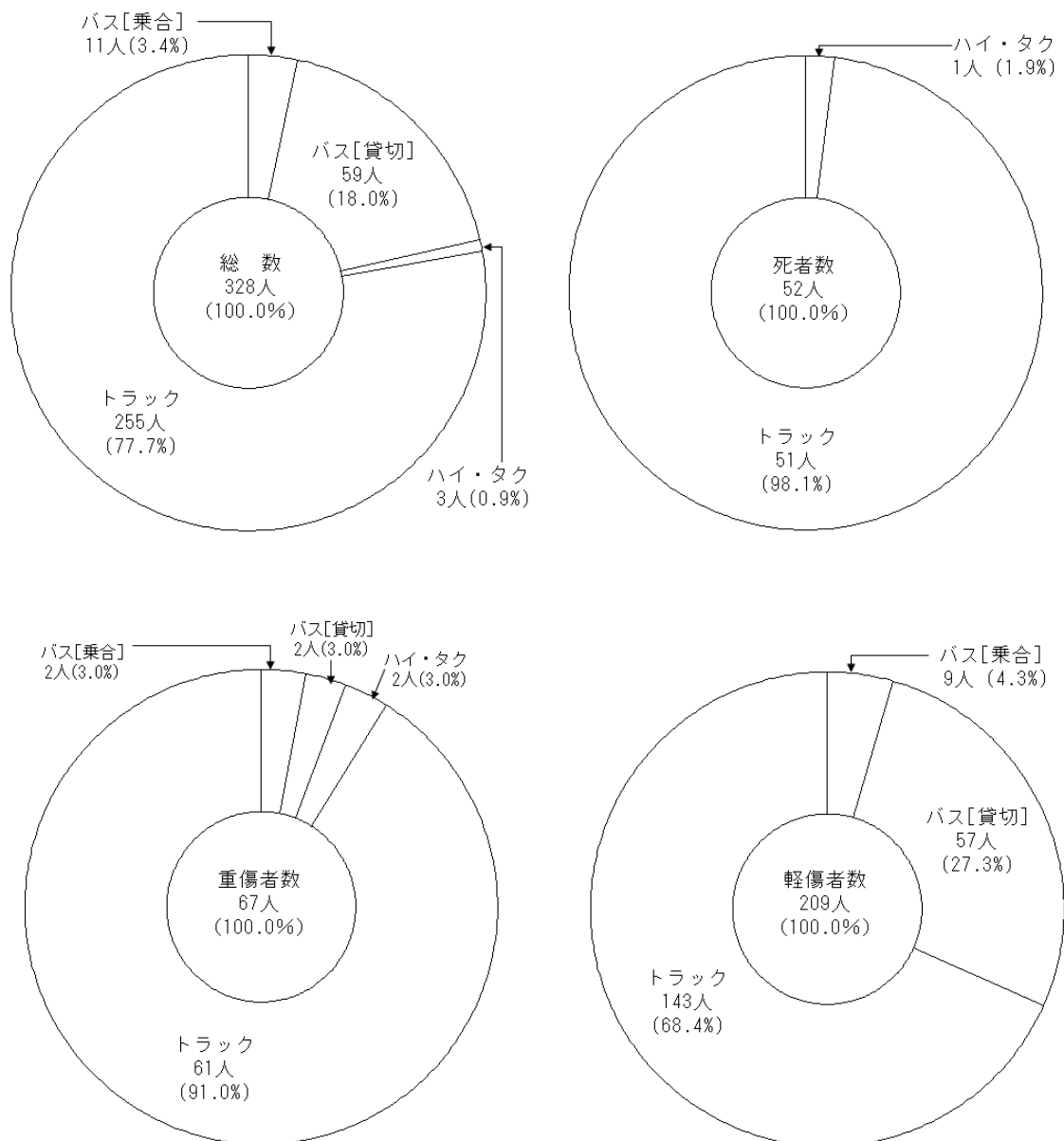
〔図 7-11〕 平成 19 年中の高速自動車国道における業態別死傷者内訳



〔表 7-10〕 平成 20 年中の高速自動車国道における事業の種類別死傷者内訳

事業の種類		死者	重傷	軽傷	計
バス	乗合	0	2	9	11
	貸切	0	2	57	59
ハイ・タク		1	2	0	3
トラック		51	61	143	255
計		52	67	209	328

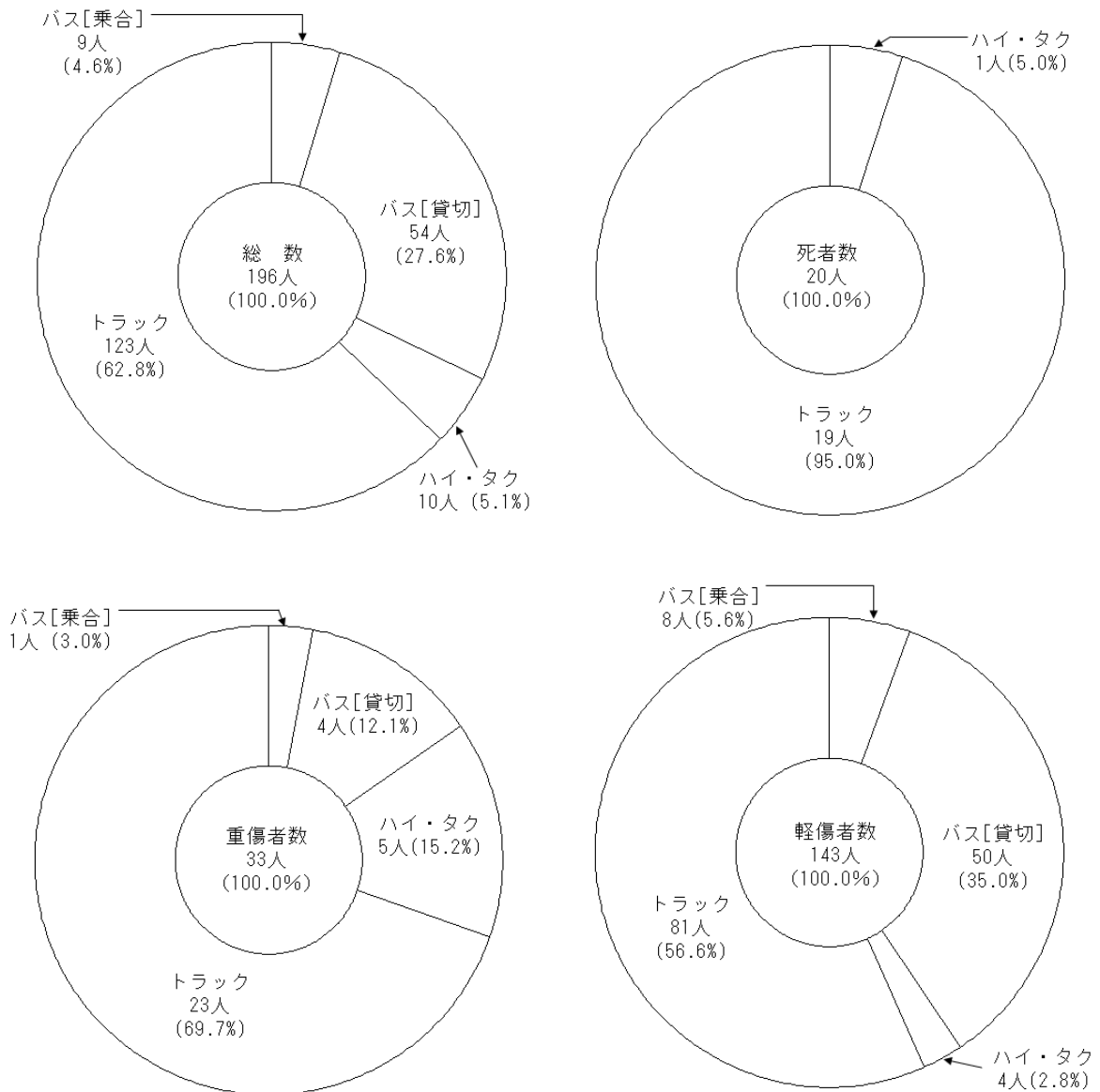
〔図 7-12〕 平成 20 年中の高速自動車国道における業態別死傷者内訳



〔表7-11〕 平成19年中の自動車専用道路等における事業の種類別死傷者内訳

事業の種類		死者	重傷	軽傷	計
バス	乗合	0	1	8	9
	貸切	0	4	50	54
ハイ・タク		1	5	4	10
トラック		19	23	81	123
計		20	33	143	196

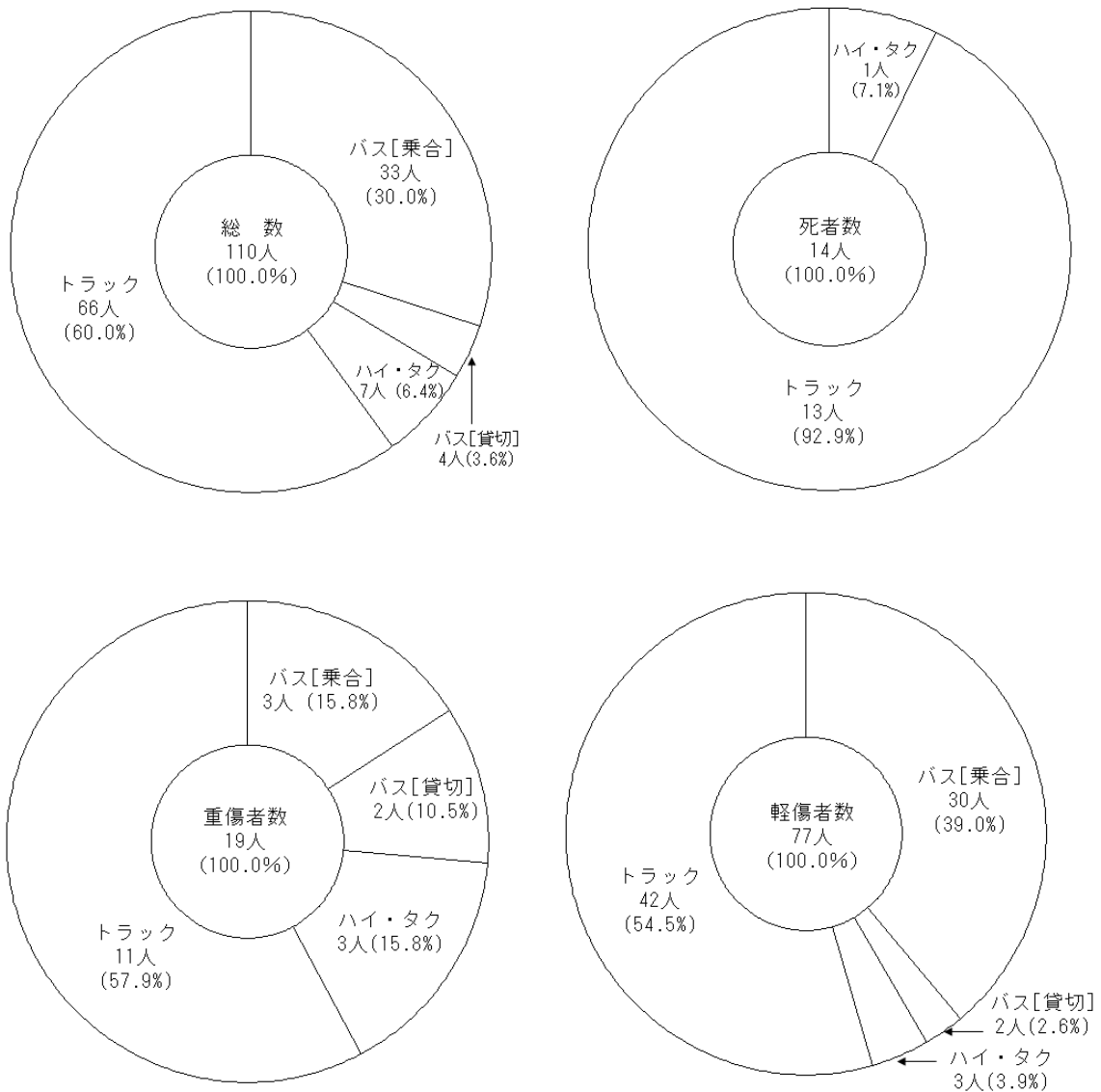
〔図7-13〕 平成19年中の自動車専用道路等における業態別死傷者内訳



〔表 7-12〕 平成 20 年中の自動車専用道路等における事業の種類別死傷者内訳

事業の種類		死者	重傷	軽傷	計
バス	乗合	0	3	30	33
	貸切	0	2	2	4
ハイ・タク		1	3	3	7
トラック		13	11	42	66
計		14	19	77	110

〔図 7-14〕 平成 20 年中の自動車専用道路等における業態別死傷者内訳



(ウ) 事故種類別発生状況

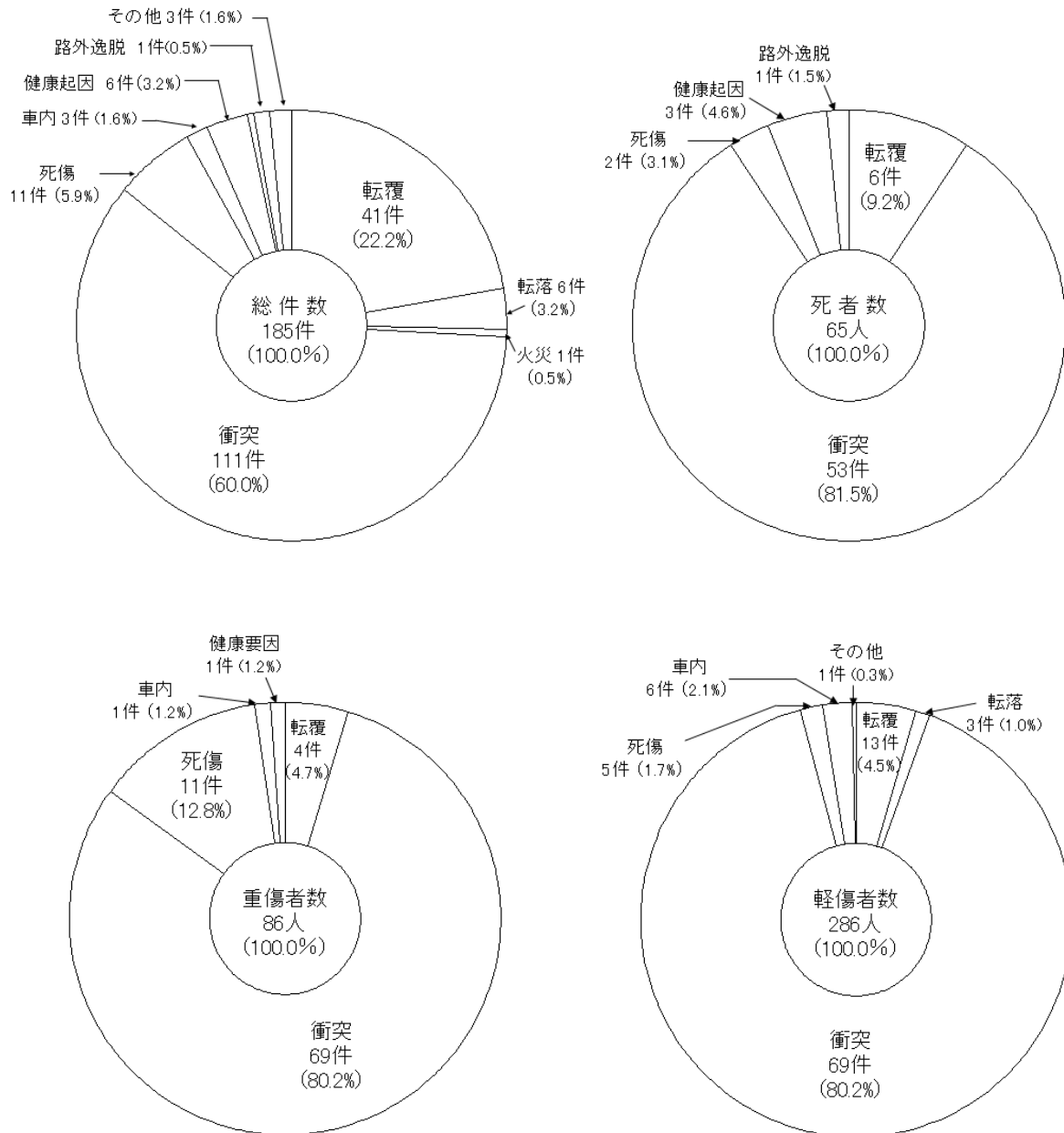
高速自動車国道及び自動車専用道路等における乗務員に起因する重大事故発生状況を事故種類別にみると、表7-13、図7-15（平成19年中）及び表7-14、図7-16（平成20年中）に示すとおりである。

[表7-13] 平成19年中の事故種類別重大事故発生状況

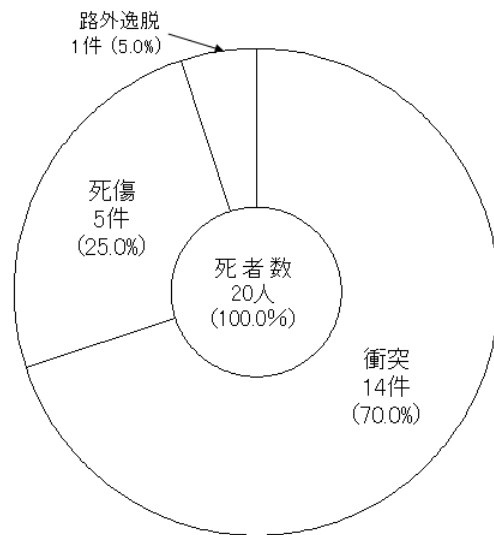
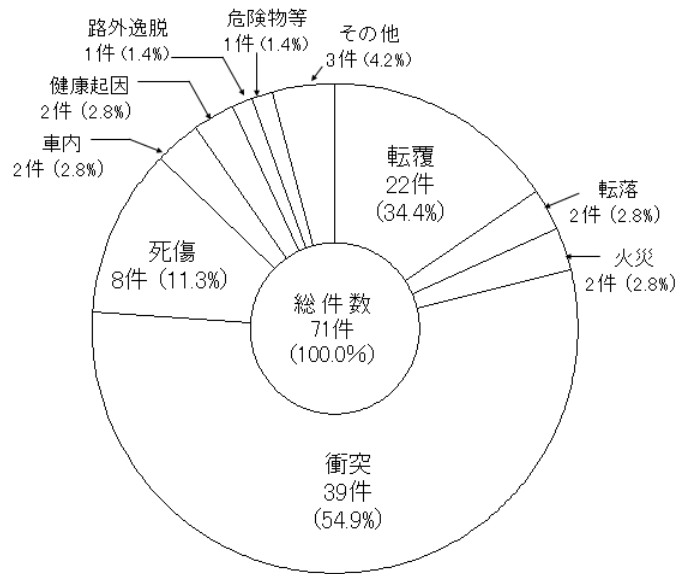
事故種類	項目	高速自動車国道				自動車専用道路等			
		件数	死者	重傷	軽傷	件数	死者	重傷	軽傷
転覆		41	6	4	13	11	0	2	6
転落		6	0	0	3	2	0	0	0
火災		1	0	0	0	2	0	1	2
衝突		111	53	69	258	39	14	27	105
死傷		11	2	11	5	8	5	3	3
車内		3	0	1	6	2	0	0	6
健康起因		6	3	1	0	2	0	0	9
車両故障		0	0	0	0	0	0	0	0
路外逸脱		1	1	0	0	1	1	0	0
危険物等		2	0	0	0	1	0	0	2
その他		3	0	0	1	3	0	0	10
計		185	65	86	286	71	20	33	143

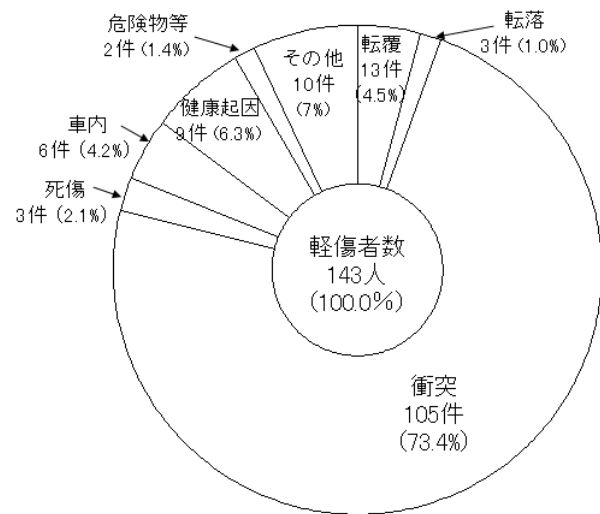
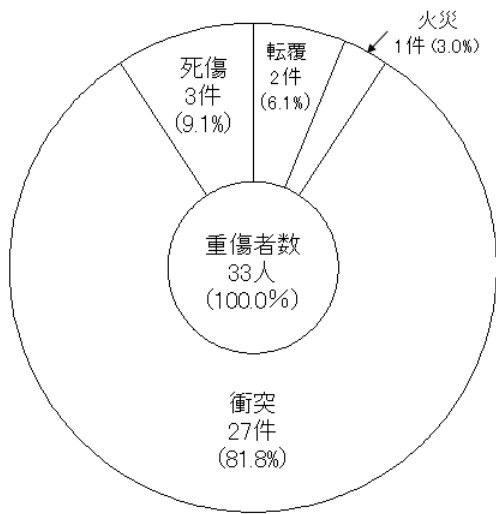
〔図7-15〕 平成19年中の事故種類別重大事故発生状況

高速自動車国道



自動車専用道路等



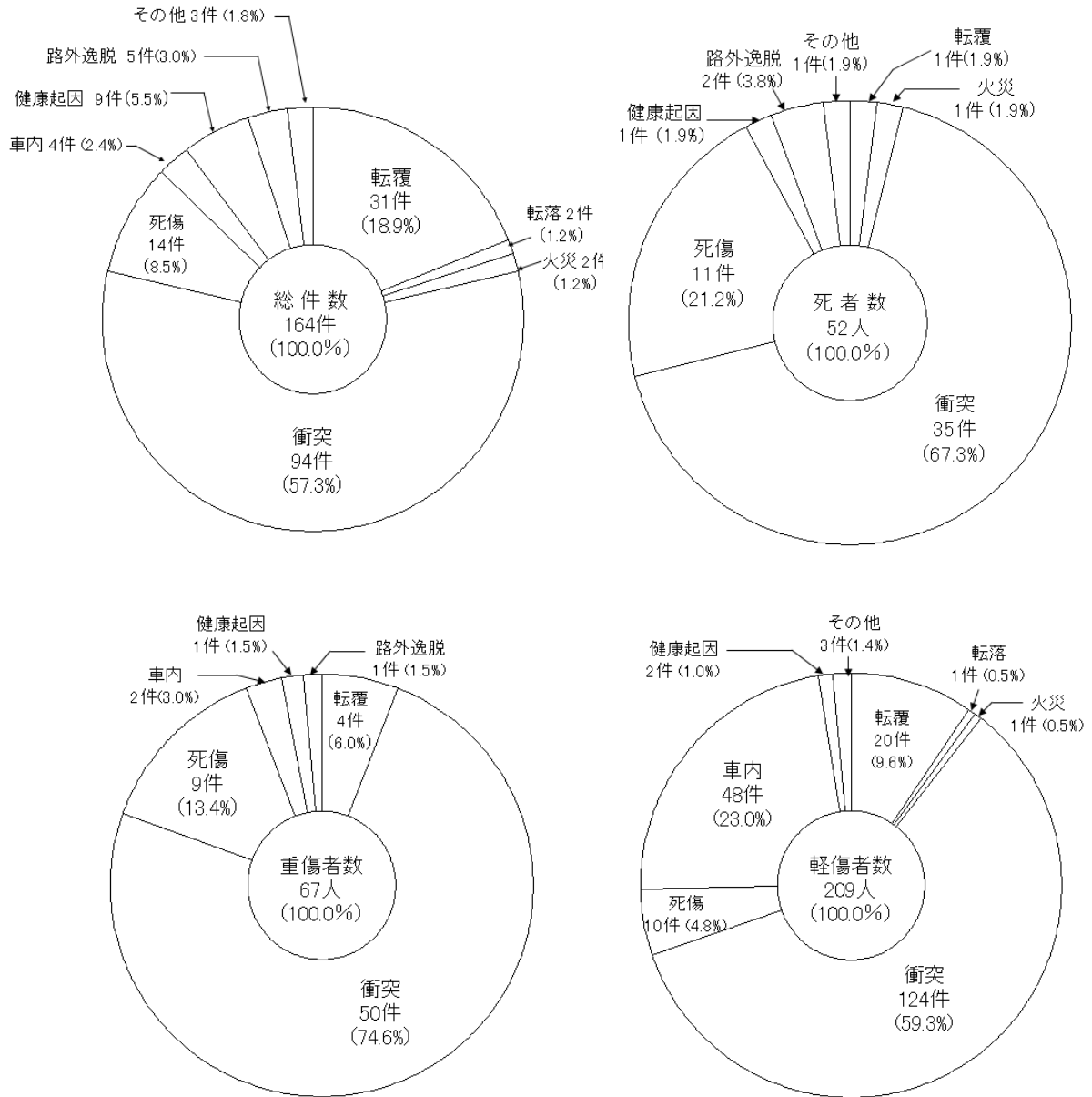


[表7-14] 平成20年中の事故種別別重大事故発生状況

事故種類	項目	高速自動車国道				自動車専用道路等			
		件数	死者	重傷	軽傷	件数	死者	重傷	軽傷
転覆		31	1	4	20	13	1	1	8
転落		2	0	0	1	3	0	1	2
火災		2	1	0	1	1	2	0	0
衝突		94	35	50	124	20	7	12	67
死傷		14	11	9	10	6	4	3	0
車内		4	0	2	48	1	0	1	0
健康起因		9	1	1	2	1	0	1	0
車両故障		0	0	0	0	0	0	0	0
路外逸脱		5	2	1	0	0	0	0	0
危険物等		0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	1	0	3	2	0	0	0
計		164	52	67	209	47	14	19	77

〔図 7-16〕 平成 20 年中の事故種類別重大事故発生状況

高速自動車国道



自動車専用道路等

